

外国語学部 国際関係学科 (2020年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■必修科目	教職論	1学期	1	2	1
	EDU111M 楠 凡之	1年			
	教育原理	1学期	1	2	2
	EDU110M 児玉 弥生	1年			
	教育心理学	2学期	1	2	3
	PSY120M 山下 智也	1年			
	教育社会学	1学期	2	2	4
	EDU223M 恒吉 紀寿	2年			
	教育課程論	2学期	2	2	5
	EDU260M 児玉 弥生	2年			
	英語科教育法I	1学期	2	2	6
	EDU250C 森 千鶴	2年			
	英語科教育法II	2学期	2	2	7
	EDU251C 森 千鶴	2年			
	英語科教育法III	1学期	3	2	8
	EDU252C 未開講	3年			
	英語科教育法IV	2学期	3	2	9
	EDU253C 未開講	3年			
	社会科教育法I	1学期	2	2	8
	EDU240C 下地 貴樹	2年			
社会科教育法II	2学期	2	2	9	
EDU241C 吉村 義則	2年				
社会科教育法III	1学期	3	2	8	
EDU242C 未開講	3年				
社会科教育法IV	2学期	3	2	9	
EDU243C 未開講	3年				
公民科教育法A	1学期	3	2	8	
EDU244C 未開講	3年				
公民科教育法B	2学期	3	2	9	
EDU245C 未開講	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■必修科目	道徳教育指導論 EDU264M 船原 将太	2学期	2	2	10
		2年			
	教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法 EDU160M 下地 貴樹	2学期	1	2	11
		1年			
	教育相談 EDU261M 山下 智也	1学期	2	2	12
		2年			
	教育実習 1 EDU380C 未開講	2学期	3	2	
		3年			
	教育実習 2 EDU480C 未開講	1学期	4	2	
		4年			
教育実習 3 EDU481C 未開講	1学期	4	2		
	4年				
教職実践演習(中・高) EDU490C 未開講	2学期	4	2		
	4年				
特別支援教育論 EDU263M 楠 凡之	1学期	2	2	13	
	2年				
■選択科目	発達心理学 PSY220M 税田 慶昭	1学期	2	2	14
		2年			
	障害児の心理と指導 PSY221M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	人権教育論 EDU222M 河嶋 静代	1学期	2	2	15
	2年				
生涯学習学 EDU220M 休講	1学期	2	2		
	2年				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	日本史 古賀 康士	2学期	1	2	16
		1年			
	東洋史 植松 慎悟	2学期	1	2	17
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	18
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	人文地理学 外戸保 大介	2学期	1	2	19
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	20
		1年			
	地誌学 外戸保 大介	1学期	1	2	21
		1年			
日本国憲法 中村 英樹	2学期	1	2	22	
	1年				
教育とコンピューター 浅羽 修丈	2学期	2	2	23	
	2年				
■地域科目	地域特講A (現代社会と新聞ジャーナリズム) SPL101F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	地域特講B SPL201F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	24
		1年			
	地域の社会と経済 ECN170F 柳 永珍	1学期	1	2	25
		1年			
	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	26
		1年			
	地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期	1	2	27
		1年			
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	1	2	28
		1年			
	地域と国際 RDE003F 吉村 英俊	1学期	1	2	29
	1年				
地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	30	
	1年				
北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	31	
	2年				

外国語学部 国際関係学科 (2020年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■地域科目	まなびと企業研究I CAR270F 小林 敏樹	2学期	2	2	32
	2年				
	まなびと企業研究II CAR370F 未開講	1学期	3	2	
	3年				
■環境科目	環境特講A SPL102F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	環境特講B (現代社会とエシカル消費) SPL202F 大平 剛	1学期	1	2	33
	1年				
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	34
	1年				
	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	35
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	36
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	37
	1年				
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	38
	1年				
動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	39	
1年					
自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	40	
1年					
生命科学入門 BIO200F 日高 京子	2学期	1	2	41	
1年					
環境ESD入門 ENV102F 石川 敬之	2学期	1	2	42	
1年					
■世界(地球)科目	世界(地球)特講A(テロリズム論) SPL103F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	43
	1年				
	世界(地球)特講B SPL203F 休講	2学期	1	2	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■世界(地球)科目	韓国の社会と文化 ARE010F 金 貞愛	2学期	1	2	44
		1年			
	国際学入門 IRL110F 伊野 憲治	2学期	1	2	45
		1年			
	安全保障論 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	46
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	47
		1年			
	近代史入門 PLS110F 小林 道彦	2学期	1	2	48
		1年			
Japanese Culture and Society ARE221F ロジャー・ウィリアムソン	2学期	2	2	49	
	2年				
English Speaking Cultures and Societies ARE231F ローズマリー・リーダー	2学期	2	2	50	
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	51	
	2年				
可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	52	
	2年				
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 浅羽 修丈	1学期	1	2	53
		国1-1・国1-2			
	アカデミック・スキルズI GES101F 中尾 泰士	1学期	1	2	54
		国1-3・国1-4			
	アカデミック・スキルズI GES101F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	55
		1学期未修得者再履			
	アカデミック・スキルズII(論理的に生きる) GES102F 中尾 泰士	2学期	1	2	56
	1年				
アカデミック・スキルズII(思考と推論) GES102F 浅羽 修丈	2学期	1	2	57	
	1年				
アカデミック・スキルズII(レポートを書くために) GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	58	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の技法科目	アカデミック・スキルズII (ソーシャルメディアと思考法) GES102F 浅羽 修丈	2学期	1	2	59
		1年			
	アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) GES102F 永末 康介	2学期	1	2	60
		1年			
	アカデミック・スキルズII (教養を磨く『新聞のちから』) GES102F 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介	2学期	1	2	61
		1年			
	知の技法特講A (知識創造論) SPL104F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	知の技法特講B SPL204F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	62
		1年			
法への誘い LAW001F 中村 英樹 他	2学期	1	2	63	
	1年				
コンピューターリテラシー INF101F 古川 洋章	2学期	1	1	64	
	1年				
データ分析 INF201F 浅羽 修丈	2学期	2	2	65	
	2年				
データ分析 INF201F 佐藤 貴之	2学期	2	2	66	
	2年				
データ分析 INF201F 古川 洋章	2学期	2	2	67	
	2年				
■知の創造科目	知の創造特講A SPL105F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	知の創造特講B (戦後の日本経済) SPL205F 土井 徹平	2学期	1	2	68
		1年			
社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	69	
	1年				
ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	70	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の創造科目	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	71
	1年				
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	2学期	1	2	72
	1年				
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	73
	1年				
	社会哲学入門 PHR110F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	文化を読む LIT001F 佐藤 真人 他	1学期	1	2	74
	1年				
	芸術と人間 PHR006F 真武 真喜子	2学期	1	2	75
	1年				
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	76
	1年				
情報表現 INF230F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	77	
1年					
倫理思想史 PHR005F 未定	2学期	1	2	78	
1年					
言語・認知・コミュニケーション LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	79	
2年					
戦争論 PLS210F 戸蔭 仁司	2学期	2	2	80	
2年					
■共生と協働科目	共生と協働特講A SPL106F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	共生と協働特講B SPL206F 休講	2学期	1	2	
	1年				
異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	81	
1年					
人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	82	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■共生と協働科目	ジェンダー論 GEN001F カ武 由美	1学期	1	2	83
	1年				
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	84
	1年				
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	85
	1年				
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	86
	1年				
	地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	87
	1年				
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	88
	1年				
	共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	89
	2年				
	基盤演習I (防衛セミナー) GES201F 休講	1学期	2	2	
	2年				
	基盤演習I (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	90
	2年				
	基盤演習I GES201F 小林 道彦	1学期	2	2	91
	2年				
基盤演習I GES201F 稲月 正	1学期	2	2	92	
2年					
基盤演習I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	93	
2年					
基盤演習II (文化論セミナー) GES202F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	94	
2年					
基盤演習II (防衛セミナー) GES202F 休講	集中	2	2		
2年					
基盤演習II GES202F 小林 道彦	2学期	2	2	95	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■共生と協働科目	基盤演習II GES202F 稲月 正	2学期	2	2	96
		2年			
	基盤演習II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	97
		2年			
	基盤力応用 GES301F 未開講	2学期	3	2	
		3年			
■ライフ・デザイン科目	ライフ・デザイン特講A SPL107F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) SPL207F 二宮 正人 他	集中	1	2	98
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	99
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	100
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	101
		1年			
	メンタル・ヘルス PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	102
		1年			
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	103
		1年			
	フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	104
		1年			
フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	105	
	1年				
フィジカル・ヘルス HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	106	
	1年				
フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	107	
	1年				
フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	108	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	109
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 休講	1学期	1	1	
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	110
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 休講	1学期	1	1	
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 梨羽 茂	1学期	1	1	111
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	112
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 下釜 純子	1学期	1	1	113
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	114
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	115
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	116
		1年			
フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボ HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	117	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	118	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) HSS082F 松田 晃二郎	2学期	1	1	119	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	120	
	1年				
世界での学び方 CAR001F 二宮 正人 他	1学期	1	2	121	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	世界での学び方 CAR001F 二宮 正人 他	2学期	1	2	122
		1年			
	プロフェッショナルの仕事 CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	123
		2年			
	企業・団体の課題解決 CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	124
		2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English I (国1-A) ENG101F 葛西 宏信	1学期	1	1	125
		国1-A			
	Communicative English I (国1-B) ENG101F 永末 康介	1学期	1	1	126
		国1-B			
	Communicative English I (国1-C) ENG101F 相原 信彦	1学期	1	1	127
		国1-C			
	Communicative English II (国1-A) ENG111F 永末 康介	2学期	1	1	128
		国1-A			
	Communicative English II (国1-B) ENG111F 相原 信彦	2学期	1	1	129
		国1-B			
	Communicative English II (国1-C) ENG111F 十時 康	2学期	1	1	130
		国1-C			
	Communicative English III (国1-A) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	131
		国1-A			
	Communicative English III (国1-B) ENG102F マイケル・バーグ	1学期	1	1	132
		国1-B			
Communicative English III (国1-C) ENG102F デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	133	
	国1-C				
Communicative English IV (国1-A) ENG112F マイケル・バーグ	2学期	1	1	134	
	国1-A				
Communicative English IV (国1-B) ENG112F デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	135	
	国1-B				
Communicative English IV (国1-C) ENG112F クリスティン・マイスター	2学期	1	1	136	
	国1-C				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English V (国 2 C-A) ENG201F 木梨 安子	1学期	2	1	137
		国 2 C - A			
	Communicative English V (国 2 C-B) ENG201F 杉山 智子	1学期	2	1	138
		国 2 C - B			
	Communicative English VI (国 2 C-A) ENG211F 杉山 智子	2学期	2	1	139
		国 2 C - A			
	Communicative English VI (国 2 C-B) ENG211F 酒井 秀子	2学期	2	1	140
		国 2 C - B			
	Communicative English VII (国 2 C-A) ENG202F デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	141
		国 2 C - A			
	Communicative English VII (国 2 C-B) ENG202F マイケル・バーグ	1学期	2	1	142
		国 2 C - B			
	Communicative English VIII (国 2 C-A) ENG212F 薬師寺 元子	2学期	2	1	143
		国 2 C - A			
	Communicative English VIII (国 2 C-B) ENG212F 船方 浩子	2学期	2	1	144
		国 2 C - B			
Intermediate English I (国 2 年) ENG301F 相原 信彦	1学期	2	2	145	
	国 2 年				
Intermediate English II (国 2 年) ENG311F ダンカン・ウォトリイ	2学期	2	2	146	
	国 2 年				
Higher English I (2 H-A) ENG302F 休講	1学期	2	2		
	中国済営比人律政				
Higher English I (2 H-B) ENG302F 休講	1学期	2	2		
	中国済営比人律政				
Higher English II (2 H-A) ENG312F ダニー・ミン	2学期	2	2	147	
	中国済営比人律政				
Higher English II (2 H-B) ENG312F デビット・ニール・マクレラン	2学期	2	2	148	
	中国済営比人律政				
■第二外国語	中国語I CHN101F 板谷 秀子	1学期	1	1	149
		国 1 - A			

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語I		1学期	1	1	150
	CHN101F	板谷 俊生	国 1 - B			
	中国語I		1学期	1	1	151
	CHN101F	野村 和代	国 1 - C			
	中国語II		2学期	1	1	152
	CHN111F	板谷 秀子	国 1 - A			
	中国語II		2学期	1	1	153
	CHN111F	板谷 俊生	国 1 - B			
	中国語II		2学期	1	1	154
	CHN111F	野村 和代	国 1 - C			
	中国語III		1学期	1	1	155
	CHN102F	馮 戦兵	国 1 - A			
	中国語III		1学期	1	1	156
	CHN102F	王 晨	国 1 - B			
	中国語III		1学期	1	1	157
	CHN102F	葉 言材	国 1 - C			
	中国語IV		2学期	1	1	158
	CHN112F	馮 戦兵	国 1 - A			
	中国語IV		2学期	1	1	159
	CHN112F	王 晨	国 1 - B			
中国語IV		2学期	1	1	160	
CHN112F	葉 言材	国 1 - C				
中国語V		1学期	2	1	161	
CHN201F	野村 和代	国 2 - A				
中国語V		1学期	2	1	162	
CHN201F	板谷 秀子	国 2 - B				
中国語V		1学期	2	1	163	
CHN201F	板谷 俊生	国 2 - C				
中国語VI		2学期	2	1	164	
CHN211F	野村 和代	国 2 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語VI CHN211F 板谷 秀子	2学期	2	1	165
		国2 - B			
	中国語VI CHN211F 板谷 俊生	2学期	2	1	166
		国2 - C			
	中国語VII CHN202F 陳 青鳳	1学期	2	1	167
		国2 - A			
	中国語VII CHN202F 王 雲燕	1学期	2	1	168
		国2 - B			
	中国語VII CHN202F 王 晨	1学期	2	1	169
		国2 - C			
	中国語VIII CHN212F 陳 青鳳	2学期	2	1	170
		国2 - A			
	中国語VIII CHN212F 王 雲燕	2学期	2	1	171
		国2 - B			
	中国語VIII CHN212F 王 晨	2学期	2	1	172
		国2 - C			
	上級中国語I CHN301F 未開講	1学期	3	1	
		英国済営比人3年			
上級中国語II CHN311F 未開講	2学期	3	1		
	英国済営比人3年				
朝鮮語I KRN101F 金 光子	1学期	1	1	173	
	国1年				
朝鮮語II KRN111F 金 光子	2学期	1	1	174	
	国1年				
朝鮮語III KRN102F 金 光子	1学期	1	1	175	
	国1年				
朝鮮語IV KRN112F 金 光子	2学期	1	1	176	
	国1年				
朝鮮語V KRN201F 金 貞愛	1学期	2	1	177	
	国2年(学籍番号 奇数)				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語V KRN201F 金 光子	1学期	2	1	178
		国2年(学籍番号 偶数)			
	朝鮮語VI KRN211F 金 貞愛	2学期	2	1	179
		国2年(学籍番号 奇数)			
	朝鮮語VI KRN211F 金 光子	2学期	2	1	180
		国2年(学籍番号 偶数)			
	朝鮮語VII KRN202F 安 滌珠	1学期	2	1	181
		国2年(学籍番号 奇数)			
	朝鮮語VII KRN202F 金 惠媛	1学期	2	1	182
		国2年(学籍番号 偶数)			
	朝鮮語VIII KRN212F 安 滌珠	2学期	2	1	183
		国2年(学籍番号 奇数)			
	朝鮮語VIII KRN212F 金 惠媛	2学期	2	1	184
		国2年(学籍番号 偶数)			
	上級朝鮮語I KRN301F 未開講	1学期	3	1	
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語II KRN311F 未開講	2学期	3	1	
		英中国済営比人3年			
	ドイツ語I GRM101F 山下 哲雄	1学期	1	1	185
		英中国1年			
ドイツ語II GRM111F 山下 哲雄	2学期	1	1	186	
	英中国1年				
ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	187	
	英中国1年				
ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	188	
	英中国1年				
ドイツ語V GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	189	
	英中国済営比人律政2年				
ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	190	
	英中国済営比人律政2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	191
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	192
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	193
		英中国 1年			
	フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	194
		英中国 1年			
	フランス語III FRN102F 坂田 由紀	1学期	1	1	195
		英中国 1年			
	フランス語IV FRN112F 坂田 由紀	2学期	1	1	196
		英中国 1年			
	フランス語V FRN201F 坂田 由紀	1学期	2	1	197
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VI FRN211F 坂田 由紀	2学期	2	1	198
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VII FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	199
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VIII FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	200
		英中国済営比人律政 2年			
スペイン語I SPN101F 富田 広樹	1学期	1	1	201	
	中国済営比人律政 1年				
スペイン語II SPN111F 富田 広樹	2学期	1	1	202	
	中国済営比人律政 1年				
スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	203	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	204	
	中国済営人律政 1年				
スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	205	
	英中国済営比人律政 2年				

外国語学部 国際関係学科 (2020年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	206
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	207
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	208
		英中国済営比人律政2年			
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	209
		留学生1年			
	日本語II JSL102F 金 元正	1学期	1	1	210
		留学生1年			
	日本語III JSL103F 小林 浩明	1学期	1	1	211
		留学生1年			
	日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	212
		留学生1年			
	日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	213
		留学生1年			
	日本語VI JSL113F 金 元正	2学期	1	1	214
		留学生1年			
	日本事情(人文)A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	215
		留学生1年			
	日本事情(人文)B JPS102F 則松 智子	2学期	1	2	216
		留学生1年			
	日本事情(社会)A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	217
		留学生1年			
日本事情(社会)B JPS104F 小林 浩明	2学期	1	2	218	
	留学生1年				
■専門教育科目 ■専門科目	英米文化概論I ARE130M 久木 尚志	1学期	1	2	219
		1年			
	英米文学概論I LIT130M 渡邊 真理香	1学期	1	2	220
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	英米文学概論 II	2学期	1	2	221
	LIT131M 渡邊 真理香	1年			
	経済学の基礎	2学期	1	2	222
	ECN100M 柳 学洙	1年			
	政治学	1学期	1	2	223
	PLS100M 上條 諒貴	1年			
	アメリカの社会	1学期	2	2	224
	ARE225M 北 美幸	2年			
	イギリス研究 I	1学期	2	2	225
	ARE236M 久木 尚志	2年			
	イギリス研究 II	2学期	2	2	226
	ARE237M 久木 尚志	2年			
	イギリス研究 III	1学期	2	2	
	ARE238M 休講	2年			
	イギリス研究 IV	2学期	2	2	
	ARE239M 休講	2年			
	英米文化概論 II	2学期	2	2	227
	ARE226M 中野 博文 他	2年			
	現代中国の政治	1学期	2	2	228
	ARE211M 下野 寿子	2年			
現代中国の外交	2学期	2	2	229	
ARE212M 下野 寿子	2年				
韓国・北朝鮮の政治外交 I	1学期	2	2	230	
ARE213M 李 東俊	2年				
韓国・北朝鮮の政治外交 II	2学期	2	2	231	
ARE214M 李 東俊	2年				
東南アジアの社会と歴史	1学期	2	2	232	
ARE215M 篠崎 香織	2年				
東南アジアの政治と外交	2学期	2	2	233	
ARE216M 篠崎 香織	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	国際開発協力論 IRL211M 大平 剛	1学期	2	2	234
		2年			
	平和研究 IRL212M 大平 剛	2学期	2	2	235
		2年			
	国際機構論Ⅰ IRL215M 政所 大輔	1学期	2	2	236
		2年			
	国際機構論Ⅱ IRL216M 政所 大輔	2学期	2	2	237
		2年			
	国際紛争論 IRL214M 川上 耕平	1学期	2	2	238
		2年			
	地球環境論 ENV200M 松本 治彦	1学期	2	2	239
		2年			
	世界経済論 ECN255M 柳 学洙	2学期	2	2	240
		2年			
	国際関係特講Ⅰ IRL290M 足立 力也	集中	2	2	241
		2年			
	国際関係特講Ⅱ IRL291M 加藤 丈太郎	集中	2	2	242
		2年			
	地域研究特講 ARE200M 休講	集中	2	2	
		2年			
倫理学 PHR210M 清水 満	2学期	2	2	243	
	2年				
アメリカ史の争点 ARE320M 未開講	2学期	3	2		
	3年				
アメリカ政治研究 PLS321M 未開講	2学期	3	2		
	3年				
現代アメリカ政治 PLS322M 未開講	1学期	3	2		
	3年				
東アジア経済論 ECN352M 未開講	2学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	東アジア地域秩序論Ⅰ	1学期	3	2	
	ARE315M 未開講	3年			
	東アジア地域秩序論Ⅱ	2学期	3	2	
	ARE316M 未開講	3年			
	国際人権研究	2学期	3	2	
	IRL314M 未開講	3年			
	国際政治経済論Ⅰ	1学期	3	2	
	IRL310M 未開講	3年			
	国際政治経済論Ⅱ	2学期	3	2	
	IRL311M 未開講	3年			
	国際法Ⅰ	1学期	3	2	
	LAW250M 未開講	3年			
	国際法Ⅱ	2学期	3	2	
	LAW251M 未開講	3年			
政策過程論	2学期	3	2		
PLC212M 未開講	3年				
■外国語科目 ■英語必修	英文法・英作文 A	1学期	1	1	244
	ENG161M 團迫 雅彦	1 - 1			
	英文法・英作文 A	1学期	1	1	245
	ENG161M 薬師寺 元子	1 - 2			
	英文法・英作文 A	1学期	1	1	246
	ENG161M 浅田 壽男	1 - 3			
	英文法・英作文 A	1学期	1	1	247
	ENG161M 渡邊 真理香	1 - 4			
	英文法・英作文 B	2学期	1	1	248
	ENG162M 團迫 雅彦	1 - 1			
	英文法・英作文 B	2学期	1	1	249
	ENG162M 薬師寺 元子	1 - 2			
	英文法・英作文 B	2学期	1	1	250
	ENG162M 浅田 壽男	1 - 3			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	英文法・英作文 B ENG162M 渡邊 真理香	2学期	1	1	251
		1 - 4			
	English Practicum 1 A ENG101M マルコム・ロス・スワンソン	1学期	1	1	252
		1 - 1			
	English Practicum 1 A ENG101M アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	253
		1 - 2			
	English Practicum 1 A ENG101M マルコム・ロス・スワンソン	1学期	1	1	254
		1 - 3			
	English Practicum 1 A ENG101M アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	255
		1 - 4			
	English Practicum 1 B ENG111M マルコム・ロス・スワンソン	2学期	1	1	256
		1 - 1			
	English Practicum 1 B ENG111M アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	257
		1 - 2			
	English Practicum 1 B ENG111M マルコム・ロス・スワンソン	2学期	1	1	258
		1 - 3			
	English Practicum 1 B ENG111M アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	259
		1 - 4			
	英語表現法 A ENG261M 渡邊 真理香	1学期	2	1	260
		2 - 1			
英語表現法 A ENG261M 渡邊 真理香	1学期	2	1	261	
	2 - 2				
英語表現法 A ENG261M 村田 希巳子	1学期	2	1	262	
	2 - 3				
英語表現法 A ENG261M 薬師寺 元子	1学期	2	1	263	
	2 - 4				
英語表現法 B ENG262M 渡邊 真理香	2学期	2	1	264	
	2 - 1				
英語表現法 B ENG262M 渡邊 真理香	2学期	2	1	265	
	2 - 2				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	英語表現法 B ENG262M 村田 希巳子	2学期	2	1	266
		2 - 3			
	英語表現法 B ENG262M 薬師寺 元子	2学期	2	1	267
		2 - 4			
	English Practicum 2 A ENG201M クリストファー・カーマン	1学期	2	1	268
		2 - 1			
	English Practicum 2 A ENG201M クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	269
		2 - 2			
	English Practicum 2 A ENG201M デニス・ジョーンズ	1学期	2	1	270
		2 - 3			
	English Practicum 2 A ENG201M デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1学期	2	1	271
		2 - 4			
	English Practicum 2 B ENG211M クリストファー・カーマン	2学期	2	1	272
		2 - 1			
English Practicum 2 B ENG211M クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	273	
	2 - 2				
English Practicum 2 B ENG211M デニス・ジョーンズ	2学期	2	1	274	
	2 - 3				
English Practicum 2 B ENG211M デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	2学期	2	1	275	
	2 - 4				
英語論文作成法 I ENG361M 未開講	1学期	3	2		
	3年				
英語論文作成法 II ENG362M 未開講	2学期	3	2		
	3年				
English Practicum 3 A ENG301M 未開講	1学期	3	1		
	3年				
English Practicum 3 B ENG311M 未開講	2学期	3	1		
	3年				
■英語選択	英語学概論 LIN130M 三宅 啓子	1学期	1	2	276
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語選択	原書講読 ENG312M 未開講	1学期	3	2	
	3年				
■専門基礎科目 ■必修	国際関係概論 IRL100M 久木 尚志 他	1学期	1	2	277
	1年				
	国際関係の争点 IRL101M 大平 剛	2学期	1	2	278
	1年				
	国際関係史 IRL200M 中野・金	2学期	2	2	279
	2年				
	国際関係の理論 IRL201M 阿部 容子	1学期	2	2	280
	2年				
■選択	中国研究概論 ARE111M 下野 寿子	1学期	1	2	281
	1年				
	朝鮮半島研究概論 ARE112M 李 東俊	2学期	1	2	282
	1年				
	東南アジア研究概論 ARE113M 篠崎 香織	2学期	1	2	283
	1年				
■演習科目 ■必修	入門演習 SEM110M 下野 寿子 他	2学期	1	2	284
	1年				
	基礎演習 SEM210M 篠崎 香織 他	1学期	2	2	285
	2年				
	卒業研究演習 I SEM411M 未開講	1学期	4	2	
	4年				
	卒業研究演習 II SEM412M 未開講	2学期	4	2	
	4年				
■実践科目	特定課題演習 A SEM184M 齊藤 園子	1学期	1	2	286
	1年				
	特定課題演習 B SEM185M 大平 剛	2学期	1	2	287
	1年				
	特定課題演習 C SEM186M 大平 剛	集中	1	2	288
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■関連科目	中国近現代史Ⅰ	1学期	1	2	289
	HIS120M 堀地 明	1年			
	中国近現代史Ⅱ	2学期	1	2	290
	HIS121M 堀地 明	1年			
	イスパニア地域論	2学期	2	2	291
	ARE242M 富田 広樹	2年			
	ミクロ経済学入門	1学期	2	2	
	ECN111M 休講	2年			
	マクロ経済学入門	1学期	2	2	
	ECN112M 休講	2年			
	時事中国語講読Ⅰ	1学期	3	2	
	ARE311M 未開講	3年			
	時事中国語講読Ⅱ	2学期	3	2	
	ARE312M 未開講	3年			
	ビジネス中国語Ⅰ	1学期	3	2	
	CHN330M 未開講	3年			
	ビジネス中国語Ⅰ	1学期	3	2	
	CHN330M 未開講	3年			
	ビジネス中国語Ⅱ	2学期	3	2	
	CHN331M 未開講	3年			
ビジネス中国語Ⅱ	2学期	3	2		
CHN331M 未開講	3年				
アジア地域社会論	2学期	3	2		
PLC222M 未開講	3年				
環境政策論	2学期	3	2		
PLC216M 未開講	3年				
西洋政治史	1学期	3	2		
PLS111M 未開講	3年				
地域統合論	2学期	3	2		
PLS214M 未開講	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	292
		1年			
	教育原理 EDU110M 児玉 弥生	1学期	1	2	293
		1年			
	教育心理学 PSY120M 山下 智也	2学期	1	2	294
		1年			
	教育社会学 EDU223M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	295
		2年			
	教育課程論 EDU260M 児玉 弥生	2学期	2	2	296
		2年			
	英語科教育法I EDU250C 森 千鶴	1学期	2	2	297
		2年			
	英語科教育法II EDU251C 森 千鶴	2学期	2	2	298
		2年			
	英語科教育法III EDU252C 未開講	1学期	3	2	
		3年			
	英語科教育法IV EDU253C 未開講	2学期	3	2	
		3年			
	社会科教育法I EDU240C 休講	1学期	2	2	
		2年			
社会科教育法II EDU241C 休講	2学期	2	2		
	2年				
社会科教育法III EDU242C 未開講	1学期	3	2		
	3年				
社会科教育法IV EDU243C 未開講	2学期	3	2		
	3年				
公民科教育法A EDU244C 未開講	1学期	3	2		
	3年				
公民科教育法B EDU245C 未開講	2学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■必修科目	道徳教育指導論	2学期	2	2	299
	EDU264M 船原 将太	2年			
	教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法	2学期	1	2	300
	EDU160M 下地 貴樹	1年			
	教育相談	1学期	2	2	301
	EDU261M 山下 智也	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	
	EDU380C 未開講	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	
	EDU480C 未開講	4年			
教育実習 3	1学期	4	2		
EDU481C 未開講	4年				
教職実践演習(中・高)	2学期	4	2		
EDU490C 未開講	4年				
特別支援教育論	1学期	2	2	302	
EDU263M 楠 凡之	2年				
■選択科目	発達心理学	1学期	2	2	303
	PSY220M 税田 慶昭	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	304
	PSY221M 税田 慶昭	2年			
人権教育論	1学期	2	2		
EDU222M 休講	2年				
生涯学習学	1学期	2	2	305	
EDU220M 恒吉 紀寿	2年				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	生命と環境	1学期	1	2	306
	BIO100F 日高 京子 他	1年			
	環境問題概論	2学期	1	2	307
	ENV100F 廣川 祐司	1年			
生命科学入門	2学期	1	2	308	
BIO200F 日高 京子	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■世界(地球)科目	国際学入門 IRL110F 伊野 憲治	2学期	1	2	309
		1年			
	安全保障論 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	310
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	311
		1年			
	近代史入門 PLS110F 小林 道彦	1学期	1	2	312
	1年				
現代社会と文化 ANT210F 休講	2学期	2	2		
	2年				
可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	313	
	2年				
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	314
		1学期未修得者再履			
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	315
	1年				
	コンピューターリテラシー INF101F 古川 洋章	2学期	1	1	316
		1年			
■知の創造科目	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	317
		1年			
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	318
		1年			
	企業と社会 BUS001F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 休講	2学期	1	2	
	1年				
社会哲学入門 PHR110F 休講	2学期	1	2		
	1年				
文化を読む LIT001F 佐藤 真人 他	1学期	1	2	319	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の創造科目	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	320
	1年				
	倫理思想史 PHR005F 未定	2学期	1	2	321
1年					
	戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	322
	2年				
■共生と協働科目	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	323
	1年				
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	324
1年					
	地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	325
	1年				
	障がい学 SOW001F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	326
2年					
■ライフ・デザイン科目	メンタル・ヘルス PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	327
	1年				
	フィジカル・ヘルス HSS001F 山本 浩二	1学期	1	2	328
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 閉講	1学期	1	1		
1年					
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 山本 浩二	2学期	1	1	329	
1年					
■専門教育科目 ■専門科目	政治学 PLS100M 休講		1	2	
	1年				
	国際法 I LAW250M 未開講	1学期	3	2	
	3年				
国際法 II LAW251M 未開講	2学期	3	2		
3年					

外国語学部 国際関係学科 (2020年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	政策過程論 PLC212M 未開講		3	2	
		3年			
■関連科目	ミクロ経済学入門 ECN111M 魏 芳	1学期	2	2	330
		2年			
	マクロ経済学入門 ECN112M 後藤 尚久	1学期	2	2	331
		2年			
	アジア地域社会論 PLC222M 未開講		3	2	
		3年			
	環境政策論 PLC216M 未開講		3	2	
		3年			
	西洋政治史 PLS111M 未開講		3	2	
		3年			
	地域統合論 PLS214M 未開講		3	2	
		3年			

教職論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探究する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる基礎的な資質・能力と教員研修の意義(中教審の答申を踏まえて)
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その1 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その2 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その3 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。それが無い場合には公欠であっても減点になるので留意すること。

教職論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校教育をめぐる教育について、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐる社会変化についても理解を深めていきます。
日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。
国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。
学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐる近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐる近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐる社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

教育課程論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原則
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 教育課程の編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) アクティブラーニング
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 国際移動と教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法I【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は中学校・高等学校の英語科教員になるための基礎的な知識と技能を身につける。特に、中学校の英語教育に中心をおき、学習指導案の書き方および基本的な指導技術を学ぶ。

教科書 /Textbooks

【改訂版】『新しい英語科授業の実践』石田雅近・小泉仁・古家貴雄・加納幹雄 著 金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 英語教育の目的
3. 英語の指導法(1) コミュニカティブ・アプローチ以前
4. 英語の指導法(2) コミュニカティブ・アプローチとその後
5. より良い指導のために(1) 音声指導
6. より良い指導のために(2) コミュニケーションにつながる文法指導の基本
7. より良い指導のために(3) コミュニケーションにつながる文法指導(コミュニケーション活動)
8. 評価の方法と学習指導案の書き方
9. 学習指導案の書き方(1)
10. 学習指導案の書き方(2)
 11. 模擬授業の準備
 12. 模擬授業(中学校1年生)
 13. 模擬授業(中学校2年生)
 14. 模擬授業(中学校3年生)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、提出物20%、模擬授業10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定ページを読んでくる。

事後学習 課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は中学校・高等学校の英語教員になるための、基礎的な知識と技能を身につけることを目的とする。特に高等学校の英語教育を中心に、学習指導案の書き方と基礎的な指導技術を学ぶ。

教科書 /Textbooks

【改訂版】『新しい英語科授業の実践』石田雅近・小泉仁・古谷貴雄・加納幹雄・斎藤嘉則著

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
 松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 2012年、630円
 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社
 南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION 第一学習社、2007年、765円
 Onstage English Course I・II 池田書店
 EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂
 田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II 東京書籍、2012年、630円
 山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円
 Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂
 田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II 啓林館 2013年、650円
 Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社
 市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・II" 文英堂
 Genius English Course Revised I・II 大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II 三省堂 2012年、630円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および評価について
2. 第二言語習得と英語教育
3. 4技能統合の理念とタスクの意義 (PCPPモデル)
4. リーディングの理論と実践
5. ライティングの理論と実践
6. 4技能統合の実践方法
7. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の考え方
8. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の書き方
9. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の書き方
10. モデル授業準備
11. モデル授業準備
12. モデル授業(1)
13. モデル授業(2)
14. モデル授業(3)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70%、提出物20%、模擬授業10% 「

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定箇所を読んでくる。
 事後学習 学習課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法I【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

- ①本授業は、社会科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領(現行および新指導要領)に基づいて解説する。
また社会科の各分野に必要とされる具体的な技能や方法(指導計画、社会科における資料活用、学習指導案の作成)など、社会科の授業を行っていく上での基礎的な知見を修得する。
- ②中等教育における社会科、地理歴史科の特色とそれら各分野の関連を理論的かつ実践的に考えていく。
- ③教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説社会編」(平成29年告示・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和田清司編2007『中等社会科の理論と実践』学文社
- ・ 他に、授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と社会科の役割
 - 第2回：社会科の目標と内容 社会科教員としての資質・能力について
 - 第3回：学習指導要領の変遷 新しい学習指導要領について
 - 第4回：地理的分野の目標と内容
 - 第5回：歴史的分野の目標と内容
 - 第6回：公民的分野の目標と内容
 - 第7回：社会科の授業づくり 教材研究
 - 第8回：社会科の授業づくり 地図帳・地理の学習について
 - 第9回：社会科の授業づくり 教科書の変遷や内容の取り扱いについて
 - 第10回：社会科の授業づくり 実生活との関連や法と政治について
 - 第11回：社会科の授業づくり 授業研究・授業記録・実践紹介
 - 第12回：社会科の授業づくり 評価論とPDCAサイクル 指導案の作成
 - 第13回：学習指導案の作成と実践 指導観・教材観・生徒観 模擬授業(1)
 - 第14回：学習指導案の作成と実践 授業計画 模擬授業(2)
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度(グループ発表や質疑などへの参加)・・・30%
- 最終試験・課題レポート・・・30%
- 学習指導案作成・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
グループワーク・発表の準備(受講人数によって課題の変更あり)
- 事後学習：学習指導要領に関する理解の確認、講義後に指示を行う

社会科学教育法I【昼】

履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も該当箇所・資料を読んでおくこと。

授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。
なお出席は、3分の2以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

社会科教育法II 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、社会科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
 (1) 学習指導要領に基づき、現在の社会科教育の位置づけを理解する。
 (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
 (3) 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。(4) コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。
 上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

授業の際に配布するレジュメ・資料等
 「中学校学習指導要領解説 社会編」(文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 インTRODクシヨン
- 第 2 回 学習指導要領における社会科の位置付け
- 第 3 回 教育実習を想定した授業実践及びICT活用による教科指導について
- 第 4 回 指導案作成上の留意点
- 第 5 回 指導案作成と教材研究・教材開発
- 第 6 回 資料活用法、オリジナル教材の作成
- 第 7 回 社会科におけるアクティブラーニング
- 第 8 回 模擬授業(地理的分野①)
- 第 9 回 模擬授業(地理的分野②)
- 第 10 回 模擬授業(歴史的分野①)
- 第 11 回 模擬授業(歴史的分野②)
- 第 12 回 模擬授業(公民的分野①)
- 第 13 回 模擬授業(公民的分野②)
- 第 14 回 授業研究と評価
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ◎教材研究、指導案の準備については適宜打ち合わせを行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎授業後にコメント用紙(授業の感想や質問など) を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論 【昼】

担当者名 /Instructor 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：道徳教育の変遷①～戦前
- 第3回：道徳教育の変遷②～戦後
- 第4回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第5回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第6回：道徳教育の現代的課題①（グループ討論）
- 第7回：道徳教育の現代的課題②（グループ討論）
- 第8回：道徳教育の現代的課題③（グループ討論）
- 第9回：道徳教育の現代的課題④（グループ討論）
- 第10回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第11回：道徳科における評価
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：シテイズンシップ教育と道徳教育
- 第15回：対話への道徳教育

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案35%
コメントシート15%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法【昼】

教育の基礎的理解に関する科目等
必修科目

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下の二つである。

- ① これからの子ども達に認められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識と技能を身に付けること。
- ② 「総合的な学習の時間」の意義と目的、また、実際に「総合的な学習の時間」のカリキュラムを実行していく上で求められる参加型学習の指導方法や評価のあり方を学習すること。

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 改訂版 (2019 有斐閣アルマ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)
高等学校学習指導要領 (平成30年告示 文部科学省)
他にも授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：教育と学習・理論と方法
- 第3回：教育学の思想と体系
- 第4回：学習理論の発展
- 第5回：授業の理論：教師 - 教材 - 生徒
- 第6回：授業の過程：デザイン - 実践 - 評価
- 第7回：情報機器・メディアの活用と課題
- 第8回：到達度評価と観点別評価・新しい評価論
- 第9回：よい授業とはなにか
- 第10回：求められる教師の資質と能力・教師の専門性とは
- 第11回：教材研究：教材開発と学習指導案の作成
- 第12回：総合的な学習の意義と課題
- 第13回：総合的な学習の指導計画と取り扱い
- 第14回：総合的な学習の実践
- 第15回：総合的な学習の時間における学習評価 全体のまとめ
定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (グループワークや質疑などへの参加) (30%)
発表・レジュメ作成 (20%)
定期試験・課題レポート (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料 (レジュメ) を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義の3分の2以上の出席が試験受験の前提となる。
欠席の際は、連絡を入れるようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合的な学習の時間は、各学校や地域ごとに特色ある活動を行っています。どのような実態があるかを考えるためには、他者との交流や対話的な学びが不可欠です。

能動的・積極的な姿勢を身に着けていきましょう。

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業でのミニレポート 20%
定期試験 80%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

特別支援教育論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

本授業での概要は以下の通りである。
 ①特別な支援を必要とする子どもの障害特性や心身の発達を理解するとともに、特別な支援を必要とする子どもの教育課程と支援方法について、その背後にあるインクルーシブ教育の理念も踏まえて検討する。
 ②貧困や虐待的な養育環境に置かれている子どもや母語が日本語ではない子どもなど、多様な「特別な教育的ニーズ」を持つ子どもの抱える問題への理解と支援の課題を考察する。
 ③ 学校での福祉教育や職場体験などで求められる社会福祉施設入所者に対する理解と援助の在り方について、とりわけ認知症の高齢者の問題やその支援の課題について学習する。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 2012 「自閉症スペクトラム障害の子どもへの援助と学級づくり」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文科省特別支援学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

1. オリエンテーション 本授業の進め方
2. 特別支援教育の教育制度と教育課程
3. 発達障害・軽度知的障害の子どもに対する理解と援助
4. 困難な養育環境に置かれた子どもへの理解と支援
5. 聴覚障害の子どもへの理解と支援(外部講師)
6. 母語が日本語ではない子どもたちの理解と支援
7. 性の多様性の尊重の理念に根差した学級活動
8. 特別支援コーディネーターの役割と個別的教育支援計画(外部講師)
9. 肢体不自由・重度心身障害児・者についての理解と支援(外部講師)
10. 知的障害の特別支援学校での教育実践と支援の留意点(外部講師)
11. 学校における福祉教育の課題 - 高齢者・認知症の問題に視点をあてて(外部講師)
12. 肢体不自由児、高齢者に対する介護支援(外部講師による実習)
13. インクルーシブ教育と集団づくり その1 中学校のASD
14. インクルーシブ教育と集団づくり その2 高等学校のASD
15. 全体のまとめ

注 この中の第9回目から第12回目までの授業は「介護等体験事前指導」の授業を兼ねます。
 なお、この4回の事前指導とは別に「介護等体験事前説明会」を7月の月上旬に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート25点、期末試験75点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは早めに読んでレポートにまとめて提出すること。
 2020年度に介護等体験に行く学生は、9回目から12回目の内容を介護等体験ノートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

特別支援教育論は2019年度入学の学生から、教職課程の学生の必修科目になっています。
 ただし、9回目から12回目の授業については、2018年度以前入学生の「介護等体験事前指導」との合同の授業となる点、ご了解いただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は全学の教職課程の学生の必修授業であると同時に、人間関係学科の専門教育科目、地域創生学群のスクールソーシャルワーカー課程の専門科目を兼ねています。
 そのような多様な興味・関心や背景を持つ学生同士の中での学び合いを期待しています。

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房
¥2700

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 石嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他者の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。
①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。③人権教育の指導計画などプログラムの作成や発表、ロールプレイなど参加型の学習を取り入れる。

教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重 【世界人権宣言】
- 2回 学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、SNS・インターネットによる人権侵害
- 3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
- 4回 人権教育の枠組み - 教科を通した人権教育、学級運営、生徒指導、(実践例など)
- 5回 部落差別と人権 【部落差別解消推進法】
- 6回 子どもの人権 【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
- 7回 障がい児・者の人権 【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
- 8回 「性の多様性」と人権 【SOGI】【性自認】【性的指向】
- 9回 外国人の人権 【ヘイトスピーチ解消法】
- 10回 男性と女性の人権 【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
- 11回 高齢者の人権 【高齢者虐待防止法】
- 12回 ホームレスの人々の人権 【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
- 13回 「私の人権教育のプログラム」(発表)
- 14回 「私の人権教育のプログラム」(発表)
- 15回 「私の人権教育のプログラム」(発表)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度、課題、テストなど、総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(60%)、授業への参加度(10%)、課題(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示をされた文献や資料について読んでおくこと。
「私の人権教育のプログラム」発表のためにパワーポイントを作成する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

体験学習を取り入れています。受講生の皆さんの積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記することでも、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。

この授業では、日本史に関する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回でレジユメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？ —過去・史料・歴史家—
- 第3回：ヒトはどこから来たのか？ —人類の拡散と日本列島—
- 第4回 狩猟採集経済と農耕経済 —気候変動と縄文・弥生人—
- 第5回：前方後円墳とヤマト王権 —初期国家の成立—
- 第6回：古代国家と天皇 —東アジアの律令国家—
- 第7回：日本の中世国家 —分権化する国家と社会—
- 第8回：越境するヒトとモノ —銭貨・倭寇・鉄砲—
- 第9回：世界史のなかの「近世」 —東アジアにおける伝統社会の形成—
- 第10回：歴史人口学の世界
- 第11回：結婚と離婚 —歴史のなかの男と女—
- 第12回：貨幣からみる近世社会
- 第13回：日本の「近代」
- 第14回：「日本人」と戦争
- 第15回：まとめ —「歴史」を学ぶということ—

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (50%、小レポートなどを含む)、期末試験 (50%) によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、西暦1～3世紀の中国、すなわち新・後漢時代から三国時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
 - 3回 秦漢史概説(1) -「皇帝」の誕生-
 - 4回 秦漢史概説(2) -前漢の盛衰-
 - 5回 新の王莽
 - 6回 後漢前期(1) -光武帝-
 - 7回 後漢前期(2) -明帝-
 - 8回 後漢前期(3) -章帝・和帝-
 - 9回 後漢後期(1) -安帝・順帝-
 - 10回 後漢後期(2) -桓帝・靈帝-
 - 11回 後漢分裂と「三世紀の危機」 -『三国志』の虚実-
 - 12回 魏の曹操
 - 13回 蜀の劉備と呉の孫権
 - 14回 三国鼎立と邪馬台国の外交
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・80% 日常の授業への取り組み・・・20%

*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)

予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、授業を集中して聞き、適宜ノートを取る。初回に講義のガイダンスを行うので、出席すること。定期試験の際にはノートや配付資料の持ち込みは認めないので、意欲のある学生の受講を期待する。

講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を5つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「産業立地と集積」について講義を行う。人文地理学の領域に含まれる社会地理学、文化地理学、人口地理学、経済地理学、都市地理学などから主要なトピックを取り上げる。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人文地理学の基礎(1) 地理学の体系
- 第2回 人文地理学の基礎(2) 地理学の歴史、地域概念と重力モデル、環境決定論と環境可能論
- 第3回 人文地理学の基礎(3) 様々な距離、時間地理学、空間認識
- 第4回 社会・文化と地域(1) 言語と地域
- 第5回 社会・文化と地域(2) 町並み保存
- 第6回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第7回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第8回 都市構造と都市システム(1) 世界都市、オフィスの立地、大都市の構造と動態(東京)
- 第9回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造、大都市の構造と動態(大阪)
- 第10回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外、規制緩和と郊外商業地の拡大
- 第11回 都市構造と都市システム(4) 都市システム、広域中心都市、大都市の構造と動態(福岡)
- 第12回 産業立地と集積(1) チェーンストアの配送と立地
- 第13回 産業立地と集積(2) 産業集積、企業城下町
- 第14回 産業立地と集積(3) コンテンツ産業の集積
- 第15回 産業立地と集積(4) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係を地理学を通して理解する。
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地図から測定できる】
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外护保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年 4,800円
平岡昭利編 『地図で読み解く日本の地域変貌』 海青社 2008年 3048円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1) : ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2) : ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) スペイン・フランス地誌
- 第7回 欧米地誌(6) イタリア・北欧地誌
- 第8回 欧米地誌(7) ベネルクス・スイス地誌
- 第9回 欧米地誌(8) アメリカ合衆国地誌
- 第10回 日本地誌(1) 近世城下町の変容 : 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(2) 干拓地域の変容 : 山口県防府市、県庁所在地の変容 : 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(3) 軍事都市の変容 : 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(4) 鉱業地域の変容 : 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(5) 港湾都市の変容 : 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(6) 工業都市の変容 : 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
適宜、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 駒村圭吾編『プレステップ憲法 第2版』(弘文堂、2018年)
- 斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法』(弘文堂、2018年)
- 芦部信喜『憲法 第7版』(岩波書店、2019年)
- 長谷部恭男『憲法 第7版』(新世社、2018年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①-平和主義と「正しい」戦争
- 第4回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第5回 表現の自由とその限界①-表現の自由の保障根拠
- 第6回 表現の自由とその限界②-規制の根拠と手段の妥当性
- 第7回 自己決定権とは何か①-憲法上の根拠と内容
- 第8回 自己決定権とは何か②-生命の自己決定?
- 第9回 自己決定権とは何か③-安楽死・尊厳死法制化の是非
- 第10回 議院内閣制①-国会と内閣の関係
- 第11回 議院内閣制②-国会の制度と運営
- 第12回 議院内閣制③-国会と選挙制度
- 第13回 憲法と死刑制度①-日本国憲法と死刑制度
- 第14回 憲法と死刑制度②-立法政策上の諸課題
- 第15回 全体まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記参考書をはじめ、授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 立憲主義 基本的人権 統治機構

教育とコンピューター 【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

文部科学省は「GIGAスクールネットワーク構想」を掲げ、2022年度までに一人一台の学習用コンピューター、全学校での高速・大容量・機密性の高いネットワークの実現を目指している。学校におけるICT環境が整備される中、教師は、情報教育・教科指導における情報通信技術の活用・校務の情報化を3本柱とする「教育の情報化」に適応した能力が求められることになる。

本授業では、「教育の情報化」に適応するための基礎的スキルの習得を目指す。具体的には、以下の基礎的スキルを習得することが目標である。

- ・ 「教育の情報化」の重要性について説明することができる。
- ・ 文書作成ソフトを用いて、教材や書類を作成することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、教材作成や校務処理を行うことができる。
- ・ プレゼンテーションソフトを用いて、教材を作成することができる。

教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』 FOM出版、2,000円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：教育の情報化とは何か
- 2回目：教育の情報化の現状と重要性
- 3回目：文書作成レッスン (1) 【フォント】 【箇条書き】 【インデント】 【レイアウト】 【印刷】
- 4回目：文書作成レッスン (2) 【図表】 【ヘッダとフッタ】 【脚注】
- 5回目：文書作成演習
- 6回目：表計算レッスン (1) 【罫線】 【幅と高さ】 【セルの結合】 【四則演算】 【印刷】
- 7回目：表計算レッスン (2) 【関数を用いた計算】 【オートフィル】 【グラフ作成】
- 8回目：表計算レッスン (3) 【相対参照と絶対参照】 【グラフ作成】
- 9回目：表計算レッスン (4) 【条件分岐】
- 10回目：表計算レッスン (5) 【参照】 【データベース】
- 11回目：表計算演習
- 12回目：プレゼンテーションレッスン (1) 【レイアウト】 【テキストボックス】 【図・写真】
- 13回目：プレゼンテーションレッスン (2) 【表】 【グラフ】 【アニメーション】
- 14回目：プレゼンテーション演習
- 15回目：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

教育の情報化に関するレポート・・・ 10%，文書作成課題・・・ 20%，表計算課題・・・ 50%，プレゼンテーション課題・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書の内容をよく読み、事前に練習をしておくこと。
 事後学習として、パソコン自習室や自宅のパソコンなどを用いて、授業で習った内容に沿って操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピューターの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことと受講しやすい。「コンピューターリテラシー」を受講しておくこと、受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

教育の情報化，文書作成ソフト，表計算ソフト，プレゼンテーションソフト

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE002F	◎		○		○
科目名	都市と地域		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて講義する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの視点から分析する枠組みや手法を紹介する。「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個人としての定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域1 : 地域概念: 『地域』とは何か?
- 3回 地域2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域開発とは
- 5回 地域4 : 地域間という視点
- 6回 地域5 : 地域を分析する
- 7回 地域6 : 地域事例 (L Qによる分析)
- 8回 地域7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市1 : 都市はなぜ存在するか?
- 10回 都市2 : 都市の理論
- 11回 都市3 : 都市の構造
- 12回 都市4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市5 : 都市を分析する
- 14回 都市6 : 都市事例
- 15回 都市7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

クイズ (合計) ... 30% 授業内貢献... 20% 最終クイズ (2回合計) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨んで下さい。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を考えて下さい。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ、講義および討論の形式をとります。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、不定期・複数の（Moodleによる）クイズへの回答、および2回の最終クイズへの回答が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業貢献は授業内ディスカッションでの発言回数および発言内容を評価します。発言の無いもしくは回答のない学生は授業貢献の点数が芳しくなくなるので、活発に発言をしてください。

また、不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数（授業貢献を含む）が0点になります。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11. まちづくり

地域の社会と経済【昼】

担当者名 /Instructor 柳 永珍 / RYU Young-Jin / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN170F	◎		○		○
科目名	地域の社会と経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

地域活性化や地域再生が日本における重要なキーワードになっている中、皆さんにおいて「地元」という言葉はどのように響くのか。1つの地域に愛情を持って、真剣に学習してみることは、自分の地元を考える良いきっかけとなる。この授業は、北九州・下関地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自らの意思で考えることを目指している。本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストスピーカーとして招き、北九州・下関地域出身者、地域外出身の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：北九州の産業・社会
- 第3回：北九州市政と市民
- 第4回：人口でみる北九州地域の概況
- 第5回：下関地域の概況と北九州との関係
- 第6回：人口でみる北九州地域の産業構造・経済
- 第7回：データでみる北九州地域の社会・生活
- 第8回：地域の企業① 【地元企業関係者等による説明】
- 第9回：地域の企業② 【地元企業関係者等による説明】
- 第10回：地域の企業③ 【地元企業関係者等による説明】
- 第11回：地域の起業環境 【NPO等の専門家による説明】
- 第12回：地域社会とのつながり 【関連活動に参加している団体との座談会】
- 第13回：地域社会を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第14回：地域を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第15回：まとめ・住みたいまちのために

※講義のテーマ、順番、講師陣については若干の変更があることをご承知おきください。

成績評価の方法 /Assessment Method

九州・下関地域の社会的・経済的特性に対して理解し説明ができること。さらに地域に関する多様な課題について、独自の思考で提言ができること。
・各講義ごとのショートレポート(14回)：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州・下関地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われています。日ごろから新聞、TV、インターネット等を通じて、アンテナを張って情報収集に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・遅刻、私語は他の受講生やゲストスピーカーの方の迷惑になるため、厳禁とします。
- ・ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容が一部変更する場合があります。
- ・授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自調べて理解を深めること。

地域の社会と経済【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の社会や経済を学ぶことで、皆さんがこれからの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増やして有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。また、地域の現状と事情に密着した人材として、創造性の持つ人材として、地域での活躍ができる一歩であるとも考えています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化、
SDGs 8 . 働きがい・経済成長、SDGs11 . まちづくり

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS170F	◎		○		○
科目名	地域の文化と歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

受講者が学生時代を過ごす北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、自らが関わる地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察する基礎的な力を得ることを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者である専門実務家をゲストとしてお招きする。北九州・下関地域出身者のみならず、その他の地域の出身者にとっても、今後の学生生活や就職、社会活動の充実につながる学びを得ることができる内容で構成する。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》原始の地域
- 第 4 回： 《歴史》古代の地域
- 第 5 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 6 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 7 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 8 回： 《歴史》戦前・戦中・戦後復興期の地域
- 第 9 回： 《文化》地域の美術、現代アート（北九州市立美術館のコレクション）
- 第 10 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 11 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇
- 第 12 回： 《文化》地域の文学① 【総論】
- 第 13 回： 《文化》地域の文学② 【各論】
- 第 14 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 15 回： 《文化》地域の文化財

※ゲスト（各分野の専門実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考：前年度のゲストの所属組織等（今年度も概ね同様の予定）（順不同）

《北九州市文化企画課、北九州市世界遺産課、北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市立松本清張記念館、下関市教育委員会文化財保護課、下関市立土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム、下関市立歴史博物館》

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み（授業中に課すミニレポート等）： 30%
- 中間レポート： 35%
- 期末レポート： 35%

地域の文化と歴史【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べたり、北九州・下関地域の各種ミュージアム等を実際に見学したりして理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。
中間・期末レポートの提出には原則としてMoodleを使用する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたい。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者等が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域(関門地域)、歴史、文化、文学、芸術

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 11.まちづくり、SDGs 16.平和と公正

実務経験のある教員による授業

地域の達人【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR212F	◎		○		○
科目名	地域の達人		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

- ・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 仕事以外で社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 雇われないで個人として仕事をしている方
- ・ 会社やお店を営んでいる方

このような社会人をお招きし、以下の点についてお話しさせていただきます。

- ①どんな活動をしているのか
- ②活動のねらい、社会的意義、成果
- ③活動するときに乗り越えた壁
- ④人、組織をどう動かすのか
- ⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
また、パラレルワークや副業など、様々な働き方が広がってきています。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～13回 地域の達人によるお話
- 第14回 達人を振り返る
- 第15回 まとめ

【これまでの登壇者】

海外ボランティアNPO法人代表、ソーシャル大学学長、公務員、ボーカリスト、障がい者自立団体代表、銀行員兼産学連携コーディネーター、照明デザイナー、物流・運送会社社長、総合交通産業社長、サラリーマン兼ギタリスト、IT企業起業家、不動産会社社長、まりづくりプロデューサー、教育NPO代表、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事かどうかがかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、
今回も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% レポート...40%

地域の達人【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に話者について調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分のキャリアや将来展望にどのような影響があったのかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。
授業開始前までに予告された情報をもとに、登壇者について事前に調べておいてください。授業終了後にはお話を聞きながら生じた疑問について各自で調べ、疑問を解消するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

facebookに『地域の達人』ページを開設しています。予告とアーカイブを掲載していますので、確認しながら授業を受講してください。
人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、働く意味や意義について理解してもらうための授業を企画する。また、ゲスト講師が自らの地域でのキャリアについて語ることで、学生のキャリア意識を醸成する。

キーワード /Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主、実務経験のある教員による授業
★関連するSDGsゴール
「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「11. まちづくり」

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE270F	◎		○		○
科目名	地域のにぎわいづくり				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を把握・分析し、それを踏まえた「にぎわいづくりプラン」を自ら立案すること等を通じ、地域課題の解決に向けた基礎的な力を得ることを目指す。

2020年度授業の1～12回(予定)は、「スタジアムをいかした地域活性化(にぎわいづくり)」の観点から、日本における先駆的な「まちなかスタジアム」であるミクニワールドスタジアム北九州(愛称:ミクスタ)を題材とし、小倉駅周辺の活性化を視野に入れた「ミクスタ集客プラン」をグループワークで作成する。作成に際し、有識者によるゲスト講話やフィールドワークも実施する。13回以降(予定)は、MICE誘致や観光などのにぎわいづくり政策全般の意義や課題等について事例を中心に学んでいく。

本授業は、北九州市役所、およびギラヴァンツ北九州等の協力のもとで実施する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

・九州経済調査協会『2019年版九州経済白書 ～スポーツの成長産業化と九州経済～』
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 にぎわいづくり政策の意義①【スポーツツーリズム】
- 第 3回 にぎわいづくりとスタジアム
- 第 4回 Jリーグ・ギラヴァンツ北九州の社会的存在意義と集客戦略、課題
- 第 5回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦①【各種イベントや飲食店舗等の状況視察】
- 第 6回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦②【来場者動向等の状況視察】
- 第 7回 プラン作成①【現状分析、課題抽出】
- 第 8回 プラン作成②【アイデア検討】
- 第 9回 プラン作成③【アイデア検討の深化】
- 第 10回 プラン作成④【プランとりまとめ】
- 第 11回 プラン作成⑤【成果物の作成、発表練習】
- 第 12回 集客プラン発表会
- 第 13回 にぎわいづくり政策の意義②【MICE誘致】
- 第 14回 にぎわいづくり政策の意義③【観光振興】
- 第 15回 にぎわいづくり政策に起因する課題への対応等

※ 受講者数、Jリーグの日程、ゲストのスケジュール、天候の状況等に応じ、授業計画を一部変更する場合がある。特に、フィールドワークについては別の手段に変更する可能性がある。変更がある場合、第1回授業において説明する。

※ 第5～6回のフィールドワークは同一日に実施する。日程は10月25日(日)を予定する。その日に欠席する受講者は11月8日(日)に参加すること。いずれかに参加することが原則として必須である。フィールドワークの場所は、ミクニワールドスタジアム北九州(小倉駅から徒歩7分程度)とし、スタジアムまでの交通費、および試合観戦料(500～2,000円程度)は受講者の自己負担となる。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み(グループワークへの取り組み姿勢等): 30%
- 集客プランの内容に対する評価: 40%
- 期末レポート: 30%

地域のにぎわいづくり【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

集客プラン作成に関しては、講義時間以外において各自による情報収集（他地域の事例など）・考察や、必要に応じた受講者間の意見交換やとりまとめ作業等が必要となる。メンバーで協議の上、事前・事後学習に計画的に取り組むこと。
また、休日等に小倉駅周辺を散策するなどして、にぎわいづくりのあり方を考えることも事前・事後学習の一助となる。

履修上の注意 /Remarks

原則としてフィールドワークへの参加を必須とする。日程は10月25日(日)を予定する。その日に欠席する受講者は11月8日(日)に参加すること。詳細は第1回授業において説明する。

フィールドワークでは試合観戦料（500～2,000円程度）および小倉駅までの交通費が必要となり、受講者の自己負担となる。

フィールドワークに参加する学生は「学生教育研究災害傷害保険」への加入が必須であり、未加入の学生は各自で必要な手続きを事前に行っておくこと。

グループワークを行う班の分け方については、教員から指定する。

※ 北方・ひびきのキャンパスの一方が休講日として指定予定の11月6日（金）、1月15日（金）については、北方・ひびきの連携である本授業は実施しない予定である。詳細は第1回授業において説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し、現実に即した政策を学ぶことに加え、学生自身が「にぎわいづくりプラン」（2020年度はミクニワールドスタジアム北九州集客プラン）をグループワークで主体的に検討することにより、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識や経験を得ることができると期待する授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域企業や行政職員等をゲストに招くとともに北九州市内でのフィールドワーク、グループワークを実施・指導し、実践的・主体的に学生が「にぎわいづくりプラン」作成等に取り組む。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スタジアム、スポーツをいかしたまちづくり

SDGs 11.まちづくり、SDGs 12.作る・使う責任

実務経験のある教員による授業

地域と国際【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE003F	◎		○		○
科目名	地域と国際				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

企業は、人口の減少や市場の成熟により国内市場の成長が期待できない中、新たな市場を求めて海外展開を進めている。また労働力人口が減少し、さらに高齢者が増加する中、外国人労働者の受入れを余儀なくされている。さらに外国人観光客も年々増加している。こういった状況にあって、北九州地域の企業や公的機関（市役所など）がどのように取り組んでいるのか、本授業では原則毎回、企業や公的機関から海外事業に携わっている担当者を招聘し、国際化の実状を話していただき、学生との間で意見交換を行う。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、書籍や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、書籍や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
 - 第2回公的機関の国際化の現状（例、北九州市の国際交流・多文化共生）
 - 第3回公的機関の国際化の現状（例、北九州市の国際環境保全）
 - 第4回公的機関の国際化の現状（例、北九州市の水ビジネス）
 - 第5回公的機関の国際化の現状（例、国の国際貢献活動）
 - 第6回公的機関の国際化の現状（例、国の企業の海外展開支援）
 - 第7回企業の海外事業の現状（例、製造業（大企業））
 - 第8回企業の海外事業の現状（例、製造業（中小企業））
 - 第9回企業の海外事業の現状（例、サービス業）
 - 第10回企業の海外事業の現状（例、金融業）
 - 第11回 企業の海外事業の現状（例、建設業）
 - 第12回 本学における取組み事例①
 - 第13回 本学における取組み事例②
 - 第14回国際化が進展する中で、いかに生きるか①
 - 第15回国際化が進展する中で、いかに生きるか②
- ※講師（ゲストスピーカー）の都合により、授業の内容及び順番に変更があり得る。

成績評価の方法 /Assessment Method

北九州地域の企業や公的機関の国際化の実状を理解し説明ができること。さらにこれらの実状に対して、独自の考えを述べるができること。
レポート：100%（原則毎回、レポートを提出）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞やインターネット、セミナー、展示会などを通じて、地域情報の収集に努めること。

履修上の注意 /Remarks

積極的に質問したり、意見を述べたりすること。授業を受け身で捉えるのではなく、授業をつうじて、学生生活の過ごし方や、将来のあるべき姿・生き方を考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

海外にかかわっている企業や公的機関の方が、その取組み内容を解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SSS001F	◎		○		○

科目名	地域防災への招待	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。講義の中で避難所運営などのワークショップを行い、手を動かし、北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田恒男、土岐憲三(2006)：地震防災のはなし、朝倉書店
京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス：災害についての考え方（北九大：南・加藤）
- 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7-8 避難所運営訓練HUG（北九州市危機管理室）
- 防災が地域を変える、社会を変える（外部講師、北九大：村江）
- 地域協働によるまちづくり（外部講師）
- 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）

なお、7-10回は、合同スクーリングとして5/16(土)に西小倉周辺の会場で実施予定。市役所による防災公開講座と合同実施。

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加 30%
レポートおよび小テスト 70%

地域防災への招待【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習しておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業終了時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
通常の授業は、北方 - ひびきの間での遠隔講義となるため、受講人数制限あり。
合同スクーリングの交通費・昼食代は、受講者の負担となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業
SDGsで関連するゴール(3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策)

北九州市の都市政策【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC270F	◎		○		○
科目名	北九州市の都市政策		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第3回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第4回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第5回 北九州市の空き家対策、空き家活用【空き家、住宅セーフティネット】
- 第6回 公共施設マネジメント【公共施設管理、公共施設集約化】
- 第7回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第8回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第9回 北九州市の産業・雇用政策【新成長戦略、企業誘致】
- 第10回 北九州市の保健福祉政策【子育て支援、高齢者支援】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州エコタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の授業レポート：30%
- ・ 期末レポート：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

北九州市の都市政策 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR270F	◎		○		○
科目名	まなびと企業研究 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、地域づくり、まちづくり、都市づくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。なお、この科目は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた就職活動のプランニング」を目的とした「まなびと企業研究II」（3年次）の準備講座としての役割も果たしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター(2019)「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」
<https://manabiotopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀(2016)「サステイナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか(2016)「まちづくりの仕事ガイドブック: まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部(2011)「いま、都市をつくる仕事: 未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮(2015)「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか(2014)「ハードワーク! グッドライフ! 新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとびあホームページ (<https://manabiotopia.jp/>)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論(グループワーク)、レポート記述
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の講義で出題されるレポート(全14回)・・・90%
質疑応答、議論・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、どういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意 /Remarks

講義時の途中入室、途中退室は原則禁止とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域（社会）貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、都市づくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向

SDGs : Goal11(住み続けられるまちづくりを)

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL202F	◎		○		○
科目名	環境特講B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないかと、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「使い捨てプラスチック」「100円ショップ」「フードロス」「アニマルウェルフェア」を具体的な事例として取り上げ、倫理的消費について受講生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考え、環境に負荷をかけない生活を考える契機としたい。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。

- 子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
- アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。
- 末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」とは何か?
- 第2回 【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半の鑑賞
- 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の鑑賞、論点整理
- 第4回 ファッション、綿花栽培に関するディスカッション
- 第5回 【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第6回 『Food Inc.』(DVD)前半の鑑賞
- 第7回 『Food Inc.』(DVD)後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第8回 【フードロス】『0円キッチン』(DVD)の観賞
- 第9回 【プラスチック】ペットボトル、マイクロプラスチック、論点整理、ディスカッション
- 第10回 【鉱物資源】『スマホの真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第11回 【100円ショップ】『徹底解剖!100円ショップ』の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第12回 【フェアトレード】『もっと!フェアトレード』(DVD)の鑑賞
- 第13回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第14回 【動物の権利保護(アニマルウェルフェア)】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

7回のレポート(70%)、エッセイ(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、DVDを観賞した後は必ずレポート(A4一枚程度)を課しますので、振り返りをしてください。また、学んだことを実生活で確認してください。

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

「SDGs 1. 貧困をなくそう」「SDGs 3. 健康と福祉を」「SDGs 5. ジェンダーと平等」「SDGs 10. 不平等をなくす」

「SDGs 12. 作る・使う責任」「SDGs 14. 海洋保全」「SDGs 15. 環境保全」「SDGs 16. 平和と公正」

「SDGs 17. パートナーシップ」

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV001F	◎		○		○
科目名	環境都市としての北九州				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうが、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

授業のねらいは以下のとおり。

- ・ 環境問題全体を把握するための最低限の知識を身につけている
- ・ 北九州市の環境問題に対するこれまでの取り組みを理解している。
- ・ 持続可能な社会に向けての考え方を理解し、自分自身の行動につなげることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円(税込み)
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然と環境(村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 12回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 13回 環境問題と学生の取り組み(未定)
- 14回 特別講演(未定)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績(40%)、小テストおよび授業中の課題(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストに関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

環境都市としての北九州【昼】

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアム）は原則として必須とする。スケジュールは変更となる場合があるので、第1回ガイダンスに必ず出席すること。

- ・ 環境ミュージアム見学は11月23日（月）午前または午後の予定。参加できない場合は後日各自で見学すること。
- ・ 環境首都検定は12月6日（日）の予定。

*授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。

*環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0001F	◎		○		○
科目名	自然史へのいざない				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- ・ 自然史・歴史のテーマに関連して基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。()内は担当者。【 】はキーワード

- 1回 ガイダンス(日高・柳川)
- 博物館1日目
- 2回 北九州市周辺の地質と化石の多様性について(太田)【化石】【ジオパーク】
- 3回 生命の起源を探る(柳川)【極限環境】【微生物】
- 4回 館内見学(1回目)
- 5回 多様性生物学と進化(養島)【進化】【生物多様性】
- 6回 海産無脊椎動物の行動生態学(竹下)【無脊椎動物】
- 博物館2日目
- 7回 植物を鍵とした生物間相互作用(真鍋)【共生】【食物連鎖】
- 8回 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化(大橋)【恐竜】【脊椎動物】
- 9回 館内見学(2回目)
- 10回 鳥類の生態と進化(中原)【適応放散】【進化的軍拡競争】
- 11回 人新世におけるヒトと植物の関係(河野)【人新世】【科学史】
- 博物館3日目
- 12回 フィールドの地学と歴史を楽しむ(野井)【地学と歴史のかかわり】
- 13回 歴史に関するトピック①
- 14回 歴史に関するトピック②
- 15回 まとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 積極的な授業への参加(授業ごとのMoodle課題提出) 100%

自然史へのいざない【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle（e-learning システム）で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回目（ガイダンス）に欠席した場合は受講を認めない。ひびきのキャンパスでは10月2日に予定しているので掲示物に注意すること。
- ・ 第2回～第15回の授業は10月17日（土）、10月31日（土）、11月14日（土）の3回に分けて博物館で行う予定（いずれも終日）。
- ・ 博物館までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- ・ 生命と環境に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、表現できる。
- ・ 身近な課題に関して積極的に調べ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(課題提出を含む)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。
また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑥・⑤山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

環境問題概論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV003F	◎		○		○
科目名	未来を創る環境技術		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。
具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、北九州市のエネルギー政策
- 第2回：再生可能エネルギーに関する世界の潮流
- 第3回：世界における風力発電
- 第4回：日本における風力発電（その1）
- 第5回：日本における風力発電（その2）
- 第6回：日本における風力発電（その3）
- 第7回：再生可能エネルギーの産業（風力発電）
- 第8回：再生可能エネルギーの産業（エネルギーマネジメント）
- 第9回：都市の環境とエネルギー（経済学からのアプローチ）
- 第10回：都市の環境とエネルギー（機械工学からのアプローチ）
- 第11回：都市の環境とエネルギー（情報学からのアプローチ）
- 第12回：都市の環境とエネルギー（建築学からのアプローチ）
- 第13回：都市の環境とエネルギー（環境工学からのアプローチ）
- 第14回：都市の環境とエネルギー（化学・生物工学からのアプローチ）
- 第15回：まとめ

「日本における風力発電」では、外部講師による集中講義や北九州市の風力発電施設の見学を予定しています。

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

未来を創る環境技術【昼】

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ZOL001F	◎		○		○
科目名	動物のみかた		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらそう)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

動物のみかた 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV002F	◎		○		○
科目名	自然学のまなざし				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第1講 自然学で学ぶこと
 - 第2講 今西錦司という人がいた
 - 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
 - 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
 - 第5講 自然学における日常実践
 - 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
 - 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
 - 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
 - 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
 - 第10講 古民家に求める日本の故郷
 - 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
 - 第12講 森林風景の認識と森林文化論
 - 第13講 自然を言語化する曖昧さ
 - 第14講 木の文化の伝統と変容
 - 第15講 9～14講のまとめ

自然科学のまなざし【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(竹川)

講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%

(岩松)

小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

生命科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0200F	◎		○		○
科目名	生命科学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- ・ 生命科学に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連テーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|---------------------|------------------|
| 1回 | ガイダンス | |
| 2回 | 体を作る物質(1)細胞の構成成分 | 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】 |
| 3回 | 体を作る物質(2)食物分子と代謝 | 【酵素】【触媒】 |
| 4回 | 体を作る物質(3)遺伝物質DNA | 【二重らせん】 |
| 5回 | 体を作るしくみ(1)遺伝子発現 | 【セントラルドグマ】 |
| 6回 | 体を作るしくみ(2)遺伝子でできること | 【ゲノム】【体質】 |
| 7回 | 体を作るしくみ(3)発生と分化 | 【転写因子】【胚】 |
| 8回 | 細胞の社会(1)細胞の増殖 | 【細胞周期】【細胞死】 |
| 9回 | 細胞の社会(2)シグナル伝達 | 【受容体】【シグナル分子】 |
| 10回 | 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん | 【がん遺伝子】 |
| 11回 | 体を守るしくみ(1)寿命と老化 | 【染色体】【テロメア】 |
| 12回 | 体を守るしくみ(2)免疫とウイルス | 【ウイルス】【抗体】 |
| 13回 | 体を守るしくみ(3)私たちと細菌 | 【細菌】【腸内細菌】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞 | |
| 15回 | 質疑応答・まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(毎回のMoodle課題提出を含む)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

3. すべての人に健康と福祉を

環境ESD入門 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV102F	◎		○		○
科目名	環境ESD入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現在、世界で起きている様々な問題、例えば「環境破壊」「異常気象」「国際紛争」などは、ESDの観点から読み解くことができます。ESDとは「持続可能な開発のための教育」のことであり、「環境」「国際理解」「気候変動」「生物多様性」「防災」「エネルギー」など幅広い分野において、これからの地球の将来を見据えた議論を進めています。本講義は、上述のような多様な問題にESDの視点からアプローチしていきます。本講義を通じて受講生がESDの基本的な考え方を習得し、さらなる問題意識をもって私たちの生きる社会や環境を見つめ直すことを目指します。

教科書 /Textbooks

授業内で適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ESDとは
- 3回 世界のESD① 都市政策とエネルギー問題
- 4回 世界のESD② 発展途上国におけるESD
- 5回 世界のESD③ 社会問題とESD
- 6回 環境とESD① 気候変動問題とESD
- 7回 環境とESD② 環境汚染とESD
- 8回 環境とESD③ プロジェクトWETについて
- 9回 社会とESD① 多文化共生社会とESD
- 10回 社会とESD② 環境政策とESD
- 11回 社会とESD③ 企業社会とESD
- 12回 北九州とESD① 北九州市の取組みとESD
- 13回 北九州とESD② 北九州の公害と克服までの取組み
- 14回 北九州とESD③ リサイクル問題とESD
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「授業内での小テスト+授業への取り組み」(30点)+「中間レポート」(35点)+「最終レポート」(35点)=合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から環境問題に対する関心を持ち、意識して様々な情報に触れるようにしてください。それが大きな事前学習になります。各回の講義テーマに関しては事前に紹介しますので、書籍やインターネットなどで予備知識を得ておいてください(事前学習)。また受講後は、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってください(自習時間の目安は60分程度)。

履修上の注意 /Remarks

各講義終了後に小レポートの作成と提出を求めます。
講義内でのディスカッション、および質疑応答に積極的に参加できるように、事前・事後の自発的学習を求めます。

環境ESD入門【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境ESDに関する入門的な講義となります。
本講義を履修したうえで、さらなる発展的な学びとして「副専攻環境ESDプログラム」を受講することを薦めます。

キーワード /Keywords

環境、持続可能性、国際理解、生物多様性

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL103F	◎		○		○
科目名	世界（地球）特講A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
911の特異性
911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE010F	◎		○		○
科目名	韓国の社会と文化		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象に向き合うための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、Moodleを利用した日韓の歴史についても学習を深める。

教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 日韓若者のお互いに対する意識
- 3 韓国のいろは①【韓国ってどんな国？】
- 4 韓国のいろは②【ハングルの仕組みなど】
- 5 グローバル化するK-POP
- 6 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 7 韓国(人)にとって日本(人)とは？
- 8 日本(人)にとって韓国(人)とは？
- 9 韓国における日本大衆文化の受け入れ
- 10 日本における「韓流」史
- 11 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 12 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 13 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 14 日韓の食文化について考える
- 15 まとめ

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(出席レポートや討論への参加)40%

小レポート20%

期末レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、予め毎回のテーマについて調べ、授業終了後には内容を整理し、各自の「考え」をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ Moodleを利用した小レポート(5回ほど)を必ず提出すること
- ・ 授業開始のチャイムが鳴るまでに着席していること。
- ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
- ・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
- ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは0点とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 異文化理解

国際学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL110F	◎		○		○
科目名	国際学入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

安全保障論 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

安全保障論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面（エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障）
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面（国防、日米同盟、国際貢献）
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて世界（地球）特講（テロリズム論）を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN001F	◎		○		○
科目名	グローバル化する経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクションーグローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【人口減少社会】【インバウンド】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【外部効果】【公共ガバナンス】
- 10回 地域政策と国際化(1)【交流人口】【インバウンド振興】
- 11回 地域政策と国際化(2)【越境する地域問題】【政策手法の変化】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバル化する経済【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

キーワード /Keywords

近代史入門【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らずに、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、2020年、税別1,300円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。ノートをしっかりとって下さい。最新の研究成果を用いて講義を進めます。

キーワード /Keywords

Japanese Culture and Society 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE221F	◎		○		○
科目名	Japanese Culture and Society				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to cover and discuss various aspects of Japanese society and culture from the past till present. Topics will include subjects ranging from traditional customs to pop culture and the influence of different religions. One specific goal will be to analyze the way Japan has been influenced by outside cultural influences throughout its long history. Another aspect of this course will be to see Japan from the perspective of non-Japanese students in order to help international students adapt to their new surroundings as well as encourage Japanese students to realize their own cultural identity.

教科書 /Textbooks

Hood, Christopher P. Japan: The Basics, Routledge 2015 ISBN: 978-0-415-62971-3 (pbk) 2657円 or 978-1-315-74568-6 (ebk) 2398円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ellington, Lucien. Japan: A Global Studies Handbook (ebk)
Other printed materials will be supplied by instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and Orientation
- 2回 Studying about Japan
- 3回 Demographic challenges
- 4回 Japanese Society I: Medieval and Edo Period
- 5回 Japanese Society II: Meiji till Present
- 6回 Student Led Discussion & Presentations I: Japan on the move
- 7回 Student Led Discussion & Presentations I: Natural Japan
- 8回 Japanese Religions I : Indigenous Beliefs
- 9回 Japanese Religions II: Buddhism, Confucianism, and Christianity
- 10回 Student Led Discussion & Presentations III: Core values
- 11回 Student Led Discussion & Presentations IV: Pure Japanese
- 12回 Student Led Discussion & Presentations IV: One for all, all for one
- 13回 Student Led Discussion & Presentations IV: Re(building) Japan
- 14回 Individual Presentations A
- 15回 Individual Presentations B and submission of final paper

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation and Participation -50%
Final Paper -50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to participate actively in discussion and make presentations on materials presented in this course. Students should read assigned materials before class.

履修上の注意 /Remarks

All coursework will be done in English.
A TOEIC Score of 650 or higher before registration is highly recommended

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Speaking Cultures and Societies 【昼】

担当者名 /Instructor ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE231F	◎		○		○
科目名	English Speaking Cultures and Societies				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This course looks at English speaking cultures and societies across the world, from the origin of the English language in ancient Britain to its current usage far beyond British borders. The differences and similarities between the various English speaking cultures will be explored, as well as the way they continue to influence other societies. Students are encouraged to voice their opinions and introduce tangential topics or concepts regarding the general subject that they find particularly interesting.

教科書 /Textbooks

No specific textbook. Handouts will be distributed as necessary.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Useful texts for further reading/presentation preparation will be discussed in class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 The Anglosphere and the English Speaking World
- 第2回 Legends and Lore
- 第3回 Religion and Culture
- 第4回 The British Empire
- 第5回 Australia
- 第6回 New Zealand
- 第7回 Canada
- 第8回 India
- 第9回 Asia
- 第10回 America
- 第11回 Back to Britain
- 第12回 Comedy and Culture
- 第13回 Indigenous Languages
- 第14回 Internet English
- 第15回 So Many Englishes (Review)

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation : 20% Assignments : 40% Presentations : 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Directions provided in class. Be aware of news and pop culture that may relate to topics discussed class, and bring information you feel may be relevant.

履修上の注意 /Remarks

When planning for presentations and writing reports, please use English language materials only.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English language, Anglosphere, Imperialism, Globalization

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT210F	◎		○		○
科目名	現代社会と文化		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を買う必要はありません。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 中間テストの解説

第15回 癒しの多様性

※出張や学生大会などで休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールは初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題40%、期末テスト60%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ Moodleで適宜課題を課します。締め切りまでに提出してください。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テスト（またはレポート）の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題における不正、授業態度が目には余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS200F	◎		○		○
科目名	可能性としての歴史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【ホロコースト】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所を目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。
ノートはしっかりとって下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1-1.国1-2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の3点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。
- ・ 他者とコミュニケーションを取りつつ、協同して作業を行うことができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー 1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー 2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー 3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー 4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー 5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%
宿題や振り返りレポート ... 30%
ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1-3.国1-4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の3点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。
- ・ 他者とコミュニケーションを取りつつ、協同して作業を行うことができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー(情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算)の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の3点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。
- ・ 他者とコミュニケーションを取りつつ、協同して作業を行うことができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー 1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー 2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー 3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー 4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー 5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は「アカデミック・スキルズI」で培ってきた考える力をさらに活用して、大学での学びに必要なコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とします。個人が考えたことを複数の人間で共有したり、協働で活動したりするためには、自らが考えたことを他の人に正しく伝えて理解してもらう必要があります。

この授業では、情報収集からはじめて、それを取捨選択して加工し、他者に向けて発信するという一連の過程を具体的に実践して、「見せるスキル」「聞かせるスキル」それぞれの能力を磨いていきます。具体的には、以下のような項目を身につけます：

- 情報収集を行い、その情報の信頼性をチェックすることができる
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用し、データを可視化することができる
- 論理的な思考を行い、それを適切にアウトプットすることができる
- グループ活動を通じて、他者とのコミュニケーションをとることができる

おおまかに、授業の前半は個人的な能力の養成を、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指します。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 データを集める【検索】【情報の信頼性】【着眼点】
- 3回 データを加工する【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データを表現する【レイアウト】【デザイン】【色彩】
- 5回 論理的に考える1【要素に分解する】
- 6回 論理的に考える2【原因と結果】【課題解決】
- 7回 伝わるように工夫する【ストーリー】【ピラミッド構造】
- 8回 他の人に向けて書く・他の人の文を読む【見せる情報】
- 9回 他の人に向けて話す・他の人の話を聴く【聞かせる情報】
- 10回 グループで議論する【マインドマップ】【整理する】【発想する】
- 11回 グループで役割分担をする【課題を分割する】
- 12回 グループで発表内容をまとめる【部分を統合する】
- 13回 グループで発表する
- 14回 グループを評価する
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 90%
積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料などを提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に提示した課題を次回の授業時に提出したりしてもらいますので、授業時間外の作業が必要となります。特にグループ活動においては、グループメンバーと議論する時間を確保してください。

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「ロジカルシンキング (論理的な思考) 」や「分かりやすい表現術」は、大学生活だけに限らず、社会で活躍するためには必須の能力です。早いうちにこれらの能力を伸ばす努力をはじめましょう。「先んずれば人を制す」です。

キーワード /Keywords

ロジカルシンキング (論理的な思考) , プレゼンテーション, アクティブ・ラーニング, コミュニケーション能力, 思考力, SDGs 17:パートナーシップ

アカデミック・スキルズII (思考と推論) 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

サブテーマ「思考と推論」

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して、大学生活に必要なコミュニケーション力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。特に、本授業では、人間が考えるときに重要なはたらきをしている「推論」と、その心理実験を通じて、考える力を総合的に活用できる能力・資質を伸ばすことを目指す。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- 思考スキルとその活用方法
- 推論とその心理実験
- 批判的思考
- メモ・ノートの取り方

本授業の前半は、講義による授業内容の解説と個人ワークが中心となるが、後半は、グループワークが中心となる。グループワークでは、メンバーがお互いに協力しながら心理実験の計画・実施・分析・考察までの一連の流れを実施する。

教科書 /Textbooks

市川伸一：考えることの科学～推論の認知心理学への招待～、中公新書、1997年、660円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：考える力と推論【ガイダンス】【認知心理学】
- 2回目：情報の受け取り方【メモ】【ノートテイキング】
- 3回目：形式論理と日常的論理(1)【四枚カード問題】
- 4回目：形式論理と日常的論理(2)【主題材料効果】【前件否定の錯誤】【後件肯定の錯誤】
- 5回目：心理実験の流れ(1)【疑う】【批判的思考】
- 6回目：心理実験の流れ(2)【問いを立てる】【抽象化】
- 7回目：心理実験の流れ(3)【仮説】【視点図】
- 8回目：心理実験の流れ(4)【被験者】【視座図】【作問】
- 9回目：心理実験の流れ(5)【分析する】【結論と考察】
- 10回目：グループワーク(1)【疑う】【批判的思考】
- 11回目：グループワーク(2)【問いを立てる】【抽象化】
- 12回目：グループワーク(3)【仮説】【視点図】
- 13回目：グループワーク(4)【被験者】【視座図】【作問】
- 14回目：グループワーク(5)【分析する】【結論と考察】
- 15回目：レポート評価・まとめ【関係づける】【比較する】

成績評価の方法 /Assessment Method

ノートテイキングの課題・・・10%、心理実験の流れに関する課題・・・20%、グループワークの課題・・・20%、心理実験レポート・・・30%、積極的な授業参加・・・20%

アカデミック・スキルズII (思考と推論) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに必ず教科書を読んで、その内容を理解しておくこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。また、授業時間内に各ワークの課題に未到達、または、満足のいく完成度でなかった場合は、授業時間外に積極的にワークの続きに取り組み、次の授業に備えること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。「アカデミック・スキルズI」を受講し、その内容をしっかり学んでいると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。そのため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブラーニング、コミュニケーション力、推論、心理実験

アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) 【 昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることです。最終的な目標は、テーマに沿って自分で問いを設定し、文献を読んで考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジユメの作りかた、論点の見つけ方、文献の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、受講者同士の議論を経て、レポートの作成を目指します。

教科書 /Textbooks

紅野謙介 2018『国語教育の危機』ちくま新書（880円＋税）

大学入試改革が何かと話題となった2019年を振り返り、この本を素材としてこれまでの初等・中等教育で身に着けてきた学力について考えてみようと思います。ただし、履修登録者名簿の学部バランスをみて、もう一冊同じ価格帯のテキスト候補を準備します。初回で受講者の希望に応じて、どちらのテキストがいいか決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 慶応義塾大学教養研究センター 2014『ダメレポート脱出法』慶應大学出版会
- 佐渡島沙織ほか編 2015『レポート・論文をさらによくする書き直しガイド』大修館書店
- 白井利明・高橋一郎2008『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：レポートを書くとは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 読んだ本の理解を深めるには・レジユメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 議論のしかた
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献（報告内容、積極的な発言など）50%
（第13回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。）
※報告者の無断欠席は厳しく減点します。
※学期末レポートの最低文字数は2000字です。

アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) 【 昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などはそれなりに時間がかかります。計画的かつ真摯に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修を希望する学生は、第1回の授業から必ず出席してください。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。受講する段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。
- ・ 演習の準備に時間がかかることを嫌がらないでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。レポートをあまり書かない学部の学生も、学期末には2000字以上のレポートを頑張って書いています。レポートに慣れている学部の学生は、この機会に自分の書き方を点検し、より高く評価されるレポートを目指してみましよう。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力

アカデミック・スキルズII (ソーシャルメディアと思考法) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間社会に与える影響について考える力を身に付けることである。特に、本授業ではソーシャルメディアに着目し、その成り立ちや技術、社会的な課題を学ぶことで、一人ひとりメディアへの関わり方を考え、人や社会とのつながりを再設計することで、新たなメディア環境を生きていくための力（メディア・リテラシー）を身に付けることを目的としている。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- ソーシャルメディアの歴史
- ソーシャルメディアの現在
- ソーシャルメディアの未来
- メディア・リテラシー
- ソーシャルメディアに対する思考力

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

藤代裕之 編著：ソーシャルメディア論 改訂版 - つながりを再設計する -、青弓社、2019年、1,800円（税抜）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：情報メディアとは何か 【ガイダンス】 【情報メディア】
- 2回目：ソーシャルメディアの登場による影響と問題点 【SNS】 【マスメディア】 【メディア・リテラシー】
- 3回目：思考力向上のためのスキル1 【批判的な読み方】
- 4回目：ソーシャルメディアの歴史を知る1 【歴史】
- 5回目：ソーシャルメディアの歴史を知る2 【技術】
- 6回目：ソーシャルメディアの歴史を知る3 【法】
- 7回目：ソーシャルメディアの現在を知る1 【ニュース】
- 8回目：ソーシャルメディアの現在を知る2 【広告】
- 9回目：思考力向上のためのスキル2 【視座図と視点図】
- 10回目：ソーシャルメディアの現在を知る3 【政治】 【キャンペーン】
- 11回目：ソーシャルメディアの現在を知る4 【都市】 【コンテンツ】
- 12回目：ソーシャルメディアの現在を知る5 【モノ】
- 13回目：ソーシャルメディアの未来を考える1 【地域】 【共同規制】
- 14回目：ソーシャルメディアの未来を考える2 【システム】
- 15回目：ソーシャルメディアの未来を考える3 【教育】 【人】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題・・・40%、レポート・・・30%、授業への参加態度・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに教科書を読んで、次の授業の内容を必ず理解しておくこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。

アカデミック・スキルズII (ソーシャルメディアと思考法) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

履修上の注意 /Remarks

「アカデミック・スキルズII」を受講し、その内容をしっかり学んでいると受講しやすい。
受講生の興味・関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、受講生の皆さんの意見や課題の結論等を発表、共有する場面が多くある。積極的に発言してもらいたい。

キーワード /Keywords

ソーシャルメディア、メディア・リテラシー、思考力、アクティブラーニング

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

身近なことをテーマに考えたり自分の考えを表現したりすることを、様々な学部(学群)の学生と行ってもらおう。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回：考える力
- 3回：コミュニケーション能力
- 4回：ことばを有効に活用するためのスキル
- 5回：自分を理解する①【大切にするもの】
- 6回：自分を理解する②【違和感のあるもの】
- 7回：相手を理解する
- 8回：自分を理解してもらおう
- 9回：個人発表
- 10回：ここまでの振り返り
- 11回：北九大を理解する①【キャンパス探訪】
- 12回：北九大を理解する②【課題設定】
- 13回：北九大を理解する③【表現する】
- 14回：個人発表(または、グループ発表)
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(事前・事後学習を含む) ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に役立つ活動を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の興味や関心に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。
受講する場合は、よく考えてください。

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、楽

関連するSDGsゴール：17.「パートナーシップで目標を達成しよう」

アカデミック・スキルズII (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

この授業では、社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を活用し、将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す（伝える）力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。グループワークも実施し、物事を深く考えて企画する力も身につけられるようアシストします。様々な学部 of 学生が集まり、共に学ぶことができる講座です。

新聞を活用した演習やクイズを実施して、文章添削も行う予定です。

教科書 /Textbooks

教材として授業時に新聞を配布します（教材費は1,000円以内の予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞なども活用する予定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 新聞の基本的な読み方とまわしよみ新聞の作り方、グループ分け
- 第2回 新聞のちから①まわしよみ新聞を基にテーマを選択
- 第3回 新聞のちから②テーマと疑問点を詰める
- 第4回 新聞のちから③文章の書き方（基礎編）
- 第5回 新聞のちから④文章の書き方（応用編）
- 第6回 新聞のちから⑤模擬取材体験
- 第7回 新聞のちから⑥取材結果をまとめる
- 第8回 新聞のちから⑦発表と講評
- 第9回 社会人基礎力養成①深く考える力を高める新聞の読み方
- 第10回 社会人基礎力養成②課題解決へ思考を深める
- 第11回 社会人基礎力養成③課題解決へ思考を深める
- 第12回 社会人基礎力養成④課題解決へ思考を深める
- 第13回 社会人基礎力養成⑤就活突破と新聞活用術
- 第14回 まとめ①「わたしたちの新聞」作成
- 第15回 まとめ②「わたしたちの新聞」発表と講評

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に関する作業の取り組みの度合いで総合的に判断します（100％）。詳しくは1回目の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞を活用します。
就職活動に役立つような簡単な演習などを課題として出題する予定です。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

アカデミック・スキルズII (教養を磨く 『新聞のちから』) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。

新聞報道の現場経験者が、その経験を活かしながら「読む力」「書く力」「話す力」「考える力」を向上させる授業を担当する。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力

関連するSDGsゴール：8.「働きがいも経済成長も」、17.「パートナーシップで目標を達成しよう」

実務経験のある教員による授業

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

情報社会への招待【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。

その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4．質の高い教育を，SDGs 8．働きがい・経済成長，SDGs 9．産業・技術革命，SDGs 10．不平等をなくす，SDGs 17．パートナーシップ

法への誘い【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 藤田 尚 / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW001F		◎	○		○
科目名	法への誘い				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自立的行動力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
各回、必要な資料があれば配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 なぜ憲法を改正できないのか？ - 憲法改正の位相
- 第3回 民泊は違法？ - 法律と条例の関係
- 第4回 肉1ポンドを担保にしてお金を借りることは許されるか？ - ヴェニスの証人に見る同意
- 第5回 少年犯罪は増えている？ - 少年犯罪と近年の動向
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか？ - AIと法
- 第7回 電気は「物」か？ - 物に関する法
- 第8回 女性にだけ再婚禁止期間が原則100日も設けられているのはなぜか？ - 民法における再婚禁止期間と嫡出推定の関係
- 第9回 タヌキはゴルフ場開発を止められるか - 令和ぼんぼこ狸合戦 - 当事者能力
- 第10回 会社の経営について決定権を持つのは誰か？
- 第11回 年金って私たちはもらえないんでしょ？ - 公的年金の役割
- 第12回 受信料は払わなければいけない？ - 放送と法
- 第13回 自分の臓器を売る自由？ - 自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家 - ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

法への誘い【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピューターリテラシー 【昼】

担当者名 /Instructor 古川 洋章 / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF101F		◎			
科目名	コンピューターリテラシー		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、コンピューターやインターネットを正しく扱うための知識や技術を学習し、情報社会において自らの考えや判断を表現・伝達する手段として活用する能力を身につけることです。そのため、本授業では実際にコンピューターを操作しながら、以下のような項目を達成できる技能の習得を目指します。

【情報モラル・情報セキュリティ】

- ・ インターネットにおけるリスクを把握し正しい使い方について説明することができる
- ・ 著作権と引用のルールについて説明することができる

【電子メール】

- ・ 電子メールの特性および仕組みについて説明することができる
- ・ ビジスマナーを意識した電子メールの作成・送受信ができる【文章作成】
- ・ 基礎的な文章の作成ができる
- ・ 文章作成ソフトの機能を活用した文章の装飾ができる
- ・ 長文レポートの作成ができる

【表計算・グラフ作成】

- ・ 基礎的な表の作成ができる
- ・ 数式や関数を用いたデータの集計ができる
- ・ グラフの作成ができる
- ・ ある条件に応じて出力結果を変えることができる

なお、本授業は初心者を対象としています。

教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』 FOM出版、2,000円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コンピューターの操作方法
- 3回 情報モラル・情報セキュリティ：インターネットにおけるリスクとコミュニケーション
- 4回 電子メール：大学における電子メール
- 5回 文章作成1：文章作成の基本操作
- 6回 文章作成2：文章作成ソフト機能の活用
- 7回 文章作成3：レポート作成
- 8回 文章作成4：文章作成練習
- 9回 演習1：文章作成
- 10回 表計算・グラフ作成1：表作成の基本操作
- 11回 表計算・グラフ作成2：データ集計・グラフ作成
- 12回 表計算・グラフ作成3：条件に応じた出力
- 13回 表計算・グラフ作成4：表計算・グラフ作成練習
- 14回 演習2：表計算・グラフ作成
- 15回 ふり返し・まとめ

コンピューターリテラシー 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ インターネット・情報モラル・情報セキュリティに関する課題...15%
- ・ 電子メールの課題...10%
- ・ 文章作成演習の課題...25%
- ・ 表計算・グラフ作成演習の課題...25%
- ・ 授業支援ツールを用いた授業への積極的な参加...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて予習してください。また授業終了後には、パソコン自習室や自身のパソコン等で積極的に復習してください。

履修上の注意 /Remarks

コンピューターの基本的な操作（キーボードによる文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすいです。また、受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、初心者を対象に、情報社会においてコンピューターやインターネットを正しく扱うための基本的な知識や技術について学習し、活用する能力の体得を目指します。実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に練習に取り組む姿勢が大切です。わからないことがあれば、随時、質問をしてください。
なお、第1回目の授業に必ず出席してください。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し受講可能な学生を決定します。詳細は、第1回目の授業中に説明します。

キーワード /Keywords

文章作成、表作成、グラフ、電子メール、情報モラル、情報セキュリティ

データ分析 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。コンピューターの高度化は、大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを表計算ソフトを用いて明らかにすることができる。
- ・ 与えられたデータからどの要素が関連するかを考え、その関係性を表計算ソフトを用いて明らかにすることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. データ分析はなぜ必要か
2. 表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
3. 表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
4. ヒストグラムと平均値
5. ヒストグラムとデータの散らばり
6. 分布のはなし
7. 分布から予測へ
8. 演習1：分布に関する演習
9. 要因比較のための集計
10. 2要因間の関係
11. 2要因間の関係から予測へ
12. 演習2：要因比較に関する演習
13. 総合演習
14. ふり返り
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，積極的な授業参加（レポート提出を含む）・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業内容・計画に従って、予め調べて学習しておくこと。

事後学習として、授業内容を反復すること。また、データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

データ分析【昼】

履修上の注意 /Remarks

表計算ソフトがある程度使えると、受講しやすくなる。
受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。
授業の開始前と終了後に出席確認を行うので、ICカード学生証を毎回忘れずに持参し、指示に従って正しく読み取り操作を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から、難しい数式が出てくる印象を与えるが、本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している。データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので、興味のある学生は積極的に受講して欲しい。
第1回目の授業に必ず出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。

キーワード /Keywords

分布，要因比較，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

データ分析 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。コンピューターの高度化は、大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを表計算ソフトを用いて明らかにすることができる。
- ・ 与えられたデータからどの要素が関連するかを考え、その関係性を表計算ソフトを用いて明らかにすることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. データ分析はなぜ必要か
2. 表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
3. 表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
4. ヒストグラムと平均値
5. ヒストグラムとデータの散らばり
6. 分布のはなし
7. 分布から予測へ
8. 演習1：分布に関する演習
9. 要因比較のための集計
10. 2要因間の関係
11. 2要因間の関係から予測へ
12. 演習2：要因比較に関する演習
13. 総合演習
14. ふり返り
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，積極的な授業参加（レポート提出を含む）・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業内容・計画に従って、予め調べて学習しておくこと。

事後学習として、授業内容を反復すること。また、データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

データ分析【昼】

履修上の注意 /Remarks

表計算ソフトがある程度使えると、受講しやすくなる。
受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。
授業の開始前と終了後に出席確認を行うので、ICカード学生証を毎回忘れずに持参し、指示に従って正しく読み取り操作を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から、難しい数式が出てくる印象を与えるが、本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している。データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので、興味のある学生は積極的に受講して欲しい。
第1回目の授業に必ず出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。

キーワード /Keywords

分布，要因比較，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

データ分析 【昼】

担当者名 /Instructor 古川 洋章 / 情報総合センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。コンピューターの高度化は、大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを表計算ソフトを用いて明らかにすることができる。
- ・ 与えられたデータからどの要素が関連するかを考え、その関係性を表計算ソフトを用いて明らかにすることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. データ分析はなぜ必要か
2. 表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
3. 表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
4. ヒストグラムと平均値
5. ヒストグラムとデータの散らばり
6. 分布のはなし
7. 分布から予測へ
8. 演習1：分布に関する演習
9. 要因比較のための集計
10. 2要因間の関係
11. 2要因間の関係から予測へ
12. 演習2：要因比較に関する演習
13. 総合演習
14. ふり返り
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，積極的な授業参加（レポート提出を含む）・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業内容・計画に従って、予め調べて学習しておくこと。

事後学習として、授業内容を反復すること。また、データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

データ分析【昼】

履修上の注意 /Remarks

表計算ソフトがある程度使えると、受講しやすくなる。
受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。
授業の開始前と終了後に出席確認を行うので、ICカード学生証を毎回忘れずに持参し、指示に従って正しく読み取り操作を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から、難しい数式が出てくる印象を与えるが、本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している。データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので、興味のある学生は積極的に受講して欲しい。
第1回目の授業に必ず出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。

キーワード /Keywords

分布，要因比較，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL205F			◎		
科目名	知の創造特講B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

私たちの思考や行動は、私達が暮らす社会のあり方によって規定されています。そして社会のあり方は、時代とともにこれまで大きく変化してきました。

特に社会のあり方に大きな影響を与えてきたのが「経済」です。

「経済」とは、私達が生きていくために何か価値あるものを作り、それを他者と交換することで生活の糧を得ることを意味します。つまり「経済」とは、働き収入を得て消費するという、日常の暮らしそのものを指しています。

こうした人々の暮らしが大きく変化する度、社会のあり方が変わり、その結果、人々の思考や行動も変化してきました。

この講義では、この事実を、実際の「経済」の歴史を通じて理解していただきます。

そのうえで、特にここでは、「現代人」の社会、暮らし、思考や行動のあり方に極めて大きな影響を及ぼした「高度経済成長期」（1950年代後半から1970年代前半）に注目します。

そしてここで、人々がどのような暮らしを手にし、いかなる思考や行動をするようになったのか考えます。

また、「高度経済成長」以後の暮らしの変化にも着目することで、現代に生きる私たちが「当たり前」と思い抱いている価値観や行動様式が、いつどのような経緯で浸透していくこととなったのか、その歴史についても、「経済」を通して考えてみたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「高度経済成長」とは何か
- 第5回 2. 文化的主体としての「団塊の世代」
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程
 - 1. 戦後の人口問題と経済成長の蓋然性
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 IV. 戦後家族モデルの成立
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第10回 2. 「上昇志向」の時代と日本人の生活意識
- 第11回 3. 日本人の理想とモデル - 「ミッチーブーム」と「象徴天皇」 -
- 第12回 V. 「ロストジェネレーション」
 - 1. 「幸せモデル」の確立
- 第13回 2. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第14回 3. 「失われた20年」と「ロストジェネレーション」
- 第15回 VI. 価値観・ライフスタイルの変化

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC002F			◎	○	
科目名	社会学的思考		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。そのために、以下の2点について講義する。
 (1) 社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。
 (2) 現代の社会問題を社会的に考えていく。とりあげる問題としては「大衆社会とファシズム」「社会的排除と貧困」などを予定している。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会学的な考え方は
- 第3回 社会的な要因による説明とは
- 第4回 個人と社会をつなぐ1 - デュルケム1 【自殺論 - 集合意識と行為】
- 第5回 個人と社会をつなぐ2 - デュルケム2 【自己本位的自殺】
- 第6回 個人と社会をつなぐ3 - デュルケム3 【アノミーの自殺】
- 第7回 個人と社会をつなぐ4 - ウェーバー1 【理解社会学】
- 第8回 個人と社会をつなぐ5 - ウェーバー2 【プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神】
- 第9回 機能主義とシンボリック相互作用論
- 第10回 現代の社会的解読1 - ファシズム1 【社会的性格とファシズム】
- 第11回 現代の社会的解読2 - ファシズム2 【デモクラシーと大衆社会】
- 第12回 現代の社会的解読3 - 社会的排除と貧困1 【社会的排除と生活困窮の現状】
- 第13回 現代の社会的解読4 - 社会的排除と貧困2 【生活困窮化のメカニズム】
- 第14回 現代の社会的解読5 - 社会的排除と貧困3 【社会的な支援のあり方】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

社会学的思考 【昼】

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1 貧困をなくそう、SDGs 3 健康と福祉を

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』(朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。¥2700 + 税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田中 信利 / 人間関係学科
松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
- 第12回 脳とこころ2【心身の発達と脳】
- 第13回 脳とこころ3【薬物の影響】
- 第14回 脳とこころ4【睡眠の影響】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(複数の小テストまたはレポート)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達的特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

現代人のこころ【昼】

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS001F	○		◎		○
科目名	企業と社会				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)
三戸公『随伴の結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴の結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、レポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS002F			◎		○
科目名	民主主義とは何か				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる；ことが求められる

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波新書
- シュンペーター, J. (大野訳 2016) 『資本主義, 社会主義, 民主主義』日経BP
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波文庫
- 杉田敦 (2001) 『デモクラシーの論じ方-論争の政治』筑摩書房
- 久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子 (2016) 『比較政治学の考え方』有斐閣

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカー-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(cf司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護するシュンペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての直接民主主義論や人民民主主義論・ポピュリズム(と後者がはらむ危険性)について知る。民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。V-dem指標を知り、たとえば民主主義の場から女性を排除してきたスイスは民主主義国だろうかといった問題を検討する。
4. 民主主義という意思決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうることを把握し、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想であることをその内容を含めて理解する。ただしCJTに対しては批判も存在し、オルタナティブとして結果の不確実性に伴う「支配の最小化」こそが重要だとする議論を紹介する。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにかんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。また、現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. ここまでの授業の整理として第1-7回の授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。
9. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても事例を含めて理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として第9 - 13回の授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。
さらに、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれ住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が変わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にしてください。また、本シラバスをご覧になった学生諸君は、本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません(それがない人を想定して授業を行います)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

SDG 5. ジェンダー平等 SDGs 16. 平和と公正

文化を読む【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGE O / 比較文化学科
生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 /Year 単位 2単位 /Credits 学期 1学期 /Semester 授業形態 講義 /Class Format クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT001F			◎		○
科目名	文化を読む		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

文化を研究するうえで、解釈する=読む行為は、分野をこえる基本的な営みである。本講義では、さまざまな人間の表現をとりあげて、人文的な知見からどのようにそれが読み解けるのかを示していく。文学研究、宗教研究、異文化間教育といった専門的知見から、その基本的な知識と方法を提示してみたい。“いま”、“ここ”にいる“わたし”にとって、異文化は時空をこえてひろがっている。そのことに鋭敏になるための気づきを用意するので、受講者は文化を読み解く柔軟な視点・姿勢を獲得してほしい。

◎宗教

宗教は文化の重要な構成要素であり、人間社会の価値観と密接な関係にある。我々にとってなじみ深い神道を取り上げ、他宗教との比較の観点を交えながらわかりやすく講義したい。

◎メディア

人間の生活はさまざまなメディアに媒介されて成立しています。本講義では異なるメディア間の表現比較、歴史的変遷の検討をおこないながら、われわれがなぜその表現にひかれてしまうのかを考えていきます。

◎異文化間教育

文化というもの、見える文化と見えない文化があり、本人が自覚しにくい見えない文化に気づくことが異文化理解の始まりである。異文化の理解があつてはじめて、外国語のコミュニケーション能力が育つ。

◎日本近現代文学および出版文化

日本の文学・出版物とはいえ、読めばわかるというものではない。明治・大正・昭和時代ともなれば、もはや異文化である。同時代の文化について学びながらテキストと対話する基本姿勢を身につけてもらいたい。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しない。授業担当者が必要に応じて資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 神社の成立
- 第3回 日本の神—神教との比較を通して
- 第4回 罪・戒律・禁忌
- 第5回 メディア表現の比較にむけて
- 第6回 作品研究(導入)
- 第7回 作品研究(鑑賞)
- 第8回 作品研究(比較と分析)
- 第9回 異文化を理解することは可能なのか?(見えない文化と価値観)
- 第10回 バイリンガルはうらやましい?(「移動する子ども」のライフストーリー)
- 第11回 異文化トレーニング(他者との出会いを捉え直す)
- 第12回 安部公房「棒」の解釈
- 第13回 乙一「陽だまりの詩」の解釈
- 第14回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を知る)
- 第15回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を読み解く)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%(宗教、メディア、異文化間教育、文学に関する4つのレポートすべてを提出しなければ、評価の対象とはならない)

文化を読む【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、授業担当者が講義中に指示する。
事後学習は、各回の授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等に関する質問は、コーディネーターの佐藤に質問すること。
講義内容に関する質問は、各回の授業担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

日本近現代文学、宗教、異文化、メディア

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR006F			◎		○
科目名	芸術と人間		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって広がる同時代の動きにつなげてみる。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」
美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒテキ アートダイバー 2014
- 「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ボルトンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つける
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭介 原発に抗する
12. 奈良美智 コドモの領分
13. ヤノベケンジ 失われた遊園地
14. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻き込むプロジェクト
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 2回 50%
レポート(学期末) 40%
日常の取組(出欠など) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2) 随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したが、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、プロジェクト

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR003F			◎		
科目名	現代正義論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

現代正義論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

情報表現【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF230F		○	◎	○	
科目名	情報表現		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、自分自身が伝えたい情報を表現すると共に、他者が表現した情報を理解するための知識や技術を習得することである。現代社会では、多様な人々と協力して、目標を達成するための力が求められている。自分の想いを一方的に伝えるだけでなく、他者の存在を意識して表現することが重要である。また、他者の意見を丁寧に聞き、その想いや立場を理解して、協調しながら物事を進めていく能力も大切である。このため、本授業では、個人ワークやグループワークを行いながら、以下の3点の習得を目指す。

- ・プレゼンテーションやロジカルシンキング、スライドデザインなどに関する学びや疑問などを具体的に表現することができる。
- ・プレゼンテーションソフトを活用して、伝えたい情報を分かりやすく表現することができる。
- ・相手に伝わりやすい表現を用いて、積極的に発表することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 プレゼンテーション【要約】
- 3回 プレゼンテーション【PREP】
- 4回 ロジカルシンキング【課題発見】
- 5回 ロジカルシンキング【原因分析】
- 6回 プレゼンテーション【パワーポイント】
- 7回 プレゼンテーション：情報の収集【検索】【信頼性】
- 8回 プレゼンテーション：情報の整理【プロット】
- 9回 プレゼンテーション：情報の整理【ストーリー】
- 10回 プレゼンテーション：情報の表現【デザイン】
- 11回 プレゼンテーション：情報の表現【レイアウト】【話し方】
- 12回 プレゼンテーション：情報の発信【発表】
- 13回 プレゼンテーション：情報の発信【聞き手】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

振り返りレポート... 40%
プレゼンテーションソフトを用いた課題作成... 40%
積極的な授業参加(宿題提出や発表などを含む)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、課題を準備しておくこと。課題は、コンピュータ操作を伴うものもある。(必要な学習時間の目安は、90分。) 授業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、課題レポートを締め切りまでに間に合うように提出すること。(必要な学習時間の目安は、30分。)

情報表現【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は、「アカデミック・スキルズ」を履修しておくことが望ましい。グループワークを行う際のグループ分けについては、その都度、授業中に説明する。自由に組んでもらう場合もあれば、指定する場合もある。何れの場合も相手の立場を尊重して、建設的なグループワークを行って欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、振り返りレポートを提出してもらい、受講生の質問や意見を反映させながら、授業を展開する。このため、積極的に授業に参加して欲しい。また、実際にコンピュータを操作して作成する課題もある。その際には、授業時間外にパソコン自習室や自宅のパソコンなどで積極的に取り組んで欲しい。受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、スライドデザイン

倫理思想史【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR005F			◎		
科目名	倫理思想史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近代では倫理は「倫理学」として独立した分野になっていますが、洋の東西を問わず、倫理・道徳は宗教（聖）、政治的共同体と密接な関係をもっています。また西欧においては、道徳的なものは美をもつとされ、「美しき魂」「美しき国家」の理想がとくにドイツ思想において重視されてきました。

この講義では、倫理・道徳と宗教（聖）、倫理・道徳と自然法、倫理・道徳と美（芸術作品）との分裂や融合のせめぎ合いの歴史を、近代の思想をたどることによって、明らかにします。そのことによって、現代において、法や社会を見る目が涵養され、自分がどのように行動し、判断すればよいかの「判断力」を養成する一助となることをめざします。

教科書 /Textbooks

各講義でレジメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 イントロダクション：カール・シュミットと「中立性の時代」
- 第2講 第1部 聖と善の分離
(1) ルター：宗教の内面化
- 第3講 (2) ホッブズ：宗教と国家の分離、「暗黒の王国」と宗教的権威に変わる「主権」=「可死の神」
- 第4講 (3) スピノザ：民衆の道徳としての宗教、『神学・政治論』
- 第5講 (4) カント：理神論を超える理性宗教、『理性の限界内における宗教』
- 第6講 (5) フィヒテ：理性宗教の確立「生きた道徳法則が宗教」
- 第7講 第2部 法と善と聖の分離とせめぎあい
(1) ルソー：自律道徳のための法としての『社会契約論』
- 第8講 (2) カント：自由と法、「理論と実践」
- 第9講 (3) フィヒテ：フランス革命の哲学と『自然法の基礎』
- 第10講 (4) カール・シュミット：主権の不可侵性、「政治神学」
- 第11講 第3部 美と人倫、「美しき共同体」を求めて
(1) カント：美と目的論、『判断力批判』
- 第12講 (2) シラー：美と人倫、『カリアス書簡』と『美的教育書簡』
- 第13講 (3) ヘルダーリン：精神の詩学、『ヒュペーリオン』と『エンペドクレス』
- 第14講 (4) マルクス：物象化とコミュニケーション主義としてのコミュニズム
- 第15講 (5) ウィリアム・モリス：美と工芸のコミュニズム

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート60パーセント。講義中でのリフレクション・カード40パーセント。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、参考文献を挙げるので、取捨選択して読んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

交通機関の遅れなどやむをえない場合（要証明書）を除いて、30分を超えての遅刻入室は認めません。

倫理思想史 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい授業を心がけます。質問、議論を歓迎します。

キーワード /Keywords

言語・認知・コミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN210F			◎		
科目名	言語・認知・コミュニケーション				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。
まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)

- 第1回 序・講義の進め方・担当者紹介(漆原・全員)
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか(言語習得)(漆原)
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか(言語脳内処理・失文法)(漆原)
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程(税田)
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション(税田)
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援(税田)
- 第7回 ヒューマンエラー(松田)
- 第8回 アフォーダンスとシグニファイアー(松田)
- 第9回 脳と心のなりたち(脳のはたらきを支配する遺伝子)(日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか(言語と遺伝子)(日高)
- 第11回 モノの見方と言語表現(認知意味論)(木山)
- 第12回 比喩は文学表現か(メタファー)(木山)
- 第13回 文は語彙の足し算か(構文文法論)(木山)
- 第14回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第15回 まとめ:担当者によるパネル・ディスカッション(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員の課題を提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習: 担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210F	○		◎		○
科目名	戦争論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT110F	○		○	◎	
科目名	異文化理解の基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に付ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容と近代

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教とコミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題の不正、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要な時に努力すればすぐ入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC004F			○	◎	○
科目名	人権論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なもの」というイメージを抱くかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念、現存する人権課題やその社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権課題とは何かについて共に考えていきたい。

目標

1. 人権とは何かについての基本的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深める。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」 オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」 人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「平和と人権」 戦争・平和についての解説。
- 6 「ハンセン病について」 ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。
- 7 「教育と人権～識字問題」 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 8 「教育と人権～夜間中学」 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 9 「部落問題について」 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 10 「部落問題について」 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 11 「在日外国人と人権課題」 在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 12 「在日コリアンについて」 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 13 「障害者と人権」 障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 14 「アジアの人権状況」 アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

人権論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権課題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。
- ・ 教科書及び配布資料は熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率7割を満たした学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GEN001F			○	◎	○
科目名	ジェンダー論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標とする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『改訂版 ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2017）2,640円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンを愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR110F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
 地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
 講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55点) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
 講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください(自習時間の目安は60分程度)。
 受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

サービスラーニング入門I【昼】

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加を前提としています。したがって受講生は、自ら「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉と了解を得、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義は受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどを「事前レポート」(1500字程度)を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。本講義は、こうした課題などに積極的にコミットする受講生を求めています。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門Ⅱ【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR180F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- 3 サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- 4 サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- 5 サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- 6 サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- 7 サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 8 計画発表会①
- 9 計画発表会②
- 10 実践報告①
- 11 実践報告②
- 12 実践報告③
- 13 実践報告④
- 14 受講生による振り返り
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55点) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください(自習時間の目安は60分程度)。
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。
「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 20%
期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

地域福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

志賀信夫・ 畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・ 行政の今とこれから』旬報社 1,400円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・ 社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
難波利光・ 坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・ 福祉・ 国際視点からのアプローチ-』大学教育出版
その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 ゲストスピーカー
- 5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 6回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出・・・40% 期末試験・・・60%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。
事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ（もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」）でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW001F	○		○	◎	
科目名	障がい学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ、ディスカッションも含む【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW200F	○		○	◎	
科目名	共生社会論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴(医療モデル的作品)【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴(文化モデル的作品)【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

基盤演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症(障害)を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症(障害)とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史の変遷【歴史の変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本(1) 障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本(2) 構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本(3) コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本(4) 行動問題への対応【行動問題、冰山モデル】
- 第12回：支援の基本(5) 自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本(6) 余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加(貢献)度30%。
課題への対応70%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることに関してインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

基盤演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制における軍部とはいかなる存在だったのか？なぜ、昭和になると軍部は台頭したのか？日本近代史最大の問題点についてみんなで議論していきましょう。

「演習」方式の授業なので、文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実際に学んでいきます。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助にしたいと思います。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。受講者数にもよりますが、毎回2名程度の受講生に報告してもらいます。15回の演習で、一冊完読をめざします。

教科書 /Textbooks

小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、税別1300円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読（明治期を中心に読んでいきます）。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジュメの内容...50%
無断欠席やレジュメの未提出は1回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、テキストの該当ページを全員読んでおくこと。担当者はレジュメを作成すること。
「演習」終了後は議論の内容を念頭に置きながら、再度テキストを読むこと。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最新の研究成果を用いてみなさんと楽しく議論できればと思います。

キーワード /Keywords

基盤演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この演習では、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。具体的には、以下のことを身につけることを目指す。

- （1）自らの関心に沿った「問い」の立て方
- （2）論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- （3）情報収集の方法
- （4）文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- （5）論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「テーマ」について考える
 - 第3回 「問い」を立てる
 - 第4回 論証戦略を考える（方法を検討する）
 - 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
 - 第6回 情報を集める2 - CiNii, 国立国会図書館 (NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口 (e-Stat)、電子政府の総合窓口 (e-Gov)
 - 第7回 論文検討会1
 - 第8回 文献レビュー（テキスト批評）1
 - 第9回 文献レビュー（テキスト批評）2
 - 第10回 文献レビュー（テキスト批評）3
 - 第11回 文献レビュー（テキスト批評）4
 - 第12回 文献レビュー（テキスト批評）5
 - 第13回 文献レビュー（テキスト批評）6
 - 第14回 文献レビュー（テキスト批評）7
 - 第15回 まとめ
- なお、順番・内容は変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

基盤演習I【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

基盤演習I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回

オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回

振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

基盤演習II (文化論セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

文化と社会について学びながらレポートの書き方を向上させる：
本演習では、世界の文化と社会に関する文献を入り口として、そこから各自の関心に応じて「自分でテーマを設定し、学びを深め、レポートを書く」ということを目指します。コミュニケーション能力のうち、建設的に議論する能力と、自分の主張を説得的に文章で表現する能力を伸ばします。今学期は、「あたりまえを疑う」ことをテーマに最近の文化研究の成果に関して知識を深めつつ、勉強の仕方も学ぶことを目指します。

教科書 /Textbooks

松村圭一郎ほか編 2019 『文化人類学の思考法』世界思想社 (1800円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐渡島紗織2015 『レポート・論文をよくする「書き直し」ガイド』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学における本の読みかた・探しかた
- 第2回 議論のしかた
- 第3回 論点の広げ方
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論④
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業における取りこみ50%
ただし、報告者の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・レジュメの作成、レポートの執筆にはそれなりに時間がかかります。計画的かつ真摯に課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

・履修を希望する学生は第1回から出席してください。受講者数調整がなければ修正申告終了までは履修登録できますが、欠席分の授業内容を自習する努力が必要となります。

基盤演習II (文化論セミナー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当者の講義 (「異文化理解の基礎」 「現代社会の文化」) や 「アカデミック・スキルズ2」 を履修したことがあると、理解が深まります。
- ・ 文献のタイトルには 「文化人類学」 とありますが、思考を柔軟にしながら世界について考えたい学生は、学部を問わず歓迎します。

キーワード /Keywords

文化、文化人類学

基盤演習II【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制における軍部とはいかなる存在だったのか？なぜ、昭和になると軍部は台頭したのか？日本近代史最大の問題点についてみんなで議論していきましょう。

「演習」方式の授業なので、文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実際に学んでいきます。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたいと思います。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合は本の内容の要約です。受講者数にもよりますが、毎回2名程度の受講生に報告してもらいます。15回の演習で一冊完読をめざします。

教科書 /Textbooks

小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、税別1300円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2 - 14回 『近代日本の軍部 1868 - 1945』の輪読（昭和史を中心に読んでいきます）。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%、報告とレジюмеの内容...50%

無断欠席やレジюмеの未提出は1回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、テキストの該当ページを全員読んでおくこと。担当者はレジюмеを作成すること。

「演習」終了後は議論の内容を念頭に置きながら、再度テキストを再読すること。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者が11名以上の場合には受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学教員生活最後の「演習」です。最新の研究成果を用いてみなさんと楽しく議論できればと思います。

キーワード /Keywords

基盤演習II【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この演習では、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法・調査によって論文（レポート）を書くことをめざす。具体的には、以下のことを身につけることを目指す。
 (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
 (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
 (3) 情報収集の方法
 (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
 (5) 論文（レポート）の書き方
 その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。
 報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「テーマ」について考える
 - 第3～4回 「問い」を立てる
 - 第5～6回 情報を集める1
 - 第7～10回 文献レビュー
 - 第11回～14回 質的調査の方法
 - 第15回 まとめ
- なお、順番・内容は変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%
 (総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

基盤演習II【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回

オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回

振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 堀内 喜代美 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL207F					◎

科目名	ライフ・デザイン特講B	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	-------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

本授業は、国際教育交流センターが用意する教員引率型の海外学習プログラムのための講座です。出国から帰国まで教員が引率します。渡航準備のための事前学習も行われるので、まだ海外経験のない学生や海外渡航に不安のある学生にとっては、最適な入門コースです。また本学が大学間交流協定を結ぶ大学等を訪問し、協定校の実際の授業を見学・聴講したり、学生等との交流の機会も用意されていますので、この短期研修参加を契機に、より長期の海外留学につなげたいと思っている学生にとっても良い経験となることでしょう。

2020年度は、
Plan 「ハワイの文化と歴史を学ぶ、スタディツアー」
渡航先「ハワイ（オアフ島）」、連携大学「ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ」、期間：9月上旬からの10日間、費用：16万円程度、募集人数16名
を用意しています。

* 行先等は、COVID-19の影響等で変更となる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。また催行中止となった場合には、それぞれの期間における学内授業等に切り替えることとなりますので、あらかじめご了承ください。

上記の海外現地学習の日程に加え、渡航前学習として第1学期の授業期間中等に開かれる5回分相当のクラスに、帰国後学習として第2学期の授業期間中等に開かれる4回分相当のクラスに、参加してもらうことになります。

到達目標は、
□ 渡航前学習において、現地で学習したいテーマを自ら設定し、その内容を調査し、現地でのインタビュー項目も含めた調査計画書を作成することができる、
□ 海外現地学習において、コミュニケーション力を屈指した現地での交流や経験を通じ、異国や異文化への理解を深めるとともに、自国や自文化、自己のアイデンティティについても考える意欲を得ることができる、
□ 帰国後学習において、自己の経験や成長を振り返り、言語化し、他者に適切に発信できるとともに、それらをその後の学生生活に活かしていく積極的な姿勢を身につける、とします。

なお海外体験の費用は、参加者負担となります。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。
授業に必要な資料は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション
- 第02回 渡航前学習①：講義と学習サブテーマの設定
- 第03回 渡航前学習②：調査・発表準備
- 第04回 渡航前学習③：プレゼン
- 第05回 渡航前学習④：研修（海外危機管理を含む）
- 第06回 海外現地学習①：キャンパス訪問
- 第07回 海外現地学習②：フィールド活動「施設・史跡見学」
- 第08回 海外現地学習③：フィールド活動「専門家セミナー」
- 第09回 海外現地学習④：協定校学生との協働学習
- 第10回 海外現地学習⑤：現地視察
- 第11回 海外現地学習⑥：発表と交流
- 第12回 帰国後学習①：成果報告会準備・プレゼン骨子の確定
- 第13回 帰国後学習②：PPT資料作成
- 第14回 帰国後学習③：成果報告会
- 第15回 総括

海外現地学習の催行日程等の詳細も含めて本プログラムへの参加の仕方など情報は、国際教育交流センターのHPに掲載されますので、ご利用ください。質問等あれば、ninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで、お問い合わせください。

また4月13日（月）～15日（水）（予定）に相談会を実施します。

日程や参加方法が固まりましたら、国際教育交流センターのHP <http://international.kitakyu-u.ac.jp/> や Twitter @ukk_intl など情報を流します。

成績評価の方法 /Assessment Method

渡航前学習，海外現地学習，帰国後学習の3つのプログラムでの取組状況に関し，成績評価を行います。

渡航前学習	25%
海外現地学習	50%
帰国後学習	25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い，事前学習を行い，授業に臨んでください。また指示に従い，事後学習を進め，授業内容の定着を図ってください。なお詳細は，北方モデルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

すべての学習プログラム（渡航前＋海外現地＋帰国後）に参加してください。一つでも欠けると，成績を出すことができない場合があります。とくに海外現地学習は，マストです。

海外現地学習Planの募集人数は，16名です。そのため修正申告期間までに，受講者の調整が行われます。

まずは4月開催の説明会等に参加して，プログラムの内容・手続きなどを十分に理解するように心がけてください。

なお受講申告にあたっては，所定の期間内にPlanへの応募を済ませ，ご自身の枠をきちんと確保してから，登録するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで，あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に，地球規模の視野で考え，現地の視点で行動できる人材になる，そんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

国際教育交流センター，海外学習，ファカルティレッドプログラム（FLD）

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

大学生生活を充実させるものにするための授業です。その為に、自己理解やコミュニケーションスキルの向上が必要と考えます。また、大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ① 様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ② 将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③ コミュニケーションをとることに慣れる
- ④ 社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤ 自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 全体ガイダンス 【講師紹介、全体計画、授業形式紹介等】
- ② キャリアデザインがなぜ必要なのか? 【トークセッション】
- ③ SDGs 【これからの社会のキーワードSDGsの本質】
- ④ わたしのキャリアI 【企業で働く】
- ⑤ わたしのキャリアII 【個人で働く】
- ⑥ わたしのキャリアIII 【自分で事業を興す】
- ⑦ これからの日本社会をとりまく環境 【このままで日本はどうなる】
- ⑧ 自分の頭で考えよう 【言われたことをやるだけの時代ではない】
- ⑨ 見える資産・見えない資産 【自分ブランディング】
- ⑩ ビジネスについて知ろう 【ビジネスとは何か】
- ⑪ キャリアの転機とエンプロイアビリティ 【社会が求める人物とは】
- ⑫ リーダーシップの重要性 【全員がリーダーシップを発揮する】
- ⑬ 自分の価値観を知ろう 【自分の強み、弱みなど】
- ⑭ 将来のキャリアを考えよう 【自己分析と未来分析】
- ⑮ 全体まとめ、ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%
授業内のレポート...20%
まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下を守ってください。

①遅刻厳禁②飲食禁止③作業時間は守る④授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑤グループワークでは積極的に発言する⑥周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑦分からないことは聞く⑧授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができます。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 充実した大学生活（新生活）のためのリスクマネジメント
- 3回 大学の「使い方」
- 4回 「理想」の大学生活・・・なんてあるの？
- 5回 ゲストスピーカーによるご講演（世界の果てで子どもを救う）
- 6回 大学での勉強、どうする？
- 7回 健康的な大学生活（セルフカウンセリングについて）
- 8回 自分の可能性を広げるために
- 9回 「自分」はだれか？
- 10回 かわいい子には「旅」をさせる・・・べき？
- 11回 ゲストスピーカーによるご講演（国際キャリアのつくりかた）
- 12回 変わりつつある世界の中でどう生きるか
- 13回 ゲストスピーカーによるご講演（他者のために生きる人生）
- 14回 ようこそ先輩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業内レポート50% 課題レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

<目的>

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・具体的には大学生の本分である学びの深掘、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・就職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアアエンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

<進め方>

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

<目標>

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。そして、アイデンティティ（自分らしさの探求）やコミュニケーション能力、課題解決力などを身に付け、社会が必要とする創造力を発揮できる基礎を身につけること。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料をMoodleにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン【昼】

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

以下書籍はその参考例です。

- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1 基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川 恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- スブツニ子!『はみだすか』宝島社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 中原淳、見館好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・社会で求められる力
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 幅広い視野・柔軟性を身につけるには(先輩登壇)
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 7回 働くということ(社会人登壇)
- 8回 新しい仕事を創る(ジョブスタ)
- 9回 ケーススタディワーク(酒造メーカーの改革)
- 10回 自分らしい就職活動をするには(卒業生・内定者登壇)
- 11回 企業団体研究(面白い企業団体を知る)
- 12回 計画された偶発性(幸運は準備とチャンスの交差点)
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(予習・復習・メンバーからの相互評価)・・・78%
インタビューレポート・・・13%
最終レポート・・・9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> Moodleに予習・相互評価・復習を掲示しますので毎週締め切りまでに行ってください。
<インタビューレポート> 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】

※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】

※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティア活動などが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。よって、できるだけ早くそれらに挑戦してほしいのですが、そもそも「何がやりたいのか?」がわからなければ、探すことも選ぶこともできません。ゆえに、

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代に寝食を忘れて取り組むテーマを見出してもらう仕組みと、そのために必要な力が獲得できるように設計しました。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全

実務経験のある教員による授業

メンタル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類、よくある誤解】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【大人】
- 第6回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第7回 精神と行動の異変(2)【精神疾患】
- 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業のリアクションをMoode上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS003F					◎
科目名	自己管理論				◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらう。それらの講義を聴講して、以下の3点の習得を目指す。

- ・生活に必要な考え方や自己管理に関する学びを具体的に表現することができる。
- ・今後の人生に必要な考え方を理解し、自分の言葉で表現することができる。
- ・授業に参加して感じた疑問点を表明することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会人のマナー
- 3回 選挙・まちづくり
- 4回 災害への備え
- 5回 犯罪防止
- 6回 自転車の交通安全
- 7回 消費者トラブル
- 8回 大学生とお金
- 9回 身体の健康
- 10回 心の健康
- 11回 ハラスメント防止
- 12回 消防と救急
- 13回 薬物乱用
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ほぼ毎回実施する課題レポート ... 70%
授業中に行う質疑応答 ... 10%
まとめレポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、提出用のレポートを準備しておくこと。業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、課題レポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の開始前と終了後に出席確認を行うので、ICカード学生証を毎回忘れずに持参し、指示に従って正しく読み取り操作を行うこと。また、入学式で配布される資料や北九州市立大学Webサイト上の「学生生活・就職」のページを参照すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらおう。このため、以下の注意点に留意すること。

- ① 第1回目の授業に出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。
- ② 遅刻することなく、毎回授業に出席すること。授業計画や授業内容等は、外部講師の都合により、変更になる可能性がある。その場合は、その都度授業中に説明する。
- ③ 質問や相談等は、指定する担当教員に行うこと。多くの外部講師が担当する授業になるため、担当教員が代表して窓口となる。毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)【主体性】
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)【体脂肪】
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

フィジカル・ヘルス 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことと考えます。

スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。また、特別講師としておがわ整骨院院長の小川博久先生からテーピングを中心に授業を行います。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウエイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 50%
 レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
 授業後は文献等で再度復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体活動をととして理論と実践を学びます。
積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

健康・安全・衛生

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)【主体性】
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)【体脂肪】
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～13回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 14回 スキル獲得テスト②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
 本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 ライフ・デザイン科目

担当者名 梨羽 茂
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ゲーム法の解説
- 9回～14回 ゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
 本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 下釜 純子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 体作り運動
- 3回 体幹トレーニング
- 4回 体のバランスを意識した運動 (ストレッチ・バランスボール)
- 5回 ヨガ
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 10回 バasketボール (1) ドリブル、パス、シュートの基礎練習
- 11回 バasketボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【トレーニング】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズⅡ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズII
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。

授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 松田 晃二郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、ラケット種目の実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 テニスの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 サーブ・ボレー練習
- 4回 テニスゲーム①
- 5回 テニスゲーム②・スキル獲得テスト
- 6回 バドミントン基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー・ドロップ)
- 7回 バドミントンルール説明・ゲーム①
- 8回 バドミントンゲーム②
- 9回 バドミントンゲーム③
- 10回 スキル確認テスト
- 11回 卓球基本練習 (サーブ・ラリー継続)
- 12回 卓球ルール説明・ゲーム①
- 13回 卓球ゲーム②
- 14回 スキル獲得テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。
テニスは基本的グラウンドで実施します。雨の日は室内で実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

また、フェアプレーも学びます。

教科書 /Textbooks

授業時間に必要な資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

時速400キロ・フェアプレー

世界での学び方【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 堀内 喜代美 / 国際教育交流センター
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業科目は、「海外での学びを体験させることで、国際理解や知識を拡大させるとともに、語学力の向上につなげさせ、グローバル社会で活躍する意欲を高め、自ら行動できる人材を育成するための教育プログラム」であるKGEP Standard/Challengeコースの入門科目となっています（コース修了のための要件科目（必修）です）。

受講を通じ、大学時代に海外での学びを体験してみたいと考えている人に、その経験が自己のキャリアにとってどのような意味を持つのかについて考えてもらうことで、学生が社会で生きるのに必要とされる「自立的行動力」としての自己を確立する力を涵養することを目的としています。また準備科目としての性格も有することから、学生が海外体験を円滑に実施できるよう、必要な知見や視座を提供することも意図しています。

なお具体的な本講義の到達目標として、以下の6点を設定しています。

- ① 北九州市立大学がなぜ学生の海外体験を推奨しているのか、大学理念・目的や国際交流の歴史の学習を通じ、理解し、説明できる。
- ② 北九州市立大学の海外体験プログラムの種類や特徴を、私的プログラムとの異同も含め理解し、説明できる。
- ③ 海外体験に伴う負担や危機リスクについて、一定の知見を獲得するとともに、困難に遭遇した際の基本的な対処の仕方を身につけている。
- ④ 海外体験の目標を、自己の成長の観点から、かつ、キャリア設計の観点から、設定することができる。
- ⑤ 授業内容を踏まえ、最終的に、自身の海外体験挑戦計画を策定できる。
 - a) 体験の前までにクリアしなければならない要件を明確に把握できている。
 - b) 要件をクリアするために必要なプロセスを理解し、時間軸の観点を導入した計画を立案することができる。
 - c) 段階ごとに適切な目標を立て、それを達成するために必要な取り組みを考えることができる。
 - d) あわせて、それらに積極的に挑戦し、達成しようとする十分な意欲を有している。
 - e) 海外体験中や帰国後の視点を有している。
- ⑥ 海外体験で得た経験を、後輩たちに共有・継承する意欲や社会に還元しようとする高い意欲を有している。

授業では、講義を中心としますが、必要に応じ、グループワークや個人作業（海外体験を経験した本学学生や海外協定校からの短期留学生への聞き取りやインタビュー）、講演などを組み合わせて進めていきます。この授業を通じ、海外で学ぶことに対する不安や迷いを解消できるように、また皆さんが自身の将来のことをより積極的に考えていけるように、支援したいと考えています。またみなさんの一人でも多くが、KGEP Challengeコースを修了されることを期待します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。(2019年1月時点)

講義資料等は、北方モデルにアップするので、各自、印刷して精読し、持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義時に、適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション ～世界の学び方ってどんな授業～...「井の中の蛙大海を知らず」
 - 第02回 北九大の「KGEP」と「海外体験プログラム」の紹介...「敵を知り己を知れば百戦危うからずや」
 - 第03回 北九州市立大学の国際交流の歴史と今...「温故知新」
 - 第04回 ショートプログラム（語学研修など）への参加のすすめ...「隗より始めよ」
 - 第05回 「交換留学」や「派遣留学」への挑戦のすすめ...「虎穴に入らずんば虎子を得ず」
 - 第06回 海外体験を将来にどう生かすか考えよう（成長の可視化）...「艱難、汝を玉にす」
 - 第07回 異文化体験と適応...「柳は緑花は紅」
 - 第08回 留学相談会に参加してみよう...「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」
 - 第09回 参加の報告発表会
 - 第10回 海外での危機管理について考えておく...「転ばぬ先の杖」
 - 第11回 海外体験で得た経験を大学や地域に還元しよう...「情けは人の為ならず」
 - 第12回 海外体験計画を作る...「画竜点睛」
 - 第13回 Group 1による海外体験計画の発表会
 - 第14回 Group 2による海外体験計画の発表会
 - 第15回 まとめ 【総括】
- * 留学フェアなどの時期により、講座の入替が生じます。具体的な日程は、初回授業時に指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業課題・・・40%
- 実践課題・・・20%
- 最終課題・・・40%（「海外体験挑戦計画」書：30%+発表：10%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業に臨むことを求めます。また指示に従い、事後学習（課題）を進め、授業内容の定着を図ってください。詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、国際教育交流センターが所管する Kitakyushu Global Education Program の一部です。国際教育交流センターの海外体験プログラムの事前教育の一環となりますので、同センターが募集手続きを行う交換留学・派遣留学、語学研修等への参加を考えている方は、本授業を受講することを強くお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、現地の視点で行動できる人材になる、そんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

国際教育交流センター、国際交流、海外体験、交換留学、派遣留学、語学研修、海外短期研修

世界での学び方【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 友松 史子 / 国際教育交流センター
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR210F					◎
科目名	プロフェッショナルの仕事				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です（敬称略・順不同）。

<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドギヴ・ニーズ（T&G）、サニーサイドアップ、チームラボキッズ（teamLab）、労働基準監督官（厚生労働省）、カモ井加工紙（mt）、大創産業（ダイソー）、西日本旅客鉄道（JR西日本）、スノーピーク、全日本空輸（ANA）、本田技研工業（HONDA）、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

<2018年度> ファミリア、日本航空（JAL）、メルカリ、ペンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構（JAXA）

<2017年度> サニーサイドアップ、ジンス（JINS）、JR九州エージェンシー、全日本空輸（ANA）、日本放送協会（NHK）、キャメル珈琲（カルディ・コーヒーファーム）、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス（モスバーガー）、日本たばこ産業（JT）、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、力の源ホールディングス（一風堂）、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウェザーニューズ、旭酒造（獺祭）

<2015年度> ムーンスター、日本放送協会（NHK）、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、九州旅客鉄道（JR九州）、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空（JAL）、ニトリ、北九州市

<2014年度> ストライプインターナショナル（earth music & ecologyなど）、北九州市、ジンス（JINS）、東急ハンズ、ハウステンボス、朝日新聞社、日本アクセス、東京海上日動火災保険、JTB九州、アイ・ケイ・ケイ、伊藤忠エネクス、山口フィナンシャルグループ（山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行）、再春館製薬所、全日本空輸（ANA）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91%
最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習（予習）を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り（復習）を提出すること。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。
やむを得ない事由で欠席する場合はメールで事前にお知らせください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話いただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

企業・団体の課題解決【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR211F					◎
科目名	企業・団体の課題解決		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。通常、そのような力は課外におけるインターンシップやプロジェクト活動などで身に付けますが、本授業はそれを明確に単位化したものです。なお、旧授業名は「プロフェッショナルの仕事2」。

<進め方> 以下の流れで企業団体（3団体）の課題に挑戦し、各チームで競います。課題解決のノウハウは、その他の回で講義します。

1. 企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- ジェームス W. ヤング 『アイデアのつくり方』 CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎 『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』 デイスクヴァー・トゥエンティワン
- 加藤昌治 『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』 CCCメディアハウス
- 加藤昌治 『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』 CCCメディアハウス
- 香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』 日本経済新聞出版社
- 金井寿宏 『リーダーシップ入門』 日本経済新聞社
- J.D. クランボルツ、A.S. レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』 ダイヤモンド社
- 大嶋祥誉 『マッキンゼー入社1年目問題解決の教科書』 SBクリエイティブ
- 大嶋祥誉 『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』 SBクリエイティブ
- スブツニ子! 『はみだすカ』 宝島社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンスと課題解決のノウハウ(その1)
- 第02回 【団体A】課題の提示とチームビルディング
- 第03回 【団体B】課題の提示とチームビルディング
- 第04回 【団体C】課題の提示とチームビルディング
- 第05回 クリエイティブシンキングのノウハウ
- 第06回 相談日
- 第07回 【団体A】中間発表とフィードバック
- 第08回 【団体B】中間発表とフィードバック
- 第09回 【団体C】中間発表とフィードバック
- 第10回 課題解決のノウハウ(その2) ※各班の発表を題材に
- 第11回 プレゼンテーションのノウハウ
- 第12回 相談日
- 第13回 【団体A】最終発表と総合評価、フィードバック
- 第14回 【団体B】最終発表と総合評価、フィードバック
- 第15回 【団体C】最終発表と総合評価、フィードバック

※参考

<2019年度の企業団体と課題>

■TOTOインフォム株式会社

社員が安心して働ける職場を実現するには？

■アイ・ケイ・ケイ株式会社

今までにない感動を体感できるウェディングとは？

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

<2018年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

毎日見なくなる「ニュースブリッジ北九州」になるためには？

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

■株式会社スターフライヤー

新しい機内販売の提案

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(リフレクション)・・・56%

最終発表に対する評価(企業団体からの評価と相互評価)・・・30%

最終レポート・・・14%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後はMoodleで振り返りを行ってください。

履修上の注意 /Remarks

※第1回で履修人数を確認しますので、必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員(mitate@kitakyu-u.ac.jp)までメールで連絡をしてください。

※第2～4回までの各企業団体の課題を理解した上で、挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み(授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など)による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員(職員)からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません(受け入れ企業団体が少ないため)。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

Communicative English I (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC®L&R TEST 500 Listening 松柏社 1430円
世界を読み解く15の扉 朝日出版 1980円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Scene 1/2 (リスニング)、Unit 1 (リーディング)
- 3回 Scene 3/4 (リスニング)、Unit 2 (リーディング)
- 4回 Scene 5/6 (リスニング)、Unit 3 (リーディング)
- 5回 Scene 7/8 (リスニング)、Unit 4 (リーディング)
- 6回 Scene 9/10 (リスニング)、Unit 5 (リーディング)
- 7回 Scene 11/12 (リスニング)、Unit 6 (リーディング)
- 8回 Scene 13/14 (リスニング)、Unit 7 (リーディング)
- 9回 Scene 15/16 (リスニング)、Unit 8 (リーディング)
- 10回 Scene 17/18 (リスニング)、Unit 9 (リーディング)
- 11回 Scene 19/20 (リスニング)、Unit 10 (リーディング)
- 12回 Scene 21/22 (リスニング)、Unit 11 (リーディング)
- 13回 Scene 23/24 (リスニング)、Unit 12 (リーディング)
- 14回 Scene 25/26 (リスニング)、Unit 13 (リーディング)
- 15回 Scene 27/28 (リスニング)、Unit 14 (リーディング)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト・課題... 30% 日常の授業への取り組み... 15%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English I (国 1 - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントを用いる。
(Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分の好きな仕事
- 3回 働き方改革
- 4回 少子高齢化
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい方(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境
- 9回 TOEIC演習(2)【文法問題】
- 10回 Internet of Things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【長文問題】
- 12回 読解力
- 13回 これからの教育
- 14回 英語とのつきあい方(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テストを含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

Communicative English I (国 1 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

キーワード /Keywords

Communicative English I (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&Rテストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

Across Cultures (SANSHUSHA)
(1,700 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 授業の進め方と成績評価について説明
- 第 2 回 Whose English?
- 第 3 回 "My mother Isn't Well, Sir."
- 第 4 回 Your Variety Is Better Than Mine.
- 第 5 回 Saying Hello
- 第 6 回 What is the Culture of English?
- 第 7 回 Where Should I Go to Learn English?
- 第 8 回 Writing Extremely Short Stories
- 第 9 回 Who Makes the Best English Teachers?
- 第 1 0 回 English Is an Asian Language!
- 第 1 1 回 What Is My First Language?
- 第 1 2 回 What Does It Mean to Be Bilingual?
- 第 1 3 回 When Should We Learn English?
- 第 1 4 回 "You Said So!" "No, We Didn't."
- 第 1 5 回 What Do People Talk About?

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%

定期試験 70%

(注) 平常点は30%であるが、4回以上欠席した場合、定期試験の受験資格はありません。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必須条件。予習していない場合は欠席と見なします。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントを用いる。
(Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分の好きな仕事
- 3回 やり抜く力
- 4回 成功の秘訣
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい方(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境
- 9回 TOEIC演習(2)【文法問題】
- 10回 Internet of things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【長文問題】
- 12回 読解力
- 13回 仕事を創る
- 14回 英語とのつきあい方(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テストを含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English II (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&Rテストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 (ASAHI PRESS)
 (1,700円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 授業の進め方と成績評価について説明
- 第 2 回 Eating Out
- 第 3 回 Travel
- 第 4 回 Amusement
- 第 5 回 Meetings
- 第 6 回 Personnel
- 第 7 回 Shopping
- 第 8 回 Advertisement
- 第 9 回 Daily Life
- 第 10 回 Office Work
- 第 11 回 Business
- 第 12 回 Traffic
- 第 13 回 Finance and Banking
- 第 14 回 Media
- 第 15 回 Health and Welfare

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
 定期試験 70%
 (注) 平常点は30%であるが、4回以上欠席した場合、定期試験の受験資格はありません。
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必須条件。予習していない場合は欠席と見なします。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English II (国 1 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

英語でのコミュニケーション活動をもっと円滑に進めたいですよね？言いたいことはあるのだけれど、英語でなんと言うのか分からない、あるいはすぐに出てこない、後から考えたら意外と簡単な英語だった・・・という経験はあるでしょうか。こういうもどかしい思いを少しでもなくすために、インプットをたくさんしましょう。インプットというと難しく聞こえますが、要はたくさん読んで聞きましょうということです。

本コースではTOEIC (R) L&R テスト対策をしながら、TOEIC対策の英語力を要請するのはもちろん、TOEIC以上の英語力をつけることを目指します。

本コースでは以下の点を到達目標と定めています。

受講生は発音記号を読むことができ、単語の発音ができること。

日本と英語の音声の違いを知り、それを実際に口に出して表現することができる。

英語の語順と日本との語順の違いを理解し、英語の語順に従って正しい英文を作ることができる。

英語音声リスニングの際の音声変化についてのルールを理解すること。

教科書 /Textbooks

『一歩上を目指すTOEIC® LISTENING & READING: Level 2 -Intermediate-』朝日出版社、1700円（税別）
ISBN978-4-255-15595-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高校時代の参考書があれば持参のこと

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション (授業概要、グループわけ、アプリ紹介等)
- 2 . Unit 1 : Eating Out 文法 : 動詞 (1)
- 3 . Unit 2 : Travel 文法 : 動詞 (2)
- 4 . Unit 3 : Amusement 文法 : 動詞 (3)
- 5 . Unit 4 : Meetings 文法 : 代名詞
- 6 . Unit 5 : Personnel 文法 : 不定詞と動名詞 (1)
- 7 . Unit 6 : Shopping 文法 : 不定詞と動名詞 (2)
- 8 . Unit 7 : Advertisement 文法 : 名詞・冠詞・数量詞(1)
- 9 . Unit 8 : Daily Life 文法 : 名詞・冠詞・数量詞(2)
- 10 . Unit 9 : Office Work 文法 : 仮定法
- 11 . Unit 10 : Business 文法 : 分詞
- 12 . Unit 11 : Traffic 文法 : 関係詞
- 13 . Unit 12 : Finance and Banking 文法 : 接続詞
- 14 . Unit 13 : Media 文法 : 前置詞
- 15 . Unit 14 : Health and Welfare

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト : 30%

授業でのペア / グループワークへの参加度 : 20%

期末試験 : 50%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストは毎週行いますので、事前準備を怠らないこと。
指定箇所の予習および単語リストの復習をすること

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験
することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

World English 2A 3rd Edition
 ISBN 9780357130315
 Cengage Learning
 3025円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
 Week 2 Unit 1 (A)
 Week 3 Unit 1 (B)
 Week 4 Unit 2 (A)
 Week 5 Unit 2 (B)
 Week 6 Unit 3 (A)
 Week 7 Unit 3 (B)
 Week 8 Review of Units 1-3
 Week 9 Unit 4 (A)
 Week 10 Unit 4 (B)
 Week 11 Unit 5 (A)
 Week 12 Unit 5 (B)
 Week 13 Unit 6 (A)
 Week 14 Unit 6 (B)
 Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
 20% Powerpoint Presentation
 30% Final mini-test
 15% Project work
 20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Communicative English III (国1-B) 【昼】

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1-B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。
This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class. Focus on conversation and writing.

教科書 /Textbooks

Title: Four Corners 2A (2nd Ed.)
Publisher: CUP
ISBN: 9781108570701
Price: 2200 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: introduction/orientation
Week 2: Meeting new friends
Week 3: People and places
Week 4: Clothing and possessions
Week 5: Routines and daily life
Week 6: Going online
Week 7: Describing talents and abilities
Week 8: Presentation 1
Week 9: Meals and things we like
Week 10: Things in my neighborhood
Week 11: Describe what people are doing
Week 12: past experiences
Week 13: Vacations and getting away
Week 14: Time to celebrate
Week 15: Presentation 2 and exam outline

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework - 20%
Presentation - 2 X 15%
Final exam - 20%
Participation - 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Complete all set homework diligently, and prepare adequately for presentations

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments.

教科書 /Textbooks

Pathways 1A - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

「税込価格：3,091円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Living for Work 1
- 第3回：Living for Work 2
- 第4回：Good Times 1
- 第5回：Good Times 2
- 第6回：Presentation 1
- 第7回：The Marketing Machine 1
- 第8回：The Marketing Machine 2
- 第9回：Wild Weather 1
- 第10回：Wild Weather 2
- 第11回：Presentation 2
- 第12回：Focus on Food 1
- 第13回：Focus on Food 2
- 第14回：Consolidation
- 第15回：Presentation 3

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course - complete any assignments listed

履修上の注意 /Remarks

Be sure to complete all homework assignments

Communicative English III (国 1 - C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Content-based language learning

Communicative English IV (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。 This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class. Focus on conversation and writing.

教科書 /Textbooks

Title: Four Corners 2B (Second edition)
Publisher: CUP
ISBN: 9781108627726
Price: 2200 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction/orientation
Week 2: Telling stories
Week 3: Giving and discussing tips
Week 4: Describing how food is prepared
Week 5: Discussing how to react in situations
Week 6: Comparing and contrasting cities
Week 7: Talking about character traits
Week 8: Presentation 1
Week 9: Describing inventions
Week 10: Describing past events
Week 11: Speculating about everyday situations
Week 12: Reporting what others say
Week 13: Talking about getting things done
Week 14: Discussing environmental trends
Week 15: Presentation 2 and exam outline.

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework - 20%
Presentation - 2 X 15%
Final exam - 20%
Participation - 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Complete the homework diligently and prepare for the presentations adequately.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments

教科書 /Textbooks

Pathways 1B - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

「税込価格：3,091円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Housing for the Future 1
- 第3回：Housing for the Future 2
- 第4回：Exploring Space 1
- 第5回：Exploring Space 2
- 第6回：Presentation 1
- 第7回：Creative Arts 1
- 第8回：Creative Arts 2
- 第9回：Our Relationship with Nature 1
- 第10回：Our Relationship with Nature 2
- 第11回：Presentation 2
- 第12回：How can we Communicate 1
- 第13回：How can we Communicate 2
- 第14回：Consolidation
- 第15回：Presentation 3

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to submit all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Content-based learning

Communicative English IV (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。
This course aims to consolidate students' basic English skills. The main focus is to improve writing and speaking ability.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2B (Second Edition), JC Richards and D Bohlke. ISBN 9781108627726, ¥2200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Schedule

- Lesson 1: Introduction to the class
- Lesson 2: Unit 7, Lessons A&B
- Lesson 3: Unit 7, Lessons C&D
- Lesson 4: Unit 8, Lessons A&B
- Lesson 5: Unit 8, Lessons C&D
- Lesson 6: Unit 9, Lessons A&B
- Lesson 7: Unit 9, Lessons C&D and Review
- Lesson 8: Midterm test
- Lesson 9: Unit 10, Lessons A&B
- Lesson 10: Unit 10, Lessons C&D
- Lesson 11: Unit 11, Lessons A&B
- Lesson 12: Unit 11, Lessons C&D
- Lesson 13: Unit 12, Lessons A&B
- Lesson 14: Unit 12, Lessons C&D
- Lesson 15: Speaking test and review

成績評価の方法 /Assessment Method

- 30% Participation and Diligence (Attending class, following directions, asking questions, etc.)
- 10% Homework (Homework is not graded, but checked that it is finished)
- 10% Vocabulary Quizzes
- 20% Speaking test
- 15% Midterm test
- 15% Final Test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make consistent effort! I design my class and grading to encourage good English study habits outside of class. With good attendance, homework, and preparing for the vocabulary quizzes, you can do well in this class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English V (国 2 C - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R)L&R)の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。今学期のTOEICスコア目標は、650点以上です。

教科書 /Textbooks

Educational Testing Service 「公式TOEIC(R) Listening & Reading 問題集 5」 国際ビジネスコミュニケーション協会 3300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 part 1 & part 5
- 第3回 part 2 & part 6
- 第4回 part 3 & part 7
- 第5回 part 3 & part 7
- 第6回 part 4 & part 7
- 第7回 part 4 & part 7
- 第8回 中間テスト
- 第9回 part 1 & part 5
- 第10回 part 2 & part 6
- 第11回 part 3 & part 7
- 第12回 part 3 & part 7
- 第13回 part 4 & part 7
- 第14回 part 4 & part 7
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト30% + 期末テスト40% + 日常の授業への取り組み 10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
中間テストはTOEIC問題を出します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついていきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

Communicative English V (国 2 C - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English V (国 2 C - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R)L & R)の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

教科書 /Textbooks

DEVELOP GRAMMATICAL COMPETENCE FOR THE TOEIC(R) L & R TEST (松柏社) ISBN978-4-88198-758-2 2,090円
ハリウッド (2) ビデオで見る映画とスターたち (朝日出版) ISBN4-255-15355-8 1,800円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の力をつける①)	読解 (単語と文法の力をつける①)
3回	聴解 (単語と文法の力をつける②)	読解 (単語と文法の力をつける②)
4回	聴解 (単語と文法の力をつける③)	読解 (単語と文法の力をつける③)
5回	聴解 (単語と文法の力をつける④)	読解 (文脈を考える①)
6回	聴解 (英語の音に注目する①)	読解 (文脈を考える②)
7回	聴解 (英語の音に注目する②)	読解 (文脈を考える③)
8回	聴解 (英語の音に注目する③)	読解 (言語外の知識を利用する①)
9回	聴解 (英語の音に注目する④)	読解 (言語外の知識を利用する②)
10回	聴解 (多様なアクセントに注目する①)	読解 (言語外の知識を利用する③)
11回	聴解 (多様なアクセントに注目する②)	読解 (言外の意味を捉える①)
12回	聴解 (多様なアクセントに注目する③)	読解 (言外の意味を捉える②)
13回	聴解 (多様なアクセントに注目する④)	読解 (言外の意味を捉える③)
14回	聴解 (音の聞き取りから意味の理解へ)	読解 (文法的な意味を超えたテキスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%
課題 20%

欠席が授業実施回数3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(あるいはTOEFL)を受験することが義務付けられています。また、初回の授業には必ず出席してください。

Communicative English V (国 2 C - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (国 2 C - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R)L & R)の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

教科書 /Textbooks

実生活で役立つ TOEIC(R) テストリスニング (成美堂) ISBN9-78479E+12 1,430円
ハリウッド (2) ビデオで見る映画とスターたち (朝日出版) ISBN4-255-15355-8 1,800円
その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|---------------------|------------------------|
| 1回 | はじめに 英語を学ぶということ | |
| 2回 | 聴解 (単語と文法の力をつける①) | 読解 (単語と文法の力をつける①) |
| 3回 | 聴解 (単語と文法の力をつける②) | 読解 (単語と文法の力をつける②) |
| 4回 | 聴解 (単語と文法の力をつける③) | 読解 (単語と文法の力をつける③) |
| 5回 | 聴解 (単語と文法の力をつける④) | 読解 (文脈を考える①) |
| 6回 | 聴解 (英語の音に注目する①) | 読解 (文脈を考える②) |
| 7回 | 聴解 (英語の音に注目する②) | 読解 (文脈を考える③) |
| 8回 | 聴解 (英語の音に注目する③) | 読解 (言語外の知識を利用する①) |
| 9回 | 聴解 (英語の音に注目する④) | 読解 (言語外の知識を利用する②) |
| 10回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する①) | 読解 (言語外の知識を利用する③) |
| 11回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する②) | 読解 (言外の意味を捉える①) |
| 12回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する③) | 読解 (言外の意味を捉える②) |
| 13回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する④) | 読解 (言外の意味を捉える③) |
| 14回 | 聴解 (音の聞き取りから意味の理解へ) | 読解 (文法的な意味を超えたテキスト理解へ) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%
課題 20%

欠席が授業実施回数3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(あるいはTOEFL)を受験することが義務付けられています。また、初回の授業には必ず出席してください。

Communicative English VI (国 2 C - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (国 2 C - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 2 C - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

教科書 /Textbooks

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 4』国際コミュニケーション協会 3,080円 ISBN978-4-906033-54-5

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 5』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 3』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 2』国際コミュニケーション協会
『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 vol. 1』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 Listening Part 1でリスニング学習
- 3回 Listening Part 2でリスニング学習
- 4回 Listening Part 3でリスニング学習
- 5回 Listening Part 4でリスニング学習
- 6回 復習
- 7回 Listening 習熟度確認
- 8回 Reading Part 5で文法学習
- 9回 Reading Part 6で文法・読解力学習
- 10回 Reading Part 7 Single passagesで読解力学習
- 11回 Reading Part 7 Double Passagesで読解力学習
- 12回 Reading Part 7 Triple Passagesで読解力学習
- 13回 Reading Part Triple Passagesで読解力・戦略学習
- 14回 復習
- 15回 Reading 習熟度確認

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験40%、習熟度テスト20%、小テスト20%、課題10%、授業への参加度10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習は必ず行ってください。
不明な点は必ず質問してください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回授業に必ず出席すること。

Communicative English VI (国 2 C - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VII (国 2 C - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (Cambridge University Press)

「税込価格：2,420円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Education 1
- 第3回：Education 2
- 第4回：Personal Stories 1
- 第5回：Personal Stories 2
- 第6回：Presentation 1
- 第7回：Style and Fashion 1
- 第8回：Style and Fashion 2
- 第9回：Interesting Lives 1
- 第10回：Interesting Lives 2
- 第11回：Presentation 2
- 第12回：Our World 1
- 第13回：Our World 2
- 第14回：Organizing your time
- 第15回：Presentation 3

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

Communicative English VII (国 2 C - B) 【昼】

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。
This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class. Focus on conversation and writing.

教科書 /Textbooks

Title: Four Corners 3A
Publisher: CUP
ISBN: 9781108559805
Price: 2200 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction/orientation
Week 2: ask and talk about routines
Week 3: describe what was happening in the past
Week 4: Ask about and describe fashion
Week 5: Ask about and talk about life experiences
Week 6: Compare human-made structures
Week 7: Ask and talk about weekend plans
Week 8: Presentation 1
Week 9: Talk about personality traits
Week 10: discuss environmental problems
Week 11: discuss what's important in relationships
Week 12: talk about themselves and experiences
Week 13: talk about music
Week 14: discuss travel preferences
Week 15: Presentation 2 and exam outline

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework - 20%
Presentation - 2 X 15%
Final exam - 20%
Participation - 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Complete the homework diligently and prepare for the presentations adequately.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (国 2 C - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 2 C - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施する。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Warm-up, Vocabulary Preview, Getting to know the place, Learning More, Listening, Reading, American Voices をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力、及び、他人に自分の考えを発信する力を養成する。

教科書 /Textbooks

『American Vibes-People, Places and Perspectives』
著者：Todd Rucynski, Yoko Nakagawa,
2020年1月 発行、 ¥2,700 (税別)
出版社：金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 3回 Chapter 2 Maine
- 4回 Chapter 3 New York City 1
- 5回 Chapter 4 New York City 2
- 6回 Chapter 5 Washington, D.C.
- 7回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 8回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 9回 Chapter 8 Oswego, New York
- 10回 Chapter 9 Austin, Texas
- 11回 Chapter 10 Saint Jo, Texas
- 12回 Chapter 11 Santa Fe, New Mexico
- 13回 Chapter 12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 14回 Chapter 13 Los Angeles 1
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (国 2 C - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 2 C - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

- ①“INSIGHTS 2020”（著者）村尾純子 ¥2,090 ISBN978-4-7647-4098-3
- ② “TOEIC®L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ”（著者）TEX加藤
朝日新聞出版 ¥979 ISBN978-4-02-331568-6

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Chapter 1 Books! Bringing a Bright Future to Children, 単語小テスト 1
- 3回 Chapter 2 Brew Sake with Fresh Ideas!, 単語小テスト2
- 4回 Chapter 3 A Unique Tour Guide, 単語小テスト3
- 5回 Chapter 4 A Banana with an Edible Peel, 単語小テスト4
- 6回 Chapter 5 Too Crowded to Carry it on our Backs!, 単語小テスト5
- 7回 Chapter 6 Monitoring Kid's Phone Use, 単語小テスト6
- 8回 Chapter 7 Learn about your Pet Dog at the Museum, 単語小テスト7
- 9回 Chapter 8 Dream of Space Tourism Comes True, 単語小テスト8
- 10回 Chapter 9 Save the World from Garbage, 単語小テスト9
- 11回 Chapter 10 Manga Featuring the Elderly, 単語小テスト10
- 12回 Chapter 11 Why Not Go to Kyoto?, 単語小テスト11
- 13回 Chapter 12 To Be More Eco-friendly, 単語小テスト12
- 14回 Chapter 13 A Pleasant Night's Sleep at a Capsule Hotel
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト他）：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業のChapterを読んでおくこと。また単語を覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Intermediate English I (国 2 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG301F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。

教科書 /Textbooks

15 Topics for Tomorrow's World (SHOHAKUSHA)
(1,900円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 授業の進め方と成績評価について説明
- 第 2 回 How Artificial Intelligence Impacts Senior Care
- 第 3 回 China Could Be the Future of the Sharing Economy
- 第 4 回 Plastic Microbeads Ban Enters Force in UK
- 第 5 回 Japan Considers Crime Prediction System Using Big Data and AI
- 第 6 回 The Toll of America's Obesity
- 第 7 回 Sex Education Given LGBT-inclusive Overhaul in Wales
- 第 8 回 Autonomous Cars Likely to Benefit Elderly in Future
- 第 9 回 Millennials Go Minimal
- 第 1 0 回 Namie Amuro, "The Madonna of Japan," Is Retiring, But Her Style Influence Lives on
- 第 1 1 回 Esports-FIFA's eWorld Cup Catching up with the Real Thing
- 第 1 2 回 Is 'Snapchat Dysmorphia' Really Something to Be Worried about?
- 第 1 3 回 Why Isn't Nutrition Education a Priority in Public Schools?
- 第 1 4 回 Tech CEOs Back Call for Basic Income as AI Job Losses Threaten Industry Backlash
- 第 1 5 回 Cramer Pinpoints the 'Best Secular Trend' in the Market: Subscription Services

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%
定期試験 70%
(注) 平常点は30%であるが、4回以上欠席した場合、定期試験の受験資格はありません。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必須条件。予習していない場合は欠席と見なします。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Intermediate English II (国 2 年) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 国 2 年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG311F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。
This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

World English 3A Third Edition ISBN 9780357130339
3025円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1 (A)
Week 3 Unit 1 (B)
Week 4 Unit 2 (A)
Week 5 Unit 2 (B)
Week 6 Unit 3 (A)
Week 7 Unit 3 (B)
Week 8 Review of Units 1-3
Week 9 Unit 4 (A)
Week 10 Unit 4 (B)
Week 11 Unit 5 (A)
Week 12 Unit 5 (B)
Week 13 Unit 6 (A)
Week 14 Unit 6 (B)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

Intermediate English II (国 2 年) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Higher English II (2H-A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 中国済営比人律政
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school and university. We will cover a variety of topics while we improve your English ability. The course will be quite demanding as it will require a large amount of reading, writing, speaking, and listening. While it may be relatively demanding, another goal for the course is that it will be intellectually stimulating for students.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the class, getting acquainted
- 2回 Conversation strategies, note-taking
- 3回 Assignment 1
- 4回 Discussion 1
- 5回 Assignment 2
- 6回 Discussion 2
- 7回 Assignment 3
- 8回 Discussion 3
- 9回 Assignment 4
- 10回 Discussion 4
- 11回 Assignment 5
- 12回 Discussion 5
- 13回 Assignment 6
- 14回 Discussion 6
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Higher English II (2 H-B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments

教科書 /Textbooks

Pathways 1B - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

「税込価格：3,091円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Housing for the Future 1
- 第3回：Housing for the Future 2
- 第4回：Exploring Space 1
- 第5回：Exploring Space 2
- 第6回：Presentation 1
- 第7回：Creative Arts 1
- 第8回：Creative Arts 2
- 第9回：Our Relationship with Nature 1
- 第10回：Our Relationship with Nature 2
- 第11回：Presentation 2
- 第12回：How can we Communicate 1
- 第13回：How can we Communicate 2
- 第14回：Consolidation
- 第15回：Presentation 3

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Content-based language learning

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながらか、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・60% 小テスト・・20% 日常の授業への取り組み・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながらか、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながらか、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくださいか【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながらか、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくださいか【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながらか、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくださいか【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 戦兵 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN102F		◎			
科目名	中国語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN102F		◎			
科目名	中国語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
 (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN102F		◎			
科目名	中国語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 戦兵 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN112F		◎			
科目名	中国語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN112F		◎			
科目名	中国語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN112F		◎			
科目名	中国語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN201F		◎			
科目名	中国語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN201F		◎			
科目名	中国語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1) 本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2) 中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3) 本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN201F		◎			
科目名	中国語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN211F		◎			
科目名	中国語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN211F		◎			
科目名	中国語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN211F		◎			
科目名	中国語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN202F		◎			
科目名	中国語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN202F		◎			
科目名	中国語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN202F		◎			
科目名	中国語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN212F		◎			
科目名	中国語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（会話）
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州（会話）
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡（会話）
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀（会話）
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎（会話）
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国（会話）
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（会話）
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 王 雲燕 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN212F		◎			
科目名	中国語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（会話）
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州（会話）
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡（会話）
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀（会話）
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎（会話）
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国（会話）
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（会話）
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN212F		◎			
科目名	中国語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』 巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【母音】【基本表現①】
- 3回 文字と発音【子音①】【基本表現②】
- 4回 文字と発音【子音②】【基本表現③】
- 5回 文字と発音【子音③】【合成母音①】【基本表現④】
- 6回 文字と発音【激音】【合成母音②】
- 7回 文字と発音【濃音】【合成母音③】
- 8回 発音の規則【終声・パッチム】
- 9回 発音の規則【連音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【濃音化】【流音化】【その他】
- 11回 文字と発音の復習【日本語のハングル表記】
- 12回 指定詞の丁寧形【～は～です】
- 13回 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 語彙と文型の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅰで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』 巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅰの復習
- 2回 動詞の丁寧形【ハムニダ体①】【～を】
- 3回 形容詞の丁寧形【ハムニダ体②】【数詞①】
- 4回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 5回 指定詞の丁寧形【ヘヨ体①】【～です】【～ではありません】
- 6回 数詞のまとめ【数詞②】【年齢】【日付】
- 7回 助詞のまとめ【作文練習】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形【ヘヨ体②】
- 9回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 10回 用言の尊敬形①【ハムニダ体】
- 11回 用言の尊敬形②【ヘヨ体】【特殊な尊敬語】
- 12回 尊敬形のまとめ【作文練習】
- 13回 用言の過去形①【ハムニダ体】
- 14回 用言の過去形②【ヘヨ体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らしましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

韓国語は“ハングル”という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何 / どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】【何日ですか？】【何曜日ですか？】
- 5回 助詞と疑問詞のまとめ【～から～まで】
- 6回 動詞と形容詞の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【いつ～しますか？】
- 7回 動詞と形容詞の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形③【一週間の予定】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 動詞と形容詞の否定形【～しません、～くありません】
- 11回 好みの表現【～が好きです】【変則活用①】
- 12回 目的表現【～に～しに行きます】【丁寧形の変則活用】
- 13回 動詞と形容詞の過去形①【～ました、でした】
- 14回 動詞と形容詞の過去形②【変則活用】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習しておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2年(学籍番号奇数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN201F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

韓国語の基礎的な文法・語彙・表現力などをさらに深め、初級文法の完成を目指す。テキストの他、応用作文の練習を多く行い、簡単な手紙、日記などの文章が書けるようになること、また同程度の読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判) 2,400円 (税抜き)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語I・II』の復習
- 第3回目 第1課 フランスから来ました【文法、単語】
- 第4回目 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 第5回目 第2課 家族は何名様ですか【文法、単語】
- 第6回目 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 第7回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよね【文法、単語】
- 第8回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよね【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
- 第11回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 第12回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
- 第13回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などは調べること。
また、授業終了後は復習や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。
朝鮮語Ⅶと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2年(学籍番号偶数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN201F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では、韓国語の初級で習得した知識を活かし、過去・現在・未来の用言規則活用と不規則活用を正確に身につけて初級文法の完成を目指す。尊敬表現や連体形を含んだ文章にたくさん触れ、練習問題への取り組みを徹底して読解力と表現力のレベルアップを目指す。

教科書 /Textbooks

『おはよう韓国語2』崔柄珠著（朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第1課 フランスから来ました【文法、単語】
- 3回 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 4回 第2課 家族は何名様ですか【文法、単語】
- 5回 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 6回 【総合練習】
- 7回 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【文法、単語】
- 8回 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 9回 【総合練習】
- 10回 第4課 野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
- 11回 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 12回 【総合練習】
- 13回 第5課 夏休みに何をしますつもりですか【文法、単語】
- 14回 第5課 夏休みに何をしますつもりですか【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音の練習と暗記をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活用が増えていき、他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2年(学籍番号奇数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN211F		◎			
科目名	朝鮮語VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判) 2,400円 (税抜き)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V』の復習
- 第3回目 第6課 どのように行けばいいですか【文法、単語】
- 第4回目 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 第5回目 第7課 写真を添付しますよ【文法、単語】
- 第6回目 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
- 第7回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
- 第8回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
- 第11回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 第12回目 第10課 何にも聞いていませんが【文法、単語】
- 第13回目 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、次回までに復習や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。
朝鮮語VIIと並行して受講するほうが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2年(学籍番号偶数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN211F		◎			
科目名	朝鮮語VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。前期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『おはよう韓国語2』崔柄珠著(朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利ほか(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Vの復習
- 2回 第6課 どのように行けばいいですか【文法、単語】
- 3回 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 4回 第7課 写真を添付しますよ【文法、単語】
- 5回 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
- 6回 【総合練習】
- 7回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
- 8回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 9回 【総合練習】
- 10回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
- 11回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 12回 【総合練習】
- 13回 第10課 何にも聞いていませんが【文法、単語】
- 14回 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音の練習と暗記をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2年(学籍番号奇数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN202F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田谷幸利ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 . オリエンテーション
- 2回 . 第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回 . 第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回 . 第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回 . 第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回 . 第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回 . 第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回 . 第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回 . 第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아/어서】
- 10回 . 第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回 . 第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回 . 第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回 . 第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回 . 第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回 . 第6課 物や出来事の状況説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合ひましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2年(学籍番号偶数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN202F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループワークを取り入れ、会話の練習、異文化理解を深める機会として活用する。基礎レベルの多様な文型を無理なく運用できることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美『ちょこっとチャレンジ！韓国語』《改訂版》白水社 2017年 ¥2400 + 税
その他、授業において提示する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金恵媛・李文相・朴賢珠『サランヘヨ！ハングル-初級から中級へ-』白帝社 2007年 ¥2600 + 税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション、シラバス紹介
2. インタビューする(うちとけた尊敬表現)
3. インタビューする(条件・意図・計画)
4. 自己紹介する(説明・紹介)
5. 自己紹介する(期間・動作の順序)
6. 自己紹介する(作文と発表)
7. 決まりを言う(義務・ていねいな命令)
8. 決まりを言う(許可・禁止)
9. 約束をする(形容詞の連体形)
10. 約束をする(理由)
11. 約束をする(意思表示・約束)
12. 道案内をする(位置・方向)
13. 道案内をする(手段)
14. 道案内をする(動作の順序・連結)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点・課題・小テスト・グループワーク 50%、定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト、参考資料に関する予習・復習、そのた自主学習を推奨します。

履修上の注意 /Remarks

学習内容の理解を図るために小テストの随時実施、課題を課する。
関連の朝鮮語授業を並行して受講することを推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語を学ぶことは、韓国への理解を深めるための第一歩です。楽しく学び、しっかり身につけましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 国2年(学籍番号奇数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN212F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅷ				

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-를 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 かしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄴ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄴ /는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2年(学籍番号偶数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN212F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループワークを取り入れ、会話の練習、異文化理解を深める機会として活用する。基礎レベルの多様な文型を無理なく運用できることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美『ちょこっとチャレンジ！韓国語』《改訂版》白水社 2017年 ¥2400 + 税
その他、授業において提示する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金恵媛・李文相・朴賢珠『サランヘヨ！ハングル-初級から中級へ-』白帝社 2007年 ¥2600 + 税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 既習内容のふり返り
- 2回 感想を言う(動作・存在しの現在連体形)
- 3回 感想を言う(思考・経験・状況の説明)
- 4回 買い物をする(依頼)
- 5回 買い物をする(勧誘・アドバイス)
- 6回 買い物をする(ていねいな依頼)
- 7回 プレゼントをする(理由・根拠)
- 8回 プレゼントをする(感嘆・推測)
- 9回 体の具合を言う(かしまった尊敬表現)
- 10回 体の具合を言う(可能・不可能表現)
- 11回 体の具合を言う(時間・場面)
- 12回 勉強の仕方を話す(傾向の説明)
- 13回 勉強の仕方を話す(同時・並行動作)
- 14回 勉強の仕方を話す(事情の説明)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点・課題・小テスト・グループワーク 50%、定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト、参考資料に関する予習・復習、そのた自主学習を推奨します。

履修上の注意 /Remarks

学習内容の理解を図るために小テストの随時実施、課題を課する。
関連の朝鮮語授業を並行して受講することを推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語を学ぶことは、韓国への理解を深めるための第一歩です。
楽しく学び、しっかり身につけましょう。

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM101F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅰ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】(5級対応)
- 2回 自己紹介。【動詞の現在人称変化】
- 3回 ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
- 4回 その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
- 5回 その犬の名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
- 6回 フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】(4級対応)
- 7回 その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
- 8回 ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
- 9回 私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
- 10回 その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
- 11回 私達は今日、ケンとその学食に行きます。【3・4格支配の前置詞】
- 12回 彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
- 13回 私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
- 14回 私は明日、ドイツ語を学ぶつもりです。【助動詞】
- 15回 彼は週末に何をしようかと。【未来形】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM111F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】(3級対応)
- 2回 私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
- 3回 君達は何をしましたか。【完了形】
- 4回 私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
- 5回 アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
- 6回 私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
- 7回 ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
- 8回 彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
- 9回 フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
- 10回 もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょうに。【接続法第2式】
- 11回 私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
- 12回 その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
- 13回 あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
- 14回 それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
- 15回 彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM102F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM112F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM201F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM211F		◎			
科目名	ドイツ語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM202F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅶ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫びて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM212F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くととき、相手の感想を聞くととき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くととき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くととき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くととき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN101F		◎			
科目名	フランス語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をととしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『バリーポルドー』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500+税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全14課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第7課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音と綴り字
- 2回 自己紹介をする
- 3回 主語人称代名詞と動詞 etre の活用
- 4回 物を指し示す
- 5回 名詞と不定冠詞、形容詞の性・数の一致と位置
- 6回 尋ねる
- 7回 第一群規則動詞、定冠詞
- 8回 買い物をする
- 9回 動詞avoirの活用、否定文
- 10回 物や人について尋ねる
- 11回 動詞allerと近接未来、疑問代名詞
- 12回 場所を尋ねる
- 13回 所有形容詞、疑問形容詞
- 14回 ~したいと言う
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)

遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

フランス語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN111F		◎			
科目名	フランス語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『パリーポルドー』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500+税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全14課、配列に従って2学期は第8課から第14課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 興味を述べる
- 2回 定冠詞の縮約、補語人称代名詞
- 3回 誘う
- 4回 代名動詞、中性代名詞 y
- 5回 天候と時刻を言う
- 6回 非人称構文、命令形
- 7回 数量を表す
- 8回 部分冠詞、中性代名詞 en
- 9回 比較する
- 10回 比較級、単純未来
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去、半過去
- 13回 仮定する
- 14回 条件法現在
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のCDをつけて聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）

教科書は1回目の講義から用意しておくこと。

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN102F		◎			
科目名	フランス語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初歩的な文法を学び、簡単な日常会話の練習とそれに関する文章を読むことによって知識を定着させます。

教科書 /Textbooks

『パリ・ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』藤田裕二著（朝日出版社 2016年 2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 発音の仕方
- 2回目 綴り字の読み方（1課終了）
- 3回目 主語人称代名詞
- 4回目 動詞<etre>の活用について
- 5回目 国籍を表す形容詞（2課終了）
- 6回目 名詞と不定冠詞
- 7回目 名詞と形容詞（3課終了）
- 8回目 第1群規則動詞の活用
- 9回目 定冠詞 疑問文（4課終了）
- 10回目 指示形容詞
- 11回目 動詞<avoir>の活用 否定文（5課終了）
- 12回目 動詞<aller>の活用
- 13回目 疑問代名詞 不規則動詞（6課終了）
- 14回目 所有形容詞と疑問形容詞
- 15回目 il y a の表現

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：オラル・ペーパーの小テスト：40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてあらかじめテキスト準拠のホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習として、専用ノートに文法項目ごとに整理をし、単語帳や例文リストを日本語・フランス語で作成し「発音する・書く」を繰り返して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典（電子でも紙でもよい）必携のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN112F		◎			
科目名	フランス語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、基本文法を会話表現を通して学び、簡単な文章を読むことによってそれらを確認します。

教科書 /Textbooks

『パリ・ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』藤田裕二著（朝日出版 2016年 2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1学期の復習（1課から6課）
- 2回目 主語人称代名詞強勢形
- 3回目 主語人称代名詞の復習 形と位置について
- 4回目 指示代名詞（7課終了）
- 5回目 前置詞と定冠詞の縮約形（8課終了）
- 6回目 代名動詞の成り立ち
- 7回目 代名動詞の形と用法
- 8回目 中生代名詞 y（9課終了）
- 9回目 非人称構文
- 10回目 命令形、感嘆文（10課終了）
- 11回目 部分冠詞
- 12回目 中生代名詞 en（11課終了）
- 13回目 比較級と単純未来（12課終了）
- 14回目 複合過去 1 助動詞 <avoir> を使うもの
- 15回目 複合過去 2 助動詞 <etre> を使うもの（13課終了）

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：オラル・ペーパーの小テスト40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキスト準拠のホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを確認すること。事後学習としては、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳や例文のリストを作成し「発音する・書く」を繰り返して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞書（紙でも電子でもよい）必携

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN201F		◎			
科目名	フランス語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級で学んだ文法で特にむつかしかった時制や代名詞などの事項を会話文、アクティビテ、練習問題を通して復習し、知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

『クロワッサン2 もっと知りたいフランス語』松村博史 著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『フラ語入門 わかりやすいにもホドがある』清岡智比古著 白水社
『ケータイ万能 フランス語文法』久松健一著 駿河台出版社
『中級をめざす人のフランス語文法』杉山利恵子著 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 アルファベ 数字 綴り字と発音のルールの復習
- 2回目 動詞の現在形と複合過去の復習
- 3回目 dialogueの練習と頻度に関する表現 (1課終了)
- 4回目 直接・間接目的語と強勢形の代名詞の復習
- 5回目 dialogueの練習と人称代名詞の位置について(2課終了)
- 6回目 代名動詞と過去分詞の性数一致について
- 7回目 代名動詞の複合過去形 (3課終了)
- 8回目 dialogueの練習と中性代名詞
- 9回目 指示代名詞について (4課終了)
- 10回目 単純未来と近接未来
- 11回目 dialogue の練習 (5課終了)
- 12回目 現在分詞
- 13回目 現在分詞とジェロンディフ
- 14回目 lecture (6課終了)
- 15回目 受動態と所有代名詞 (補足)

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト：40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてはテキストに目を通してあらかじめ学が文法項目を確認しておくこと。また会話文の発音練習をしておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語帳と日本語・フランス語による例文リストを作成し、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN211F		◎			
科目名	フランス語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き既習の文法を復習しながら、複文を構成する叙法等を学んで、表現力のレベルアップを目標とします。

教科書 /Textbooks

『クロワッサン2 もっと知りたいフランス語』 松村博史著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中級フランス語 叙法の謎を解く』 渡邊淳也著 2018年 白水社
『中級をめざす人のフランス語文法』 杉山利恵子著 2012年 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1学期の復習
- 2回目 半過去
- 3回目 大過去
- 4回目 代過去のおさらいと時・理由・条件を表す接続詞 (7課終了)
- 5回目 dialogueの練習と接続詞を使う練習 (8課終了)
- 6回目 条件法のはなし
- 7回目 条件法現在の形と用法
- 8回目 条件法過去について
- 9回目 dialogueの練習とactivites (9課終了)
- 10回目 関係代名詞 que とqui
- 11回目 関係代名詞 ce que とce qui
- 12回目 関係代名詞 ou とdont
- 13回目 強調構文と接続法について (10課終了)
- 14回目 接続法の練習 (11課終了)
- 15回目 lecture (12課終了)

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト40%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備としては、テキストに目を通してあらかじめ何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語、例文を日本語・フランス語でリストアップして、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN202F		◎			
科目名	フランス語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2017年 税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1 : 自己紹介 (前半)
 - 2) unité 1 : 自己紹介 (後半)
 - 3) unité 1 : 自己紹介 (総括)
 - 4) unité 2 : 質問する (前半)
 - 5) unité 2 : 質問する (後半)
 - 6) unité 2 : 質問する (総括)、小テスト
 - 7) unité 3 : 買い物をする (前半)
 - 8) unité 3 : 買い物をする (後半)
 - 9) unité 3 : 買い物をする (総括)
 - 10) unité 4 : いつ (前半)
 - 11) unité 4 : いつ (後半)
 - 12) unité 4 : いつ (総括)、小テスト
 - 13) unité 5 : どこ (前半)
 - 14) unité 5 : どこ (後半)
 - 15) unité 5 : どこ (総括)
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (2回)・・・ 40 %
期末テスト・・・ 40 %
授業中の取り組み・・・ 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅷ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN212F		◎			
科目名	フランス語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2017年 税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6：誰 (前半)
 - 2) unité 6：誰 (後半)
 - 3) unité 6：誰 (総括)、リスニング
 - 4) unité 7：何 (前半)
 - 5) unité 7：何 (後半)
 - 6) unité 7：何 (総括)、小テスト
 - 7) unité 8：どのように (前半)
 - 8) unité 8：どのように (後半)
 - 9) unité 8：どのように (総括)、読解
 - 10) unité 9：過去について (前半)
 - 11) unité 9：過去について (後半)
 - 12) unité 9：過去について (総括)、小テスト
 - 13) unité 10：仮定、条件 (前半)
 - 14) unité 10：仮定、条件 (後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・20%
小テスト(2回)・・・40%
プレゼンテーション・・・20%
レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN101F		◎			
科目名	スペイン語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなつた特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはず。どこが違つて、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 全音声DL版』朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55077-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)
- 『クラウン西和辞典』(三省堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション、授業運営と成績評価について
- 第2回 アルファベット、発音
- 第3回 音節の分け方、アクセント
- 第4回 名詞の性と数
- 第5回 冠詞
- 第6回 形容詞
- 第7回 動詞
- 第8回 現在形(規則活用)
- 第9回 疑問詞、接続詞
- 第10回 指示詞
- 第11回 所有詞
- 第12回 動詞estar
- 第13回 動詞ser
- 第14回 現在形(不規則活用)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テストの累計70% 日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビューを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

履修上の注意 /Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

スペイン語I【昼】

キーワード /Keywords

スペイン語 文法

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN111F		◎			
科目名	スペイン語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなつた特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはず。どこが違って、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 全音声DL版』朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55077-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、授業運営と成績評価について
- 第2回 直接目的格人称代名詞
- 第3回 間接疑問文
- 第4回 時間の表現
- 第5回 現在形不規則動詞
- 第6回 間接目的格人称代名詞
- 第7回 現在形不規則動詞(完全に不規則)
- 第8回 前置詞格人称代名詞
- 第9回 gustar型動詞
- 第10回 不定語・否定語
- 第11回 天候表現
- 第12回 比較表現
- 第13回 再帰動詞
- 第14回 再帰動詞のその他の用法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テストの累計70% 日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビューを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

履修上の注意 /Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容について的小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン語 文法

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN102F		◎			
科目名	スペイン語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすくくから出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは3 - 4人のグループでの会話練習を行います。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書 /Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2017 第2版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、
スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といいますか？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
- 3回 1課 主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
- 4回 estar動詞、疑問文「元気ですか？」
- 5回 2課 名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはファンです。」
- 6回 数字1 - 100「消防の電話番号は？」
- 7回 3課 規則活用動詞1 「わたしは文学を学んでいます。」
- 8回 規則活用動詞2 「スペイン語を話しますか？」
- 9回 4課 ser,estar,hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
- 10回 ir動詞 「どこに行きますか？」
- 11回 5課 gustar動詞 「好きな食べ物は？」
- 12回 料理の注文 「メキシコ料理は好きですか？」
- 13回 6課 家族について 「私の祖父はホルヘです。」
- 14回 家族について tener動詞 「兄弟はいますか？」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声を出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。

また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN112F		◎			
科目名	スペイン語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期と同様、この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデル会話を覚えて行きましょう。口に出してジェスチャーをつけることで、フレーズを暗記しやすくなるはずです。そのあとは会話の応用練習をペアで、あるいは3 - 4人のグループで行います。

教科書 /Textbooks

IIIと同じテキストを使用。
坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2017第2版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
- 2回 7課 店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
- 3回 8課 「カルロスの家は3部屋で、トイレは2つあります。」
- 4回 「住まいはどんなですか？」
- 5回 9課 時間表現「何時ですか？」
- 6回 再帰動詞「何時におきますか？」
- 7回 1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
- 8回 10課 大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
- 9回 肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
- 10回 大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
- 11回 11課 現在完了「週末はどうでしたか？」
- 12回 「美術館はどうでしたか？」
- 13回 12課 休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
- 14回 「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
- 15回 2学期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語II(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

スペイン語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> （スペイン国営放送 TVE）

<http://www.cadena100.es/> （スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN201F		◎			
科目名	スペイン語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをしますが、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、テキストの例文を学習します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)(1)
 - 2 1年の復習(代名詞を中心に)(2)
 - 3 1年の復習(代名詞を中心に)(3)
 - 4 再帰動詞、無人称文など(1)
 - 5 再帰動詞、無人称文など(2)
 - 6 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)(1)
 - 7 同上(2)
 - 8 点過去、現在完了の用法(1)
 - 9 同上(2)
 - 10 同上(3)
 - 11 線過去の用法(1)
 - 12 同上(2)
 - 13 同上(3)
 - 14 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習(1)
 - 15 同上(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

上記テキストに対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN211F		◎			
科目名	スペイン語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、テキストの例文を学習します。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 未来形とその関連時制の用法 (1)
- 2 同上 (2)
- 3 前期を含め、様々な構文のまとめ (受け身、使役、放任、比較など) (1)
- 4 同上 (2)
- 5 過去完了と時制の一致
- 6 受け身文、無人称文 (1)
- 7 同上 (2)
- 8 接続法の活用全般について
- 9 接続法の用法 (1)
- 10 接続法の用法 (2)
- 11 スペイン語版トトロを理解する (1)
- 12 スペイン語版トトロを理解する (2)
- 13 スペイン語版トトロを理解する (3)
- 14 スペイン語版トトロを理解する (4)
- 15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価 (小テスト、口頭での答え、作文など) も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり (読む、書くなど) や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合 (例えば小テストを受けていないなど) は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう (30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール : faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN202F		◎			
科目名	スペイン語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を聞き暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を使いクラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 自己紹介 seの無主語文
- 2回 1課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 2課 カフェテリアで 趣味の話など 再帰動詞
- 4回 2課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 3課 花見 直説法現在完了
- 6回 3課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 4課 買い物 目的格人称代名詞
- 8回 4課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 5課 回転寿司 現在分詞
- 10回 5課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 6課 サッカー 直説法点過去・線過去・過去完了
- 12回 6課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 7課 電車にて 3人称複数無主語文
- 14回 7課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。
事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリポートしていく、またスペイン語の速度に合わせてシャドウイングを行う。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができます。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN212F		◎			
科目名	スペイン語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き教科書を使用しながら会話表現を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を聞き暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を使いクラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020（1学期と同じ）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 8課 旅館で 直説法未来・過去未来
- 2回 8課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 9課 明治神宮 受身表現
- 4回 9課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 10課 パルで gustar型構文
- 6回 10課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 11課 オリンピック秘話 接続法現在
- 8回 11課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 12課 新幹線 quizáを使った接続法、比較級
- 10回 12課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 13課 銀座への行き方 命令文
- 12回 13課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 14課 通訳依頼の電話 条件文
- 14回 14課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 15課 浅草寺で 接続法過去・過去完了 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。
事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリポートしていく、またスペイン語の速度に合わせシャドウイングを行う。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級（I・II・III・IV）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 T V E)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」に焦点を当てる。日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を学ぶ。さらに、学期最後の1カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70 % (学習者評価30%/ピア評価20%/実習生評価20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語II及び日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活を「自分らしく」「楽しく」過ごせるように応援します。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@につぼん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 伝言する【メモ】
- 5回 誘う【携帯メール】
- 6回 誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する【PCメール】
- 8回 依頼される【PCメール】
- 9回 謝る【PCメール】
- 10回 お礼を言う【PCメール】
- 11回 報告する【PCメール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 アドバイスを求める【PCメール】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、提示された課題をメールで送ること。
事後学習として、授業内容を踏まえた応用課題をメールで送ること。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連が深いので、同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

SNSが発展しているけれども、大学や社会においては、Eメールがいまだに重要なコミュニケーション・ツールとなっています。キャンパス・ジャパニーズの基本となるEメールの書き方を中心に、書き言葉でのコミュニケーション能力を身につけましょう。

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行いながら大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】 【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コソのワーク】 【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誰かが作った言葉のレパートリーから言葉を選択して使用するのではなく、自分の「身体感覚」から発して言葉を作り上げていくのがTAEです。
TAEを身につけることによって、感受性が豊かになると同時に、言葉で表現する意欲も湧いてきます。

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習 : さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化・聞き手の役割】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相手が興味を持ってくれるような自分らしいスピーチを目指します。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
- 石黒圭『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)チームで力を発揮する	論理的思考力(1)リストアップする・マッピングする
3回	スタディスキル(2)テーマを決めよう①	論理的思考力(2)イラスト・文章・表の内容を読み取る
4回	スタディスキル(3)テーマを決めよう②	論理的思考力(3)マッピングをして読む
5回	スタディスキル(4)資料を探そう	論理的思考力(4)登場人物になったつもりで読む
6回	スタディスキル(5)インターネットで情報を探そう	論理的思考力(5)どちらがいいか考えながら読む
7回	スタディスキル(6)図解で考える	論理的思考力(6)理由を考えながら読む
8回	スタディスキル(7)表・グラフを描いてみる	論理的思考力(7)意味を考えながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの特徴	論理的思考力(8)順序を考えて書いてみる
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成する	論理的思考力(9)理由を考えて書いてみる
11回	スタディスキル(10)レポートの基本	論理的思考力(10)論理的に考えて書いてみる
12回	スタディスキル(11)パソコンを使ったプレゼン(テーマ決め・準備)	
13回	スタディスキル(12)パソコンを使ったプレゼン(発表)	
14回	スタディスキル(13)パソコンを使ったプレゼン(発表と自己評価)	
15回	総括	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておいてください。事後学習としては、授業や課題を通してどこまで何を身につけることができたか、まだ何が足りていないかをふりかえり、どうしたら目標を達成できるかなどについて考えるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

個人の学びだけでなく、仲間とともに調べ、研究し、発表することでさらに豊かな学びを実感してください。

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...40%
ポートフォリオ評価 ...60%(自己評価 30% ピア評価 30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ピジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 則松 智子
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化「私にとって文化とは」をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
細川英雄『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1)「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2)修正する
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングし、相互評価・自己評価する
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進めます。事前に配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておいてください。また、事後学習として自分自身の考えをもう一度まとめ、深めていくようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

「日本事情 (社会) A」では、さまざまな文化的背景を持つ人々が生活する日本社会においてどのような問題や課題があるのかを知り、「多様性」「多文化共生とは何か」「多文化共生社会に向けて何をすればいいのか」について考えていく。テキストのトピックやテーマについて主体的に考え、自分自身の体験や生活の中で感じたことについて仲間と意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

教科書 /Textbooks

『多文化社会で多様性を考えるワークブック』(有田佳代子他編著、研究社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『異文化理解入門』(原沢伊都夫、研究社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「異なりを考える」【異文化間ソーシャルスキル】
- 3回 「異なりを考える」【寛容性】
- 4回 「異なりを考える」【アサーション・トレーニング】
- 5回 「異なりを考える」【「日本人」・「外国人」】
- 6回 「差別とその感情を考える」【マイノリティとマジョリティ】
- 7回 「差別とその感情を考える」【自分の家の近くはだめ?】
- 8回 「差別とその感情を考える」【ステレオタイプ】
- 10回 「言語間の平等を考える」【国境を超える子どもの言語獲得】
- 11回 「言語間の平等を考える」【やさしい日本語】
- 12回 「多文化共生社会」について考える【私の考える「多文化共生」とは】
- 13回 「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実現のために】
- 14回 「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実践】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 授業への取り組み(課題や授業中の発表を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にトピックについての情報を調べ、自分の考えをまとめてきてください。事後学習では、クラスメートの考えや新しい情報を知った上で、もう一度自分の考えをまとめ直すようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ですが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められます。必ず初回のオリエンテーションには参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から身の回りの問題や社会に関心を持ち、それに対する自分の考えを持っておいってください。

キーワード /Keywords

多文化共生 社会 多様性

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 小林 浩明
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジヨナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1)日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2)留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1)自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2)自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1)論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2)共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さん一人一人の日本での経験を活かしながら、「日本社会」を学びたいと思います。

日本事情 (社会) B 【昼】

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

英米文化概論 I 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE130M	◎	○			
科目名	英米文化概論 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。異文化に接近するための方法論と基礎知識を身につける。

教科書 /Textbooks

指定しない。各回でレジユメ等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション【イギリス文化】
 - 第2回 英米文化への接近方法【異文化理解】【コミュニケーション】
 - 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
 - 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
 - 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
 - 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
 - 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【帝国】【スコットランド】
 - 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
 - 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
 - 第10回 アイルランドはイギリスが作った(1)【アイルランド】【カソリック】
 - 第11回 アイルランドはイギリスが作った(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
 - 第12回 ホワイトハウスが白なのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
 - 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
 - 第14回 イギリスにもねじれ国会があった【貴族】【民主主義】
 - 第15回 まとめ【イギリス文化】
- 期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英米文化概論Ⅰ【昼】

キーワード /Keywords

英米文学概論 I 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 真理香 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT130M	◎	○			
科目名	英米文学概論 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学作品のうち一部を取り上げ、作品が生まれた歴史的社会的背景を学びながら鑑賞する。合わせて、文化的多様性の理解に基づき、国家概念や文学史の形成過程についても考察を深めることを目指す。

教科書 /Textbooks

『アメリカ文学入門』諏訪部浩一 責任編集（三修社、2013年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『作品ガイド150 たのしく読めるアメリカ文学』高田賢一、野田研一、笹田直人 編（ミネルヴァ書房、1994年）
- 『新版 アメリカ文学史—コロナルからポストコロナルまで』別府恵子、渡辺和子 編（ミネルヴァ書房、2000年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要、成績評価の方法、教科書・参考図書等の説明）
アメリカ文学史の全体像
- 第2回 植民地時代
- 第3回 独立期から南北戦争まで（1）【アーヴィング、クーパー、エマソン、ホーソーン等】
- 第4回 独立戦争から南北戦争まで（2）【ポー、ソロー、メルヴィル、ホイットマン】
- 第5回 南北戦争後から第1次世界大戦まで（1）【トウエイン、ジェームズ等】
- 第6回 南北戦争後から第1次世界大戦まで（2）【ショパン、ウォートン、ドライサー等】
- 第7回 第1次世界大戦後から第2次世界大戦まで（1）【キャザー、アンダソン、パウンド等】
- 第8回 第1次世界大戦後から第2次世界大戦まで（2）【オニール、ハーストン、フィッツジェラルド等】
- 第9回 第1次世界大戦後から第2次世界大戦まで（3）【フォークナー、ヘミングウェイ、スタインベック等】
- 第10回 第2次世界大戦後から冷戦終結まで（1）【ウィリアムズ、マラマッド、マッカーズ等】
- 第11回 第2次世界大戦後から冷戦終結まで（2）【サリンジャー、ヴォネガット、カポーティ等】
- 第12回 第2次世界大戦後から冷戦終結まで（3）【ボールドウィン、ディック、モリソン等】
- 第13回 第2次世界大戦後から冷戦終結まで（4）【デリー口、ピンチョン、アーヴィング等】
- 第14回 冷戦終結後（1）【オプライエン、オースター、パワーズ等】
- 第15回 冷戦終結後（2）【シルコー、リー等】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト、課題提出等）60%
期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め各回に扱う内容について準備すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

- 【持ち物について】
教科書以外に英和辞書を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。
授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。
- 【遅刻・欠席について】
20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

英米文学概論Ⅰ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者には、自らできるだけ多くの作品に触れて、理解をより一層深めることを目指してもらいたい。

キーワード /Keywords

アメリカ文学、英語圏文学、文化的多様性

英米文学概論Ⅱ【昼】

担当者名 渡邊 真理香 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT131M	◎	○			
科目名	英米文学概論Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

英国に関わる文学作品のうち一部を取り上げ、作品が生まれた歴史的社会的背景を学びながら鑑賞する。合わせて、文化的多様性の理解に基づき、国家概念や文学史の形成過程についても考察を深めることを目指す。

教科書 /Textbooks

『イギリス文学入門』石塚久郎 責任編集（三修社、2014年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『作品ガイド150 たのしく読めるイギリス文学』中村邦生、木下卓、大神田丈二 編著（ミネルヴァ書房、1994年）
- 『よくわかるイギリスの文学』清宮倫子、清宮協子 編著（南雲堂、2011年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、成績評価の方法、教科書・参考書等についての説明、イギリス文学史概観
- 第2回 古英語文学 / 中英語文学【チョーサー等】
- 第3回 16世紀【シェイクスピア等】
- 第4回 17世紀【ダン、ジョンソン等】
- 第5回 18世紀（1）【デフォー、スウィフト、リチャードソン等】
- 第6回 18世紀（2）【フィールディング、シェリダン等】
- 第7回 ロマン主義の時代（1）【ワーズワス、コウルリッジ等】
- 第8回 ロマン主義の時代（2）【シェリー、オースティン等】
- 第9回 ヴィクトリア時代（1）【ディケンズ、ブロンテ等】
- 第10回 ヴィクトリア時代（2）【モリス、ハーディ、ワイルド等】
- 第11回 ヴィクトリア時代（3）【ショー、ドイル、ウェルズ等】
- 第12回 20世紀前半（1）【フォスター、ウルフ等】
- 第13回 20世紀前半（2）【ジョイス、オーウェル等】
- 第14回 20世紀後半～現代まで（1）【ピンター、アトウッド（カナダ）等】
- 第15回 20世紀後半～現代まで（2）【マキューアン、イシグロ等】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト、課題提出、発表を含む）60%
期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め各回に扱う内容について準備すること。
また授業終了後には、授業の内容を反復し課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

【持ち物について】
教科書以外に英和辞書を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。
授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。
【遅刻・欠席について】
20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

英米文学概論Ⅱ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者には、自らできるだけ多くの作品に触れて、理解をより一層深めることを目指してもらいたい。

キーワード /Keywords

イギリス文学、英語圏文学、文化的多様性

経済学の基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 柳 学洙 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN100M	◎	○			
科目名	経済学の基礎			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

経済学のユニークな点は、リアルな世界の複雑な経済事象をモデル化し、シンプルな形で考察・分析することに重点をおいていることである。このようなモデル化は、現実を十分に反映していないとして批判されることも多い。しかし現代において、経済学的なモデルに基づく分析が、経済政策の策定から企業の経営戦略、家計のやりくりに至るまで、社会の隅々にまで浸透していることも事実である。この授業では、経済学的な考え方のエッセンスを身に付けることを目的として、現代経済学の骨組みを構成している代表的なモデルを取り上げ、解説していく。

教科書 /Textbooks

吉沢泰治 / 塩路悦朗 (2018) 『ベーシック経済学 - 次につながる基礎回め [新版]』有斐閣
 ※教科書に加え、各回の授業でプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学のカ』日本評論社
- 齊藤誠 / 岩本康志 / 太田聡一 / 柴田章久 (2016) 『マクロ経済学 (新版)』有斐閣
- 尾山大輔 / 安田洋祐 (2013) 『改訂版 経済学で出る数学 - 高校数学からきちんと攻める』日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 経済のしくみと経済学
- 第2回 需要曲線と供給曲線
- 第3回 完全競争と市場均衡
- 第4回 市場均衡と余剰分析
- 第5回 市場の失敗と政府の役割
- 第6回 企業行動と財の供給
- 第7回 消費者行動と財の需要
- 第8回 競争均衡と効率的な資源配分
- 第9回 GDP (国内総生産)とは何か①
- 第10回 GDP (国内総生産)とは何か②
- 第11回 長期モデル① 総生産はどう決まるのか
- 第12回 長期モデル② モノの値段はどう決まるのか
- 第13回 短期モデル 硬直的な経済
- 第14回 人々の将来予想と経済変動
- 第15回 経済成長のモデル分析

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習姿勢およびリアクションペーパー：30%，期末試験：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、指定された教科書に目を通して、授業で扱う各種トピックについて確認しておくことを勧める。事後学習としては、授業内容をよく復習し、講義や配布プリントで分からなかった点を自分なりに調べ、それでも解決できなければ次回の授業で質問してほしい。

経済学の基礎 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学は抽象的な学問というイメージを持たれることもありますが、それはモデル分析という外見上そう見えるだけであって、モデルの内側には、複雑な経済事象を理解するために心血を注いだ多くの経済学者の並々ならぬ苦闘の跡が刻まれています。この授業を通じて、「現実と格闘する学問」としての経済学の姿を皆さんに伝えることができたらと思います。

キーワード /Keywords

ミクロ経済学，マクロ経済学，モデル分析，国民経済計算

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS100M	◎	○	△		
科目名	政治学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義は、政治の基本的な仕組み・ルールである「政治制度」の紹介を通じて、政治学の基礎的な概念を学び、日本やその他の民主主義諸国の政治に対する見方を養うことをその目的とします。

より具体的には、導入として政治そして民主主義とは何かということについて考えたい。①政治制度にはどのようなものがあり、その違いが民主政治の在り方にどのような影響を与えるかについて学ぶ中で、政治学の基礎的な知識を身に着けること、②政治“学”の知識を蓄えることとまらず、そうして学んだ政治制度の知識に基づいて日本や各国の実際の政治について考察する力を身に着けること、③政治制度の観点から政治過程論・行政学・国際関係論といった隣接する科目のトピックの一端に触れることでより専門的な内容への関心を高めることを目指していきます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しませんが、各回にレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史(2008)『比較政治制度論』有斐閣アルマ
 レイプハルト, アーレント(粕谷裕子、菊池啓一訳)2014.『民主主義対民主主義(原著第2版)』勁草書房
 久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝(2011)『政治学(補訂版)』有斐閣
 永井史男・水島治郎・品田裕編(2019)『政治学入門』ミネルヴァ書房
 川出良枝・谷口将紀編(2012)『政治学』東京大学出版会
 砂原庸介・稗田健志・多湖淳(2015)『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア

政治学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：政治とはなんだろうか
【権力】【政治と経済】【集合行為】
- 第2回 政治制度：民主主義というルール、民主主義のルール
【体制論】【本人-代理人関係】【合理的選択制度論】
- 第3回 選挙制度：政治家はどう選ばれるか
【小選挙区制】【大選挙区制】【比例代表制】【混合制】
- 第4回 執政制度：トップリーダーに何が出来るか
【執政長官】【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
- 第5回 政党システム：政治の勢力図
【二大政党制】【多党制】【デュヴェルジエの法則】
- 第6回 政党組織：政治のチーム・マネージメント
【議会政党】【議会外政党】【集権-分権】【党内民主主義】
- 第7回 議会制度：政策を審議する
【立法過程の効率性】【立法過程の開放性】【二院制】
- 第8回 投票行動とアカウンタビリティ：有権者と政治制度
【政策投票（争点投票）】【回顧的投票（業績投票）】【責任の明確性】
- 第9回 行政官僚制：民意と専門性
【能力・専門性】【官僚の政治的統制】【官僚の自律性】
- 第10回 中央地方関係：自治と画一性
【単一国家】【連邦国家】【地方分権】
- 第11回 政治制度から日本を眺める①：55年体制
【55年体制】【中選挙区制】【派閥】
- 第12回 政治制度から日本を眺める②：政治改革以後
【選挙制度改革】【小選挙区比例代表並立制】【行政改革】【政権交代】
- 第13回 政治制度から世界を眺める
【多数決型（ウエストミンスター型）民主主義】【コンセンサス型民主主義】
- 第14回 国際制度：政府のない世界の政治制度
【主権国家】【集団安全保障】【グローヴァル・ガヴァナンス】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみてください。事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業で配布するレジユメは専門用語を多く含んだ「政治学の言葉」で書かれています。それに対して授業内ではできる限りかみくだいて説明するよう努めますので、各回授業への取り組みが講義の理解にとって極めて重要です。授業終了後の復習時に、レジユメの内容が理解できるか、「自分の言葉」で説明できるか確認してみてください。
- ・ 授業スライドは復習用にデータを配布します。スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義から政治学の学習を始めるという方が多くいらっしゃると思いますが、スポーツから様々なゲームに至るまで、何かを深く理解する出発点はまずその基本的な仕組みやルールをよく知ることです。政治におけるそうした基本的ルールである「政治制度」の学習を通じて、政治という複雑な営みについて体系的・学問的に考えるための一つの見方を提供できればと思います。

キーワード /Keywords

民主政治 政治制度 本人-代理人関係 合理的選択制度論

アメリカの社会【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE225M	◎	○			
科目名	アメリカの社会		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の人種的・民族的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観するとともに、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から顕著なものを取り上げ、各項目について具体的事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。

教科書 /Textbooks

明石紀雄・飯野正子『エスニック・アメリカ 多民族社会における統合の現実（第3版）』有斐閣選書、2011年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○大下尚一ほか編『史料が語るアメリカ：メイフラワーから包括通商法まで』有斐閣、1989年。
その他多数。授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 多民族国家アメリカ—概観
- 第3回 同化の諸概念
- 第4回 新大陸で出会った三つの人種集団
- 第5回 アングロ・アメリカ社会の形成
- 第6回 国民的統合に向けて
- 第7回 2017年の最もカレントなトピックについて（小テストを兼ねる）
- 第8回 「新移民」の流入（1）—イタリア移民、ユダヤ人移民
- 第9回 「新移民」の流入（2）—中国と日本からの移民
- 第10回 自由の女神の涙
- 第11回 多民族国家アメリカ—続く移民の流れ
- 第12回 平等の達成（1）—移民法の改正、先住民
- 第13回 平等の達成（2）—アフリカ系アメリカ人、アジア系アメリカ人
- 第14回 真の平等を求めて—多様性と統合の調和
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 小テスト...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業の前に、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおくことと良い。個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。開講時期に起こったニュース等に関連させた形で、適宜、その歴史的背景などの解説を行うので、上記スケジュールや順序は変更の可能性が有る。その場合は授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカの社会【昼】

キーワード /Keywords

イギリス研究Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE236M	◎	○	◎		
科目名	イギリス研究Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ブレア政権成立後のイギリス社会の状況を、教育問題を中心とする内政面から検討する。戦後の大まかな動きを確認し、ブレア政権以降のイギリス社会がどのような状況にあるかを検討する。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小尾美千代ほか(編)『国際関係学の第一歩』法律文化社、2010年。
それ以外は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【イギリス】
 - 2回 戦後イギリス社会に関する概説【福祉国家】
 - 3回 ブレア政権成立の背景【労働党】【サッチャー主義】
 - 4回 「階級社会」(1)【土曜の夜と日曜の朝】
 - 5回 「階級社会」(2)【労働者階級】
 - 6回 「階級社会」(3)【怒れる若者たち】【英国病】
 - 7回 ブレアの改革構想【国有化】【ボランティアズム】
 - 8回 1997年以降のイギリス社会(1)【New Labour】【第三の道】
 - 9回 1997年以降のイギリス社会(2)【社会的公正】【グローバル化】
 - 10回 イギリスの社会政策(1)【市場経済】【雇用問題】
 - 11回 イギリスの社会政策(2)【包摂社会】【コミュニティ】
 - 12回 イギリスの教育政策(1)【1988年教育改革法】【Bridging the Gap】
 - 13回 イギリスの教育政策(2)【NEET】【社会的排除】
 - 14回 21世紀のイギリス社会とブレア改革【公共利益】【イギリス文化】
 - 15回 まとめ【ブレア政権】
- 期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE237M	◎	○			
科目名	イギリス研究Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

ブレア政権成立以後のイギリス社会の状況を特に外交面から検討する。具体的には、ブレア政権の大きな成果とされる北アイルランド紛争の質的な終結とブレア政権の躓きの石となったイラク戦争をめぐるイギリス社会・世論の動向について、考察を進める。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小尾美千代ほか(編)『国際関係学の第一歩』法律文化社、2010年。
それ以外は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【イギリス】【アイルランド】
 - 2回 北アイルランド問題の起源(1)【ナショナリズム】【独立戦争】
 - 3回 北アイルランド問題の起源(2)【アイルランド内戦】【デヴァレラ】
 - 4回 イギリス社会と北アイルランド紛争【公民権運動】【IRA】
 - 5回 北アイルランド平和の展開とイギリス(1)【グッドフライデー合意】【権限委譲】
 - 6回 北アイルランド平和の展開とイギリス(2)【武装放棄】【自治政府】
 - 7回 アイルランド社会の現在【経済成長】【グローバル化】
 - 8回 「帝国」喪失後のイギリス対外政策【帝国】【植民地】
 - 9回 ブレアの対外政策とイギリス社会の変化【欧州統合】【戦略防衛見直し】
 - 10回 コソヴォ紛争とイギリス社会【人権】【旧ユーゴ】
 - 11回 9・11以降のイギリス社会【アメリカ】【英米関係】
 - 12回 イギリス社会とイラク戦争(1)【イラク戦争】【世論】
 - 13回 イギリス社会とイラク戦争(2)【ケリー事件】【ハットン委員会】
 - 14回 21世紀のイギリス社会と対外関係【帝国意識】【イギリス文化】
 - 15回 まとめ【ブレア政権】
- 期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化概論Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE226M	◎	○			
科目名	英米文化概論Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の社会を織りなす精神文化、精神的遺産について植民地から21世紀までの歴史的発展を通じて概説する。

教科書 /Textbooks

前半はテキストとして斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』(東京大学出版会 2012年)を使用する。同書のほかに、後半で基礎文献を追加する場合があるので注意すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【アメリカ合衆国の輪郭】
 - 第2回 英領アメリカ植民地の文化【ピューリタニズム】【自由主義】【多様性】
 - 第3回 独立革命と共和主義【大覚醒】【共和主義】
 - 第4回 19世紀アメリカの形成【合衆国憲法】【フェデラリスト】【ジェファソン民主主義】
 - 第5回 市場革命【西部】【市場革命】【超絶主義】
 - 第6回 奴隷制の拡大と南北戦争【奴隷制】【南北戦争】
 - 第7回 再建の時代から20世紀アメリカ秩序へ【再建】【憲法修正】【金ぴか時代】【移民】【ポピュリズム】【革新主義】
 - 第8回 米国関係者との文化交流
 - 第9回 第一次世界大戦【100%アメリカニズム】
 - 第10回 大衆消費社会と禁酒法【移民制限】【1920年代】
 - 第11回 大恐慌の発生【世界恐慌】【ニューディール】
 - 第12回 第二次世界大戦【冷戦】【日系人】
 - 第13回 公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【人種問題】
 - 第14回 多文化主義の興隆【ヒスパニック】【同性結婚】
 - 第15回 これからのアメリカ社会【9.11】【21世紀】
- * 上記の予定は、外部講師の都合で変動する場合がありますので、注意すること。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習の指示をするので、それにしたがって事前学習を行い、授業後はレポート、試験に備えて授業で示された文献を読んで、内容を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカの文化と歴史について包括的な知識を提供します。

キーワード /Keywords

アメリカ 文化 歴史

現代中国の政治【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE211M	◎	○			
科目名	現代中国の政治			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

世界有数の経済大国となった共産主義国家・中国の研究に必要な専門的知識を習得し、中国政治に関する情報の収集・分析方法について学ぶ。授業では、中国の近現代史を政治的観点と人物考察から振り返り、「中国の社会主義」と改革開放の行方について検討する。また、ポスト鄧小平の時代に顕在化した問題群と政治・政策との関連についても解説する。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。
主に授業で配布するプリント・資料を用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

天児慧『中国の歴史11 巨龍の胎動 毛沢東vs 鄧小平』講談社、2004年(○)
久保亨『シリーズ中国近現代史④ 社会主義への挑戦 1945 - 1971』岩波新書、2011年(○)
下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン～中国研究の動向と文献紹介、授業の進め方について
- 2回 なぜ中国は共産主義を選択したのか
- 3回 中国が国際政治の変遷から受けた影響
- 4回 建国当初の中国はどのような国家だったのか
- 5回 社会主義化
- 6回 文化大革命I【1960年代後半】
- 7回 文化大革命II【1970年代前半】
- 8回 近代化の模索
- 9回 改革開放I【対外開放】
- 10回 改革開放II【経済改革】
- 11回 改革開放がもたらした歪みと第二次天安門事件
- 12回 改革開放の加速と政治改革の停滞
- 13回 長期政権が抱える問題
- 14回 習近平時代の中国
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 90%、 日常の授業への取り組み ... 10 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「中国研究概論」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。
授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと(図書館のDVDなどを活用してください)。
新聞(紙面)を読む習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

現代中国の政治【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

図書館には現代中国に関する書籍がたくさん所蔵されていますので、自分の関心の赴くままに手に取ってみてください。授業への理解も深まるはずです。

キーワード /Keywords

現代中国の外交【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE212M	◎	○			
科目名	現代中国の外交		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、中国の外交政策・対外関係・台湾問題などについて専門的な知識を習得し、中国外交に関する情報の収集・分析方法を総合的に学ぶことである。国内政治、政策の変化、国際環境の変化と、中国外交の変化との関連性を示し、中国の視点から主要国との二国間関係や台湾・香港問題を検討する。中国の地域主義・グローバリズムへの参加といった今日的課題についても、中国国内の議論を紹介しながら説明する。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示する。主に授業中に配布する資料・レジュメを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

青山瑠妙『現代中国の外交』慶應義塾大学出版会、2007年(○)。
 王逸舟『中国外交の新思考』東京大学出版会、2007年(○)。
 服部龍二『日中国交正常化―田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』中公新書、2011年(○)。
 安田淳・門間理良編著『台湾をめぐる安全保障』慶應義塾大学出版会、2016年。
 ワン・ジョン『中国の歴史認識はどう作られたのか』東洋経済新報社、2014年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン～文献紹介と授業の進め方
 - 2回 国内政治・国際環境の変遷と中国外交I【イデオロギー、現実主義】
 - 3回 国内政治・国際環境の変遷と中国外交II【指導者と外交方針】
 - 4回 対日関係I【国交正常化】
 - 5回 対日関係II【ポスト毛沢東時代】
 - 6回 中台関係I【基礎知識】
 - 7回 中台関係II【中国の台湾政策】
 - 8回 中台関係III【中台関係の現状分析】
 - 9回 米中関係I【冷戦期】
 - 10回 米中関係II【ポスト冷戦期】
 - 11回 多国籍外交：地域主義とグローバリズム
 - 12回 経済外交・資源外交・安全保障I【概念】
 - 13回 経済外交・資源外交・安全保障II【対外行動の分析】
 - 14回 中港関係
 - 15回 まとめ
- (順番が入れ替わることがあります)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「中国研究概論」「現代中国の政治」を先に受講した方が、本講義の理解がより深いものになります。
 授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
 授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと(図書館のDVDなどを活用してください)。
 新聞(紙面)を読む習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

現代中国の外交【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国の対外認識と論理を理解して、中国の思考・行動パターンを推察する手がかりを得て下さい。
図書館に所蔵されている、中国の二国間関係・東アジアの国際関係・台湾問題・香港問題などに関する本を読んでみてください。授業がもっとよくわかるようになるはずです。
また、授業では中国に関連する国際ニュースを取り上げることもあります。日頃から新聞に目を通す習慣をつけるとよいですね。

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交 I 【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE213M	◎	○			
科目名	韓国・北朝鮮の政治外交 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「近くて遠い国」とも言われる隣国、韓国の政治外交に関する講義です（北朝鮮については2学期に開講される「韓国・北朝鮮の政治外交II」にて集中的に探求します）。ご存知のように、韓国は日本植民地支配からの解放と南北分断以来、冷戦体制の最前線に置かれながら、民主化を実現し、経済発展をとげた国です。授業の前半では、独立から現在に至るまでの韓国現代史を政治学と歴史学との接点という視点から概略的に振り返ります。その後、対日・対米・対北政策などの韓国の外交と、民主化・政党政治などの国内政治について考察を加えます。この授業が現代韓国に対する理解を高めるとともに、朝鮮半島問題を中心とした東北アジア国際政治を再考する場となればと思います。

教科書 /Textbooks

用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 木宮正史 『国際政治のなかの韓国現代史』（東京：山川出版社、2012年）、1620円。
上記に加えて、授業の進捗度や受講生の関心に応じて適宜紹介します。なお、授業中に配布する資料・レジュメを参考にすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：韓国現代史をどうみるか
 - 第2回 解放、冷戦と南北分断体制の形成
 - 第3回 朝鮮戦争
 - 第4回 李承晩政権の政治・外交・経済
 - 第5回 朴正熙政権の政治・外交・経済
 - 第6回 日韓国交正常化への道程
 - 第7回 デタント、権威主義体制、産業化
 - 第8回 脱冷戦と韓国の外交路線
 - 第9回 民主化への道程
 - 第10回 韓国の同盟政治
 - 第11回 韓国の対日政策
 - 第12回 韓国の統一政策（対北政策）
 - 第13回 韓国の政党政治
 - 第14回 韓国の課題：成長と分配、少子高齢化、民主主義
 - 第15回 まとめ
- （注）授業進捗度などにより講義テーマが前後する場合がある。
（注）受講生の関心や必要に応じて外部講師による特別講義を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

コメントカード・・・50%
レポート・・・30%
読書感想文・・・20%、

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- （1）指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと（必要な学習時間の目安は、予習30分、復習30分）。
- （2）授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

韓国・北朝鮮の政治外交Ⅰ【昼】

履修上の注意 /Remarks

- (1) テキストなどは講義と相互補完的關係にあるので、授業開始までにきちんと読むこと。
- (2) 授業終了後には復習を行い、コメントカードを提出すること。
- (3) 本講義は内容的に2学期開講の「韓国・北朝鮮の政治外交Ⅱ」と深く関わっているため、併せて履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

韓国政治、韓国外交、分断体制、冷戦、脱植民地化、民主化、産業化、同盟、日韓関係、北朝鮮

韓国・北朝鮮の政治外交Ⅱ【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE214M	◎	○			
科目名	韓国・北朝鮮の政治外交Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「謎に包まれた隣国」とも言われる北朝鮮の政治外交に関する講義です（韓国については1学期に開講される「韓国・北朝鮮外交Ⅰ」にて集中的に探求します）。授業の前半では、建国から現在に至るまでの北朝鮮現代史を、政治学と歴史学との接点という視点から振り返ります。その後、北朝鮮の同盟外交と対米・対米・対南政策、国内政治、核・ミサイル問題などについて考察を加えます。この授業が北朝鮮に対する理解を高めるとともに、「朝鮮半島問題」を中心とした東北アジア国際政治を再考する場となればと思います。

教科書 /Textbooks

用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 和田春樹 『北朝鮮現代史』(岩波新書)(東京:岩波書店、2012年)、886円。
上記に加えて、授業の進捗度や受講生の関心に応じて適宜紹介します。なお、授業中に配布する資料などを参考にすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：北朝鮮をどうみるか
- 第2回 朝鮮民主主義人民共和国の成立
- 第3回 北朝鮮からみる朝鮮戦争
- 第4回 金日成と主体思想(1)：国内政治の側面
- 第5回 金日成と主体思想(2)：対外政策の側面
- 第6回 劣勢に立つ北朝鮮：デタント、南北間の産業化競争
- 第7回 冷戦の終焉と北朝鮮の危機
- 第8回 金正日の先軍政治
- 第9回 金正恩政権と北朝鮮の選択
- 第10回 北朝鮮の同盟政治：朝中ソ3角関係
- 第11回 北朝鮮と日本、米朝関係
- 第12回 北朝鮮の統一政策(対南政策)
- 第13回 北朝鮮の核・ミサイル問題
- 第14回 東北アジア平和体制と朝鮮問題
- 第15回 まとめ

(注) 授業進捗度などにより講義テーマが前後する場合がある。
(注) 受講生の関心や必要に応じて外部講師による特別講義を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

コメントカード・・・50%、読書感想文・・・20%、レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事後学習を行ったうえで必ずコメントカードを提出すること(必要な学習時間の目安は、復習60分)。

履修上の注意 /Remarks

本講義は内容的に前期開講の「韓国・北朝鮮の政治外交Ⅰ」を引き継ぐため、併せて履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

韓国・北朝鮮の政治外交Ⅱ【昼】

キーワード /Keywords

北朝鮮、核・ミサイル、朝鮮戦争、主体思想、デタント、瀬戸際外交、南北関係、中朝関係、ソ(口)朝関係、日朝関係、金日成、金正日、金正恩

東南アジアの社会と歴史【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE215M	◎	○			
科目名	東南アジアの社会と歴史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、東南アジアについて社会と歴史の側面から理解を深めることである。授業の前半では歴史について取り上げ、後半では社会について取り上げる。歴史・社会いずれの側面においても、多民族社会である東南アジアをとらえ、東南アジアの事例を通じて多文化共生について考える視点を養うことに力点を置く。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける「くに」の形成とインド文明の受容(1~11世紀)
- 3回 王国の発展と新たな外来文明(イスラム教・仏教)の受容(11~15世紀)
- 4回 交易の時代(15~18世紀)
- 5回 東南アジアの植民地化(19~20世紀)
- 6回 植民地期の社会変容(19~20世紀)
- 7回 日本軍政と脱植民地化(20世紀後半~21世紀)
- 8回 開発の時代と権威主義体制(20世紀後半~)
- 9回 開発と社会是正：信仰への回帰(1970年代~)
- 10回 信仰と暴力とが結びつけられる時(1)事例紹介・分析
- 11回 信仰と暴力とが結びつけられる時(2)分析・解説
- 12回 多民族社会の現在
- 13回 多民族社会における共存の模索(1)導入・事例紹介
- 14回 多民族社会における共存の模索(2)事例紹介・分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回)...30% 課題(2回)...10% 期末テスト...60%

小テスト実施日に欠席する/した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストを2回実施するほか、授業中に課題を2回提出してもらう予定です。小テストおよび課題の成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。授業後は復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえでこの授業を受講すると、この授業の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジアの政治と外交【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE216M	◎	○			
科目名	東南アジアの政治と外交		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める視点として、この授業ではASEAN（東南アジア諸国連合）を中心に扱う。ASEANは、東南アジアにおける国境線がまだ流動的であった時代に、各国の内政と外交とが絡み合い生じた紛争を経て発足した。発足後のASEANは、発展途上の小国が自国の安全保障に大きく影響を与えうる地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねる中で、アジア・太平洋地域で進展する地域統合の核を成す存在にまで発展した。こうしたASEANの歴史を見ることを通じて、東南アジアについて各国の政治と外交から理解を深めるとともに、地域秩序や国際秩序の構築において東南アジア諸国がどのように参画して来たかを理解する。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
- 山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
- 山影進『転換期のASEAN—新たな課題への挑戦』日本国際問題研究所、2001年。
- 黒柳米司『ASEAN35年の軌跡—'ASEAN Way'の効用と限界』有信堂高文社、2003年。
- 黒柳米司編著『アジア地域秩序とASEANの挑戦—「東アジア共同体」をめざして』、明石書店、2005年。
- 山影進『新しいASEAN—地域共同体とアジアの中心性を目指して』アジア経済研究所、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 東南アジアにおける地域協力という発想の登場
- 4回 東南アジア連合(ASA)の成立と地域紛争
- 5回 地域紛争と第2の地域協力機構：マフィリンド(Maphilindo)
- 6回 東南アジア諸国の政治変化とASEANの成立
- 7回 ASEANの始動と変容
- 8回 インドシナ紛争とASEAN諸国(1)「難民」への対応
- 9回 インドシナ紛争とASEAN諸国(2)カンボジア内戦への関与
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大
- 11回 ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み：AFTA
- 12回 ASEANのAPECへの参画
- 13回 ASEAN地域フォーラム(ARF)、ASEAN+3、東アジア首脳会議(EAS)
- 14回 ASEANの展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回)...45% 期末テスト...55%

小テスト実施日に欠席する/した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割以上を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。

東南アジアの政治と外交 【昼】

履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえでこの授業を受講すると、この授業の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際開発協力論 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL211M	◎	○			
科目名	国際開発協力論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 下村恭民他『開発援助の経済学（第4版）』有斐閣、2009年。
- 下村恭民、辻一人、福田十一、深川由紀子著『国際協力：その新しい潮流（第3版）』有斐閣、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション（講義の目的）、開発援助の基礎知識【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 1960年代の開発援助【近代化論】【トリクル・ダウン仮説】
- 第4回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）戦略】
- 第5回 1980年代の開発援助【構造調整政策】【ワシントン・コンセンサス】【経済的コンディショナリティ】
- 第6回 冷戦の終結と援助パラダイムの変化【人間開発】【政治的コンディショナリティ】
- 第7回 グローバルな開発目標の設定【MDGs】【SDGs】
- 第8回 グローバル・サウスによる開発協力【バンドン会議】【南南協力】
- 第9回 中国による開発協力【南南協力】
- 第10回 韓国による開発協力【セマウル運動】
- 第11回 日本のODAの歴史【戦後賠償】【黒字還元】
- 第12回 日本のODAの仕組み【開発協力大綱】
- 第13回 開発援助レジームの変容【OECD/DAC】
- 第14回 グローバル開発ガバナンス【GPEDC】
- 第15回 開発協力と国際政治

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...40%（10%×4回） 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に第2次世界大戦後の世界史について復習しておくことが望ましい。定期的に小テストを実施しますので、単元毎に復習をしてください。

国際開発協力論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際協力機構（JICA）やOECD（経済協力開発機構）DAC（開発援助委員会）のウェブサイト参照すると、授業理解に役立ちます。この授業では国際政治学の観点から制度としての開発協力を考察します。そのため開発の実務的側面についてはあまり触れません。資料は事前にMoodleにアップしますので、各自ダウンロードして目を通しておくように。望ましい形としては、資料を印刷してノートの左側に貼り付け、右側には授業内で補足した説明などを書き取るなど、独自のノートづくりをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語厳禁。原則として途中入退室は認めません。

キーワード /Keywords

平和研究【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL212M	◎	○			
科目名	平和研究		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習し専門的知識を身につけます。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。随時、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- メアリー・B・アンダーソン『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。(絶版のため書店購入不可)
- リンダ・ボルマン『クライシス・キャラバン-紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：国連PKOの仕組み、歴史、役割
- 第2回 事例研究1 カンボジア【歴史、概要】
- 第3回 UNTAC：国連による国造り
- 第4回 事例研究2 ソマリア【歴史、概要】
- 第5回 UNOSOMII：紛争当事者としての国連 (DVD)
- 第6回 事例研究3 ルワンダ【歴史、概要】
- 第7回 UNAMIR：傍観者としての国連 (DVD)
- 第8回 事例研究4 旧ユーゴスラビア【歴史、概要】
- 第9回 ボスニア・ヘルツェゴビナ
- 第10回 UNPROFOR：スレブレニツァの悲劇 (DVD)
- 第11回 国連PKOの変容と保護する責任の議論
- 第12回 和解・移行期正義
- 第13回 平和構築アプローチ (各論)
- 第14回 紛争地における支援-Do No Harm原則-
- 第15回 NGOによる紛争解決 アフガニスタンにおけるペシャワール会の取り組み (DVD)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出... 40% (10%×4回) 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にイントラ上の学習支援フォルダに掲載される資料に目を通しておくこと。事後学習としては、ビデオを観た後で課題に答えて提出して頂きます (4回、Moodleを活用する予定)。

平和研究【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。ビデオを観た回ではグループでディスカッションをもらいます。積極的に発言することを心がけてください。

キーワード /Keywords

国際機構論 I 【昼】

担当者名 /Instructor 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL215M	◎	○			
科目名	国際機構論 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義（国際機構論I・II）では、以下を目的とする。第一に、国際機構の歴史、また基本的な構造や制度、機能などについて学ぶ。第二に、現実の国際政治において、国際機構がどのような意義を持ち、いかなる役割を果たしているのかを検討する。国際機構の基本的な仕組みについての理解を深めつつ、同時に、国際機構における意思決定のダイナミクス、多様な政策分野のグローバル・ガバナンスにかかわる諸アクターとの関係、ルール設定のあり方など、国際政治との関連も重視する。

国際機構論Iでは、国際機構を理解するための基礎的な情報と視点を提供する。国際機構の歴史的な展開をまず概観したうえで、国際関係における国際機構の意義や課題を説明するための分析視角を学び、理論的な枠組みや見方について理解する。また、地域的な国際機構や非政府間の国際機構の特徴や役割、これらと普遍的な国際機構との違い、さらには国際機構の有する今日的な課題についても学習する。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業計画に従って、レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 最上敏樹『国際機構論講義』岩波書店、2016年。
 山田哲也『国際機構論入門』東京大学出版会、2018年。
 ○渡部茂己・望月康恵編『国際機構論 [総合編]』国際書院、2015年。
 横田洋三監『入門 国際機構』法律文化社、2016年。
 Margaret P. Karns, Karen A. Mingst, and Kendall W. Stiles, International Organizations: The Politics and Processes of Global Governance, 3rd ed., Lynne Rienner Publishers, 2015.
 Ian Hurd, International Organizations: Politics, Law, Practice, 3rd ed., Cambridge University Press, 2017.
 Jacob Katz Cogan, Ian Hurd, and Ian Johnstone, eds., The Oxford Handbook of International Organizations, Oxford University Press, 2016.
 Bob Reinalda, ed., Routledge Handbook of International Organization, Routledge, 2019.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション【国際機構は重要か？どのような意義があるか？】
- 第2回 歴史①【19世紀～国際連盟】
- 第3回 歴史②【国際連合の創設とその後の展開】
- 第4回 分析視角①【国際機構の存在論：アクター、フォーラム、リソース】
- 第5回 分析視角②【国際機構の創設：パワー、共通利益、合理性、規範】
- 第6回 分析視角③【国際機構の存続と消滅：粘着性、正当性、制度的置換】
- 第7回 普遍的国際機構①【国際連盟と国際連合】
- 第8回 普遍的国際機構②【GATT/WTO】
- 第9回 普遍的国際機構③【UNESCO、UNHCR】
- 第10回 地域主義と地域統合
- 第11回 地域的国際機構①【EU】
- 第12回 地域的国際機構②【ASEAN】
- 第13回 地域的国際機構③【AU、OAS】
- 第14回 非政府間国際機構【INGO】
- 第15回 国際機構の諸課題【機能不全（逸脱行動、縄張り争い）、説明責任】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①授業中課題（小レポート） 20%
- ②定期試験 80%

国際機構論 I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業前には、前回までの授業のレジュメや資料、自作のノートを用いて自分の理解を確認すること。また授業後には、その授業のレジュメや資料、自作のノートの内容を整理すること。
- ・ 新聞の国際面、社会面に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業で配布するレジュメは書き込むスペースが必ずしも十分ではないため、自分でノートを用意するなど、授業の理解を助ける工夫をしてください。
- ・ 授業を妨害する行為（私語、歩き回るなど）は厳禁です。場合によっては、単位を与えません。
- ・ 授業ではPPTを使用しますが、携帯電話などで写真に撮ってはいけません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の授業では、国際連合が設立されたのはいつか、欧州連合から脱退することを決めた国はどこかといった歴史的事実を単に暗記するだけでなく、国際連合はなぜ・どのように設立されたのか、英国はなぜ・どのように欧州連合を脱退することになったのかといった、現実の事象を引き起こした要因やそのメカニズム、プロセスを説明するための理論的な見方を理解することも重要です。本講義を通して、そのような見方を身に付けましょう。

キーワード /Keywords

国際機構論Ⅱ 【昼】

担当者名 /Instructor 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL216M	◎	○			
科目名	国際機構論Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講義（国際機構論Ⅱ）では、以下を目的とする。第一に、国際機構の歴史、また基本的な構造や制度、機能などについて学ぶ。第二に、現実の国際政治において、国際機構がどのような意義を持ち、いかなる役割を果たしているのかを検討する。国際機構の基本的な仕組みについての理解を深めつつ、同時に、国際機構における意思決定のダイナミクス、多様な政策分野のグローバル・ガバナンスにかかわる諸アクターとの関係、ルール設定のあり方など、国際政治との関連も重視する。

国際機構論Ⅱでは、現在の国際社会において最も普遍的な国際機構である国際連合を取り上げ、その仕組みや機能、制度改革の動きなどについて学習する。また、安全保障や開発、環境、人道支援といった主要な政策分野における国際機構の活動について、諸アクター間の関係性や実際の合意形成などにも着目し考察する。ディスカッションなどを適宜盛り込み、学生主体の作業を通じて国際機構の現実に触れる機会を設ける。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業計画に従って、レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 植木安弘『国際連合-その役割と機能』日本評論社、2018年。
- 内田孟男編『国際機構論』ミネルヴァ書房、2013年。
- 田仁揆『国連を読む-私の政務官ノートから』ジャパンタイムズ、2015年。
- 明石康『国際連合-軌跡と展望』岩波書店、2006年。
- Thomas G. Weiss and Sam Daws, eds., The Oxford Handbook on the United Nations, 2nd ed., Oxford University Press, 2018.
- Thomas G. Weiss, David P. Forsythe, Roger A. Coate, and Kelly-Kate Pease, The United Nations and Changing World Politics, 8th ed., Routledge, 2020.
- Thomas G. Weiss and Rorden Wilkinson, eds., International Organization and Global Governance, 2nd ed., Routledge 2018.
- Jussi M. Hanhimaki, The United Nations: A Very Short Introduction, 2nd ed., Oxford University Press, 2015.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション【国連はどのように運営されているのか？】
- 第2回 国連の目的・構造と意思決定
- 第3回 仕組み①【総会】
- 第4回 仕組み②【安全保障理事会】
- 第5回 仕組み③【経済社会理事会】
- 第6回 仕組み④【国際司法裁判所】
- 第7回 仕組み⑤【事務総長と事務局】
- 第8回 国連改革、システム一貫性、多様なアクターの参画
- 第9回 安全保障①【核兵器、テロ】
- 第10回 安全保障②【平和活動、平和構築】
- 第11回 経済【WTO、世界銀行グループ、IMF、AIIB、新開発銀行】
- 第12回 人道【人道的介入、難民・国内避難民、国際刑事裁判所】
- 第13回 人権【国連人権理事会、欧州人権裁判所、人権NGO】
- 第14回 開発援助【MDGs/SDGs、UNDP、OECD/DAC】
- 第15回 環境問題【UNEP、IPCC、気候変動枠組条約、「気候正義」】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①授業中課題（小レポート） 20%
- ②定期試験 80%

国際機構論Ⅱ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業前には、前回までの授業のレジュメや資料、自作のノートを用いて自分の理解を確認すること。また授業後には、その授業のレジュメや資料、自作のノートの内容を整理すること。
- ・ 新聞の国際面、社会面に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業で配布するレジュメは書き込むスペースが必ずしも十分ではないため、自分でノートを用意するなど、授業の理解を助ける工夫をしてください。
- ・ 授業を妨害する行為（私語、歩き回るなど）は厳禁です。場合によっては、単位を与えません。
- ・ 授業ではPPTを使用しますが、携帯電話などで写真に撮ってはいけません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の授業では、国際連合が設立されたのはいつか、欧州連合から脱退することを決めた国はどこかといった歴史的事実を単に暗記するだけでなく、国際連合はなぜ・どのように設立されたのか、英国はなぜ・どのように欧州連合を脱退することになったのかといった、現実の事象を引き起こした要因やそのメカニズム、プロセスを説明するための理論的な見方を理解することも重要です。本講義を通して、そのような見方を身に付けましょう。

キーワード /Keywords

国際紛争論 【昼】

担当者名 /Instructor 川上 耕平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL214M	◎	○			
科目名	国際紛争論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

国際関係の研究は、戦争と平和の研究といっても過言ではない。そのアプローチには、歴史的な方法と理論的な方法の2つがあると思われるが、本講義は、その両方を意識しながら進めていく。具体的には、まず紛争を研究するための視座にあたるようなものを、「覇権」や「分析レベル」といったキーワードに基づいて簡潔にみていく。そうした検討を踏まえながら、具体的な紛争（授業計画を参照）を個別に取り上げ、史上上の学説などを整理することによって、受講者には国際紛争を多面的に捉える力を習得してもらう。

教科書 /Textbooks

教科書は指定せず、各回のテーマごとにレジメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各回のテーマごとに関連文献を紹介するが、講義全体に関わるものとして以下の文献を挙げておく（著者名の五十音順）。

- G.アリソン（藤原朝子 訳）『米中戦争前夜—新旧大国を衝突させる歴史の法則と回避のシナリオ』ダイヤモンド社、2017年。
- K.ウォルツ（河野勝、岡垣知子 訳）『国際政治の理論』勁草書房、2010年。
- K.ウォルツ（渡邊昭夫、岡垣知子 訳）『人間・戦争・国家—国際政治の3つのイメージ』勁草書房、2013年。
- 菅英輝『アメリカの世界戦略』中公新書、2008年。
- 黒川修司『現代国際関係論』国際書院、2009年。
- J.ゴールドSTEIN（岡田光正 訳）『世界システムと長期波動論争』世界書院、1997年。
- 篠田英朗『国際紛争を読む五つの視座』講談社選書メチエ、2015年。
- J.ナイ他（田中明彦、村田晃嗣 訳）『国際紛争—理論と歴史』原書第10版、有斐閣、2017年。
- G.モデルスキー（浦野起央、信夫隆司 訳）『世界システムの動態—世界政治の長期サイクル』晃洋書房、1991年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国際紛争を考えるための視角：【分析レベル】、【覇権】、【トウキディデスの罠】
- 第3回 三十年戦争【主権国家】：【ウェストファリア体制】
- 第4回 覇権と国際紛争（1）—スペインからオランダの覇権へ：【世界システム】
- 第5回 覇権と国際紛争（2）—パックス・ブリタニカの時代：【第二次英仏百年戦争】
- 第6回 第一次世界大戦（1）：【帝国主義】
- 第7回 第一次世界大戦（2）：【三国同盟】、【三国協商】
- 第8回 第二次世界大戦（1）：【ナチズム】
- 第8回 第二次世界大戦（2）：【連合国】、【枢軸国】
- 第9回 冷戦と核戦略：【相互確証破壊】
- 第10回 冷戦期の国際紛争（1）—二つのドイツ：【ベルリン封鎖】
- 第11回 冷戦期の国際紛争（2）—中国と台湾：【台湾海峡危機】
- 第12回 冷戦期の国際紛争（3）—朝鮮半島：【朝鮮戦争】
- 第13回 冷戦期の国際紛争（4）—中東◎：【パレスチナ問題】
- 第14回 冷戦期の国際紛争（5）—中東◎：【イラン・イラク戦争】、【湾岸戦争】
- 第15回 冷戦後の国際紛争—「イスラム国」をめぐる問題：【テロリズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...70% 小テスト...30%

国際紛争論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各テーマのレジюмеが事前に配られた場合には、それについて目を通しておくこと。そして講義が終わった後は、講義内容を自分の頭でちゃんと整理しなおし、講義で紹介した文献のいずれかにも当たってみること。

履修上の注意 /Remarks

進み方のペースによってスケジュールの変更もありうるので、その点は了承いただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校で世界史などを履修したことがなくても問題はないが、講義後の発展的な学習（復習はもちろん、講義で紹介した文献を読むことなど）に力を入れていただきたい。

キーワード /Keywords

上記の授業計画を参照。

地球環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 治彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV200M	◎	○			
科目名	地球環境論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

最近の新聞で話題となっていること、例えば「19年10月にGoogleが発表した量子コンピューターは、最先端のスーパーコンピューターで1万年はかかる問題を3分20秒で解いた」「AIのビックデータ分析の進展で、従来の定性的な情報のみに基づく未来予想とは違った予測手法が注目を集めている」「すばる望遠鏡を使った最新の研究では、少なくとも1400億年は宇宙は安泰？」「ホーキング博士最後の論文では近い将来、別の宇宙の存在を示す証拠が見つかる可能性に言及」「海底下2500mに大量の深部生命体の存在が明らかになった！」「日本版GPS本格運用と2025年に自動車の完全自動運転実現？」「偏西風の蛇行による異常気象の多発」などの記事が載っています。また熟語としては「GAFA」「5G」「IoT」「ビックデータ」「ソサエティ5.0」「量子コンピューター」「SDGs（持続可能な開発目標）」「eロコミ」「空飛ぶクルマ」「南海トラフ」など。これらの内容をどのように理解すればよいのか？難しい世の中になりました。「理系の間だからこれくらいは理解しているでしょう」とか、「文系の間だから知らなくて当然です」と言いたくなるかもしれません。しかし、今の社会では、これら情報の理解度と真偽の判断が、各人のその後の人生に影響を及ぼすことがあります。

そこで、この授業では、受講する皆さんが地球の現在・過去・未来について考える際に、知っておくべき自然科学系の話をします（もちろん、社会科学系の話もします。文系・理系の枠を超えた視点にチャレンジしています）。この授業の最も重要なことは「事実と意見」の区別と「時間と空間のスケール」を常に考えながら話を聞いていただくことです。なるべく、数式や化学式を使わないように話していきますが、これらを利用する際には、基本的な話からはじめて、理解しやすいように工夫をしています。この授業の受講後は、新聞で毎日のように取り上げられている自然科学系（地球の環境も含めて）の記事の内容がある程度、理解できるようになることを期待しています。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。資料（ウェブ上より各自ダウンロードしてください）に沿って授業を進めます（パワーポイントを利用します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書については、第1回目の講義で資料を基に説明します。

地球環境論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回「地球の歴史、何がわかっているの？そして、未来は？」【事実と意見の区別】【科学の特徴】【時間と空間のスケール】【基本単位を知る】【授業概要】【参考図書を紹介】
- 2 回「宇宙の始まり」【ビッグバンとインフレーション】【自然の大きさ】【質量と重さ】【素粒子】【4つの力】【電磁波】【重力波】
- 3 回「地球の誕生・生物の誕生」【年代測定】【ウイルスとの共生】【光合成生物】【カンブリア爆発】【スノーボール・アースイベント】【恐竜の絶滅】
- 4 回「人間社会の形成」【ヒトの進化】【人間活動】【自然生態系と人工生態系】
- 5 回「熱収支と四季」【太陽放射と地球放射】【温室効果】【1日の最高気温は何時？】【1年で最も寒い月は？】
- 6 回「水と大気の大循環」【大気鉛直構造】【温度とは？】【大気の大循環】【海洋の深層大循環】
- 7 回「森林消失と生物種絶滅」【熱帯林の破壊】【乾燥地帯の農業】【再生への対処法】
- 8 回「オゾン層破壊・PM2.5」【紫外線】【オゾンとフロン】【オゾンホール】【PM2.5とは？】
- 9 回「温暖化モデルとIPCC」【カオス】【IPCCの作業原則】【予防原則】【パリ協定】【私の見解】
- 10 回「周期的変動」【氷期サイクル】【太陽活動の異変】【海洋の周期的変動】【北極振動と偏西風の蛇行】【エルニーニョとMJO】【黒潮の蛇行】
- 11 回「化石燃料から再生可能エネルギーへ」【石油・石炭・天然ガス】【シェールガス】【メタンハイドレート】【水力】【バイオ燃料】【地熱】【太陽電池】【風力】【波力】【原子力】
- 12 回「炭素社会から水素社会に」【燃料電池】【水素発電所】【水素ステーション】【人工光合成】
- 13 回「未来予測」【2050年までの取り組みが大事】【宇宙のこと】【イノベーション加速】【人口予測】【遺伝子工学】【AIと人間との共存】【自動運転】【軌道エレベータ】【ナノマシン】【レプリケーター】【テラフォーミング】
- 14 回「天気予報・自然災害への備え」【気象観測】【天気予報とコンピュータ】【火山・地震・津波】【警報の見直し】
- 15 回「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で配布する質問カードへの記入（感想、質問等を記入する）40%、学期末試験60%で総合評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスに沿った授業を実施しています。各回の授業内容を一読して、授業に備えてください。また、授業後は理解できなかった内容については次回までに自分自身で調べておいてください（質問カードに記載した分からないことについては、次回の授業の最初に私のほうから説明します）。

履修上の注意 /Remarks

毎回、授業の終わりに質問カードに質問・感想等を記入する時間を取ります。しかし、5～10分程度の短い時間ですので、皆さんは短時間で疑問点や感想を箇条書きできるように、日頃から心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、概要・授業計画をみると分かるように、広範囲な地球の環境について取り上げています。前半は自然科学系の基本的な知識を中心に理解を深めてもらいます。中ほどでは最近、話題となっている地球環境に影響を与えている自然現象や人間活動などについて「その真偽」を中心に話をします。後半は、基礎知識、最近の現象を踏まえて、これから望ましいエネルギー、社会構造、および未来の予測について、私の考えを述べます。なお、受講生の皆さんが高校の時に理系科目をあまり勉強していなくても、この授業を理解できるように工夫（たとえば、質問カードの記入）をしています。分からないことは遠慮せずにこのカードに書いてください。次回の授業では、質問に答えることから始めます。

キーワード /Keywords

「事実と意見の区別」「時間・場所的スケール」「地球温暖化予測モデルの精度」「炭素社会から水素社会へ」

世界経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳 学洙 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN255M	◎	○			
科目名	世界経済論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

共産圏が崩壊し冷戦が終了したあと、世界経済は自由な国際貿易と資本移動によって繁栄を謳歌すると盛んに喧伝された。だが、冷戦が終わってから四半世紀以上が経った現在、拡大する格差や環境破壊といった問題は其の深刻さを増し、資本主義世界の盟主であるアメリカまでもが、国際貿易を公然と否定するような行動をとりはじめた。
自由な国際貿易と資本移動を原動力とする現代の世界経済システムは本当に持続可能なものなのか？この授業では、国際貿易の基本的なルールと理論的背景の解説からはじめ、多国籍企業の活動や環境問題、世界の格差、グローバルな人の移動といったトピックを取り上げながら、この問題について考えていく。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。各回の講義で配布するプリントに沿って授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○石田修ほか編 (2010) 『現代世界経済をとらえる Ver. 5』 東洋経済新報社
 岩本武和ほか (2012) 『グローバル・エコノミー (第3版)』 有斐閣
 岩本武和 (2012) 『国際経済学：国際金融編』 ミネルヴァ書房
 ファクンド・アルヴァレドほか編 (2018) 『世界不平等レポート2018』 みすず書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 現代世界とグローバルな資本主義経済
- 第2回 比較優位の理論と国際貿易
- 第3回 近代世界システムとしての資本主義① 16世紀における「ヨーロッパ世界経済」の出現
- 第4回 近代世界システムとしての資本主義② 「中核」 - 「半周辺」 - 「周辺」の間の分業体制
- 第5回 近代世界システムとしての資本主義③ 資本主義はなぜ世界中に拡大するのか
- 第6回 グローバリゼーションの現場で何が起きているのか
- 第7回 世界の格差問題① 発展途上国と先進国
- 第8回 世界の格差問題② グローバリゼーションと多国籍企業
- 第9回 世界の格差問題③ 「スーパーリッチ」はどこにいるのか
- 第10回 世界の格差問題④ 「貧困」はどこにあるのか
- 第11回 資本主義と地球環境① 持続可能な成長のための諸論点
- 第12回 資本主義と地球環境② 「外部性」と環境政策
- 第13回 人の移動と世界経済① 日本の外国人労働者
- 第14回 人の移動と世界経済② 国際労働力移動と移民政策
- 第15回 まとめ - 資本主義世界経済は強者による支配に収斂するか？

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習姿勢およびリアクションペーパー：30%，期末レポート：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、講義で指定された参考書に目を通して、世界経済の基本的なデータや各種トピックについて確認しておくことを勧める。事後学習としては、授業内容をよく復習し、講義や配布プリントで分からなかった点を自分なりに調べ、それでも解決できなければ次回の授業で質問してほしい。

世界経済論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

新聞やニュースを普段からチェックしておくことで、授業で解説する内容について理解を深めることができます。とくに、NHKのBS1で放送している「ワールドニュース」は、世界各地で起こっていることを概観するうえでとても役立つ番組ですので、視聴することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞やニュース番組で「世界経済」という言葉に触れることは多いと思いますが、いざ具体的にイメージしようしてみると中々難しいものです。この授業を通じて、皆さんが現代世界経済の全体像を掴むための基礎知識を得ることができればいいと思います。

キーワード /Keywords

グローバリゼーション，国際貿易，国際資本移動，多国籍企業，格差問題，地球環境問題，移民問題

国際関係特講 I 【昼】

担当者名 /Instructor 足立 カ也 / Rikiya Adachi / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 集中 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL290M	◎	○			
科目名	国際関係特講 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本講では、思想史を軸にラテンアメリカ学を概観する。
 ラテンアメリカでは、先住民族、欧州系白人、アフリカ系黒人、アジア系移民が500年かけて、自らのアイデンティティを失うほど非常に複雑に混じり合っていた。
 つまり、世界最大かつ最長の歴史を持つ「国際的な人間の混合場」であるという、他地域にはない特徴を持つ。
 その中でラテンアメリカ人たちは、「私（たち）は何者なのか？」という哲学的な問いを続ける。
 その歴史を辿り、国家間関係としての国際関係よりむしろ、人間内部における国際関係の内的発展を中心に紐解いていく。
 本講では、5世紀にわたってナショナリズム、リジョナリズム、グローバリズムやコスモポリタニズムが弁証法的に育まれ、「銀河の人種」へと止揚したダイナミックな過程を紐解く。
 さらに、冷戦前後を通じて、超大国のテーゼに反発するように生まれてきた草の根の思想を紐解き、どの地域のどの国でどの時代に生きる人間にも関わる「国際関係の内的変容」の一端を明らかにする。

This course will provide a general description of Latin American studies regarding its philosophical history.
 Latin America was a place where the indigenous people, European descendants, African slavery descendants and Asian immigrants have been mixed up so complicatedly until they lost their identity.
 It is characterized as the biggest experiment with the longest history of racial, cultural and religious mixture.
 They have been searching for the answer of a simple but philosophical question : "Who am I? Who are we?".
 We will focus on its internal development within human beings, rather than between nations, of international relations, following its history.
 In this lecture, we will unravel its dynamic process of the development of nationalism, regionalism, globalism and cosmopolitanism in a dialectic way until its "aufheben" to the "Cosmic Race".
 Then we will reveal some of the "internal transformation of international relations" which is applicable to everyone in any region, any nation, or any era, overviewing grassroots thoughts uprisen in this region through and after the cold war era to resist the thesis of superpower(s).

教科書 /Textbooks

「想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行」（ベネディクト・アンダーソン、リプロポート、1987年）
 *English version is available.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「コロンブスからカストロまで：カリブ海域史,1492-1969」（E.ウィリアムズ、岩波書店、1978年）
 - 「インディオは人間か」（ラス・カサス、岩波書店、1995年）
 - 「インディアスの破壊についての簡潔な報告」（ラス・カサス、岩波文庫、1993年）
 - 「ペルーの現実解釈のための七試論」（ホセ・カルロス・マリアテギ、拓殖書房、1988年）
 - 「グアテマラ 虐殺の記憶：真実と和解を求めて」（歴史的記憶の回復プロジェクト、岩波書店、2000年）
 - 「もう、たくさんだ!」（サバティスタ民族解放軍、現代企画室、1995年）
 - 「サバティスタの夢：たくさんの世界から成る世界を求めて」（マルコス / イボン・ル・ボ、現代企画室、2005年）
 - 「丸腰国家 軍隊を放棄したコスタリカ 60年の平和戦略」（足立カ也、扶桑社新書、2009年）
- *English versions are available except the last one 「丸腰国家」.

国際関係特講Ⅰ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回：ラテンアメリカ学入門 /Introduction to Latin American Studies
 第二回：先コロンビア期のラテンアメリカ / Pre Columbian Latin America
 第三回：ラテンアメリカ史Ⅰ（征服） /Latin American History I (The Conquest)
 第四回：ラテンアメリカ史Ⅱ（植民地時代） /Latin American History II (The Colonization)
 第五回：ラテンアメリカ史Ⅲ（独立） /Latin American History II (The Independence)
 第六回：アイデンティティとナショナリズム（理論） /Identity and Nationalism (Theory)
 第七回：ラテンアメリカ思想史Ⅰ（カリブ地域） Latin American History IV (Caribbean Region)
 第八回：ラテンアメリカ思想史Ⅰ（南米） /Latin American Philosophical History V (South America)
 第九回：ラテンアメリカ思想史Ⅲ（メソアメリカ） /Latin American History VI (Meso America)
 第十回：ラテンアメリカ現代史Ⅰ（冷戦と南米） /Latin American Modern History I (The Cold War and South America)
 第十一回：ラテンアメリカ現代史Ⅱ（冷戦とメソアメリカ） /Latin American Modern History II (The Cold War and Meso America)
 第十二回：ラテンアメリカ現代史Ⅲ（冷戦後のラテンアメリカ） /Latin American Modern History III (Latin America after the cold war era)
 第十三回：欧米哲学・思想とラテンアメリカ（理論） /Western Philosophy and Latin America (Theory)
 第十四回：ラテンアメリカの芸術と社会 /Arts and society in Latin America
 第十五回：まとめ
 ※順番は変わることがあります / The order is subject to change

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート：40点 /Final Report : 40 pts
 日常の授業への取り組み（授業中の発言）：30点 / Discussion in the class: 30 pts
 小エッセー（2回）：30点 / 2 Short Essays : 30 pts

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書及び参考図書は可能な限り事前に読んでおくことを強く勧める。
 It is highly recommended to read the textbook and references beforehand.

履修上の注意 /Remarks

授業中に発言を求められることがあります。
 そこでの発言が「日常の授業への取り組み」の評価対象となります。
 小エッセー及びレポートは教科書及び参考文献をもとに書いていただきますので、予めどれか決めて読んでおくといよいでしょう。
 授業中は、スマホ・タブレット・PCの持ち込み・使用を自由とします。

Discussion will be required sometimes in the class which will be reflected to the evaluation (30pts).
 Short essays and the final report are required to be based on the textbook and references, so it is recommended to choose and read them beforehand.
 Smartphones, tablets, PCs are allowed to use in the class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代を席卷するナショナリズムとグローバリズムという二項対立を超える営みは、すでにラテンアメリカでは何世紀も前から行われていました。
 ラテンアメリカは日本から最も遠い地域ですが、非常にダイナミックで実験的な試みを行ってきました。
 ラテンアメリカ学に触れることで、国際関係全般を考える際に視野が広がることを期待します。
 The struggle to overcome the binary conflict of nationalism and globalism which sweeps this modern era has already taken place in Latin America since centuries ago.
 In Latin America, which is the farthest region from Japan, people have tried dynamic experiments.
 I expect that Latin American Studies broadens your horizons of international relations in general.

キーワード /Keywords

ラテンアメリカ、中米、南米、中南米、メキシコ、カリブ諸国、西洋哲学
 Latin America, Central America, South America, Mexico, Caribbean Countries, western philosophy

国際関係特講 II 【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 丈太郎 / KATO Jotaro / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL291M	◎	○			
科目名	国際関係特講 II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

世界的に人の移動が活発になり、移民・難民の数は増え続けている。一方、アメリカ・メキシコ国境間への壁の建設計画、ヨーロッパでの極右政党の台頭に象徴されるように、受け入れ社会における移民・難民への憎悪も増している。

日本における在留外国人数は過去最高を更新し続けている。日本政府は「特定技能」人材の受け入れを開始した。2019年4月から5年間で34.5万人から受け入れるという。しかし、彼・彼女らが家族を帯同することは原則として認めていない。さらに、移民政策は取らないと強調している。

2020年8月には東京五輪が開催される。外国人観光客数を年間4,000万人とする目標が掲げられ、来日に当たっての外国人へのビザ発給要件は緩和される。外国人（移民）を巡る課題も増えることが想定され、課題解決の方策が必要とされる。

本授業では、日本における移民・難民の受け入れのあり方を考える。移民・難民をめぐる対立や紛争を調和・調整できる人材の育成を目指す。ワークショップ（ドラマづくりなど）を通じ、受講者のクリティカルシンキング・想像力を鍛える。

教科書 /Textbooks

松尾慎編著、山田泉・田中宝紀・加藤丈太郎・飛田勘文著（2018）『多文化共生 人が変わる、社会を変える』にほんこの凡人社、978-4893589521、2,160円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 移民政策学会設立10周年記念論集刊行委員会編（2018）『移民政策のフロンティア-日本の歩みと課題を問い直す』明石書店、978-4750346526
- 芹澤健介（2018）『コンビニ外国人』新潮新書、978-4106107672
- 西日本新聞社（2017）『新移民時代-外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店、978-4750345864
- 山村淳平（2015）『難民からまなぶ世界と日本』解放出版社、978-4759263398

国際関係特講Ⅱ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回イントロダクション 日本の出入国在留管理政策の現在（講義）
講義内容、評価方法を説明する。日本の出入国在留管理政策において、今後どのような課題が想定されるのかを解説する。
- 第2回多文化社会（外国人と共に暮らすことができる社会）とは（ワークショップ①）
「ダイヤモンドランキング」（ワークショップの手法の一つ）を使って、日本における移民・難民の受け入れに関わる課題の解決方法について考える。
- 第3回在日コリアン（講義）
在日コリアンの就職差別・ヘイトスピーチとの関いに学ぶ。
- 第4回「多文化共生」を問い直す（ワークショップ②）
テキスト（山田）の論者を元に、日本型「多文化主義」とも言われる「多文化共生」を問い直す【テキスト使用】
- 第5回日系ブラジル人と外国につながる子どもが抱える課題（講義）
1990年代以降に受け入れが進んだ日系ブラジル人を巡っては様々な課題が提起されている。特に子どもの教育・若者の進学における課題について考える。
- 第6回技能実習生（講義）
技能実習制度は国際貢献か労働力補充の手段なのか。多面的に制度を見る。九州において技能実習生がどのように受け入れられているかについても触れる。
- 第7回留学生（講義）
多くの留学生が日本での就職を希望している。現行の制度でキャリアの構築は可能かを考える。福岡県における留学生受け入れの現状について概観する。
- 第8回 ミニリサーチ準備（ワークショップ③前半）
テキストの内容（松尾）を理解する。福岡県、北九州市、受講者の出身地等における「在留外国人」受け入れへの施策・取り組みをグループに分かれ、調べる。翌日の発表に向けて準備をする。【テキスト使用】
- 第9回ミニリサーチ発表（ワークショップ③後半）
ミニリサーチの内容を各グループごとに発表する。
- 第10回難民（講義）
日本において難民受け入れ数が少ないのはなぜかを考える。また、日本でファッションデザイナーとして活躍するミャンマー人難民の半生に学ぶ。
- 第11回非正規移民（講義）
もし、あなたビザがない若者だとしたら日本でどうやって生きて行くのか。当事者の経験から考える。
- 第12回日本に暮らす移民・難民の気持ちを想像する「ドラマ」づくり①（ワークショップ④前半）
テキスト（飛田）の内容を理解する。グループ毎にドラマの脚本を作る、配役を決める。【テキスト使用】
- 第13回日本に暮らす移民・難民の気持ちを想像する「ドラマ」づくり②（ワークショップ④後半）
グループごとにドラマを発表する。
- 第14回日本における移民・難民の受け入れのあり方（まとめの講義）
第13回まで、時間の関係でお伝えしきれなかった部分を講義する。全体をまとめる。受講者の疑問点に答える。
- 第15回 試験
論述形式（持ち込み不可）の試験を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験（50%）、ワークショップへの貢献度（50% 内訳：①5%、②10%、③15%、④20%）により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習

授業開始時までに教科書の第1部（pp.3-50、山田）、第2部2章（pp.85-105、松尾）、第3部1章（pp.109-130、飛田）を読んでおく。

事後学習

新聞、参考文献などを用いて、授業で習った、日本の移民・難民の受け入れ状況について理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第8回、第12回はノートパソコン、タブレット等があると、調べ物がしやすくなります。新たに購入する必要はありませんが、もしお持ちであれば持参してください。
- ・ 本授業はワークショップを取り入れ、カリキュラムを構成しています。ワークショップは受講者の参加によって成立します。よって、欠席さ

国際関係特講Ⅱ【昼】

履修上の注意 /Remarks

- れてしまうと当該の回の得点は0点になりますので予めご注意ください。
- ・ 講義時は、分からない点、より深めたい点をぜひ質問してください。
 - ・ 講義中の私語は他の受講者の迷惑となるので、厳重に慎むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 集中講義ですが、映像、ワークショップを適宜取り入れ、出来るだけ受講者の皆さんが疲れないように工夫をしたいと思います。ぜひ、履修してください。
- ・ ワークショップでは、学年等の枠を超えて、初めて話す方同士で議論をしていただきます。講師も可能な限り議論が進むようお手伝いをします。ぜひ、ワークショップに苦手意識を持つ方こそ、積極的に交流してください。
- ・ 講師は九州の事情にはまだ詳しくないので、ぜひ皆さんからもアウトプットを出してください。皆さんがアウトプットを出せば出すほど、学びが深まり、授業が面白くなります。共に学ぶことを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

移民、難民、在留外国人、出入国在留管理政策、多文化共生、多文化社会

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR210M	◎	○			
科目名	倫理学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が把握できるようにする。

教科書 /Textbooks

各回でレジメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクションおよび古代ギリシャの倫理(1) ソクラテスの倫理思想
- 第2回 古代ギリシャの倫理(2) プラトンの倫理思想 【美しき国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(3) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想 【普遍化と信仰義認】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスとフランチェスコの倫理思想 【愛と高貴な貧しさ】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第7回 近代の倫理思想(1) デカルトの倫理思想 【旅とコギト】
- 第9回 近代の倫理思想(2) ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
- 第8回 近代の倫理思想(3) スピノザの倫理思想 【コナトゥスと倫理】
- 第10回 近代の倫理思想(4) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(5) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(6) ヘーゲルの倫理思想 【承認とコルボラツイオン】
- 第13回 近代の倫理思想(7) マルクスの倫理思想 【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想(1) フランクフルト学とハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 現代の倫理思想(2) フーコーの倫理思想 【統治性と権力】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む)40パーセント
期末テスト 60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で紹介した原典・参考文献のうち興味をもったものを選び、自分で読むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

適宜リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむづかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問して下さい。

キーワード /Keywords

英文法・英作文 A 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG161M		◎	○	○	
科目名	英文法・英作文 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識を深めながら、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

Get Your Message Across: Writing Communicative Paragraphs
Hisatake Jimbo他著 (南雲堂, 2008年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著 (Cambridge UP, 2012年)
- Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力 (Cambridge UP, 2009年)
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳 (Cambridge UP, 2017年)

英文法・英作文 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (教科書、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
Writing Guide (1) (書式と句読法について知る) p.13は次回までの宿題
- 第2回 Writing Guide (書式と句読法) (2) (書式と句読法について確認する) p.13宿題の確認
- 第3回 Chapter 1: What Is a Paragraph? (英文パラグラフの基本について学ぶ)
- 第4回 Chapter 2: The Topic Sentence (主題文について学ぶ)
- 第5回 Chapter 3: Supporting Sentences (支持文について学ぶ)
- 第6回 Chapter 4: Time Order (時間の順序に従った支持文の書き方について学ぶ)
- 第7回 Chapter 5: Space Order (空間の順序に従った支持文の書き方について学ぶ)
- 第8回 Chapter 6: Process and Direction (過程・手順と指示を整然と示す支持文の書き方について学ぶ)
- 第9回 Chapter 7: Cause and Effect (因果関係による展開を学ぶ)
- 第10回 Chapter 8: Examples (例示による展開を学ぶ)
- 第11回 Chapter 9: Definition (定義による展開を学ぶ)
- 第12回 Chapter 10: Classification (分類による展開を学ぶ)
- 第13回 Chapter 11: Comparison and Contrast (比較・対照による展開を学ぶ)
- 第14回 Chapter 12: Review (パラグラフ・ライティングについて復習する)
- 第15回 Chapter 13: From a Paragraph to a Short Essay (エッセイ・ライティングへの展開を知る)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題提出 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

- 【持ち物について】
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。
授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。
USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。
- 【遅刻・欠席について】
20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や英語構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

パラグラフ・ライティング

英文法・英作文 A 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG161M		◎	○	○	
科目名	英文法・英作文 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識を深めながら、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

Get Your Message Across: Writing Communicative Paragraphs
Hisatake Jimbo他著 (南雲堂, 2008年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著 (Cambridge UP, 2012年)
- Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力 (Cambridge UP, 2009年)
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳 (Cambridge UP, 2017年)

英文法・英作文 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (教科書、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
Writing Guide (1) (書式と句読法について知る) p.13は次回までの宿題
- 第2回 Writing Guide (書式と句読法) (2) (書式と句読法について確認する) p.13宿題の確認
- 第3回 Chapter 1: What Is a Paragraph? (英文パラグラフの基本について学ぶ)
- 第4回 Chapter 2: The Topic Sentence (主題文について学ぶ)
- 第5回 Chapter 3: Supporting Sentences (支持文について学ぶ)
- 第6回 Chapter 4: Time Order (時間の順序に従った支持文の書き方について学ぶ)
- 第7回 Chapter 5: Space Order (空間の順序に従った支持文の書き方について学ぶ)
- 第8回 Chapter 6: Process and Direction (過程・手順と指示を整然と示す支持文の書き方について学ぶ)
- 第9回 Chapter 7: Cause and Effect (因果関係による展開を学ぶ)
- 第10回 Chapter 8: Examples (例示による展開を学ぶ)
- 第11回 Chapter 9: Definition (定義による展開を学ぶ)
- 第12回 Chapter 10: Classification (分類による展開を学ぶ)
- 第13回 Chapter 11: Comparison and Contrast (比較・対照による展開を学ぶ)
- 第14回 Chapter 12: Review (パラグラフ・ライティングについて復習する)
- 第15回 Chapter 13: From a Paragraph to a Short Essay (エッセイ・ライティングへの展開を知る)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題提出 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

- 【持ち物について】
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。
授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。
USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。
- 【遅刻・欠席について】
20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や英語構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

パラグラフ・ライティング

英文法・英作文 A 【昼】

担当者名 /Instructor 浅田 壽男 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG161M		◎	○	○	
科目名	英文法・英作文 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識を深めながら、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

Get Your Message Across: Writing Communicative Paragraphs
Hisatake Jimbo他著 (南雲堂, 2008年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著 (Cambridge UP, 2012年)
- Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力 (Cambridge UP, 2009年)
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳 (Cambridge UP, 2017年)

英文法・英作文 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (教科書、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
Writing Guide (1) (書式と句読法について知る) p.13は次回までの宿題
- 第2回 Writing Guide (書式と句読法) (2) (書式と句読法について確認する) p.13宿題の確認
- 第3回 Chapter 1: What Is a Paragraph? (英文パラグラフの基本について学ぶ)
- 第4回 Chapter 2: The Topic Sentence (主題文について学ぶ)
- 第5回 Chapter 3: Supporting Sentences (支持文について学ぶ)
- 第6回 Chapter 4: Time Order (時間の順序に従った支持文の書き方について学ぶ)
- 第7回 Chapter 5: Space Order (空間の順序に従った支持文の書き方について学ぶ)
- 第8回 Chapter 6: Process and Direction (過程・手順と指示を整然と示す支持文の書き方について学ぶ)
- 第9回 Chapter 7: Cause and Effect (因果関係による展開を学ぶ)
- 第10回 Chapter 8: Examples (例示による展開を学ぶ)
- 第11回 Chapter 9: Definition (定義による展開を学ぶ)
- 第12回 Chapter 10: Classification (分類による展開を学ぶ)
- 第13回 Chapter 11: Comparison and Contrast (比較・対照による展開を学ぶ)
- 第14回 Chapter 12: Review (パラグラフ・ライティングについて復習する)
- 第15回 Chapter 13: From a Paragraph to a Short Essay (エッセイ・ライティングへの展開を知る)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題提出 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

- 【持ち物について】
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。
授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。
USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。
- 【遅刻・欠席について】
20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や英語構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

パラグラフ・ライティング

英文法・英作文 A 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 真理香 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG161M		◎	○	○	
科目名	英文法・英作文 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識を深めながら、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

Get Your Message Across: Writing Communicative Paragraphs
Hisatake Jimbo他著 (南雲堂, 2008年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著 (Cambridge UP, 2012年)
- Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力 (Cambridge UP, 2009年)
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳 (Cambridge UP, 2017年)

英文法・英作文 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (教科書、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
Writing Guide (1) (書式と句読法について知る) p.13は次回までの宿題
- 第2回 Writing Guide (書式と句読法) (2) (書式と句読法について確認する) p.13宿題の確認
- 第3回 Chapter 1: What Is a Paragraph? (英文パラグラフの基本について学ぶ)
- 第4回 Chapter 2: The Topic Sentence (主題文について学ぶ)
- 第5回 Chapter 3: Supporting Sentences (支持文について学ぶ)
- 第6回 Chapter 4: Time Order (時間の順序に従った支持文の書き方について学ぶ)
- 第7回 Chapter 5: Space Order (空間の順序に従った支持文の書き方について学ぶ)
- 第8回 Chapter 6: Process and Direction (過程・手順と指示を整然と示す支持文の書き方について学ぶ)
- 第9回 Chapter 7: Cause and Effect (因果関係による展開を学ぶ)
- 第10回 Chapter 8: Examples (例示による展開を学ぶ)
- 第11回 Chapter 9: Definition (定義による展開を学ぶ)
- 第12回 Chapter 10: Classification (分類による展開を学ぶ)
- 第13回 Chapter 11: Comparison and Contrast (比較・対照による展開を学ぶ)
- 第14回 Chapter 12: Review (パラグラフ・ライティングについて復習する)
- 第15回 Chapter 13: From a Paragraph to a Short Essay (エッセイ・ライティングへの展開を知る)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題提出 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

- 【持ち物について】
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。
授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。
USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。
- 【遅刻・欠席について】
20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や英語構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

パラグラフ・ライティング

英文法・英作文 B 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 1 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG162M		◎	○	○	
科目名	英文法・英作文 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

これまでに培った英語の文法・構文の知識をさらに深めながら英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指す。様々なタイプの英文パラグラフの書き方を学んだ後に、パラグラフ・ライティングの書き方を発展させて、英文エッセイの書き方を学ぶ。読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

From Paragraph to Essay: Get Your Message Across II
Kate Elwood他著 (南雲堂, 2013年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著 (Cambridge UP, 2012年)
- Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力 (Cambridge UP, 2009年)
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳 (Cambridge UP, 2017年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (教科書、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
Unit 1: I Am Going to Write One Paragraph (パラグラフに基本ついて復習する)
- 第2回 Unit 2: Trying to Be Polite (適切なレジスターについて学ぶ)
- 第3回 Unit 3: What Do You Think? (意見の書き方を学ぶ)
- 第4回 Unit 4: This May Work! (問題・解決法提示の書き方を学ぶ)
- 第5回 Unit 5: How Could It Happen? (原因と結果の書き方を学ぶ)
- 第6回 Unit 6: What Is an Essay? (エッセイ・ライティングの基本について学ぶ)
- 第7回 Unit 7: Who Am I? (アウトラインの形式について学ぶ)
- 第8回 Unit 8: Let Me Tell You about a Beautiful Place! (1) (記述型エッセイについて学ぶ)
- 第9回 Unit 9: Let Me Tell You about a Beautiful Place! (2) (記述型エッセイを練習する)
- 第10回 Unit 10: That's a Good Point! (1) (説得型エッセイについて学ぶ)
- 第11回 Unit 11: That's a Good Point! (2) (説得型エッセイを練習する)
- 第12回 Unit 12: How Are They Different? (1) (比較型エッセイについて学ぶ)
- 第13回 Unit 13: How Are They Different? (2) (比較型エッセイを練習する)
- 第14回 Unit 14: Let's Sort It Out! (1) (分類型エッセイについて学ぶ)
- 第15回 Unit 15: Let's Sort It Out! (2) (分類型エッセイを練習する)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

英文法・英作文 B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

【持ち物について】

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。

授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。

USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。

【遅刻・欠席について】

20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

パラグラフ・ライティング、エッセイ・ライティング

英文法・英作文 B 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG162M		◎	○	○	
科目名	英文法・英作文 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

これまでに培った英語の文法・構文の知識をさらに深めながら英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指す。様々なタイプの英文パラグラフの書き方を学んだ後に、パラグラフ・ライティングの書き方を発展させて、英文エッセイの書き方を学ぶ。読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

From Paragraph to Essay: Get Your Message Across II
Kate Elwood他著 (南雲堂, 2013年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著 (Cambridge UP, 2012年)
- Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力 (Cambridge UP, 2009年)
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳 (Cambridge UP, 2017年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (教科書、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
Unit 1: I Am Going to Write One Paragraph (パラグラフに基本ついて復習する)
- 第2回 Unit 2: Trying to Be Polite (適切なレジスターについて学ぶ)
- 第3回 Unit 3: What Do You Think? (意見の書き方を学ぶ)
- 第4回 Unit 4: This May Work! (問題・解決法提示の書き方を学ぶ)
- 第5回 Unit 5: How Could It Happen? (原因と結果の書き方を学ぶ)
- 第6回 Unit 6: What Is an Essay? (エッセイ・ライティングの基本について学ぶ)
- 第7回 Unit 7: Who Am I? (アウトラインの形式について学ぶ)
- 第8回 Unit 8: Let Me Tell You about a Beautiful Place! (1) (記述型エッセイについて学ぶ)
- 第9回 Unit 9: Let Me Tell You about a Beautiful Place! (2) (記述型エッセイを練習する)
- 第10回 Unit 10: That's a Good Point! (1) (説得型エッセイについて学ぶ)
- 第11回 Unit 11: That's a Good Point! (2) (説得型エッセイを練習する)
- 第12回 Unit 12: How Are They Different? (1) (比較型エッセイについて学ぶ)
- 第13回 Unit 13: How Are They Different? (2) (比較型エッセイを練習する)
- 第14回 Unit 14: Let's Sort It Out! (1) (分類型エッセイについて学ぶ)
- 第15回 Unit 15: Let's Sort It Out! (2) (分類型エッセイを練習する)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

英文法・英作文 B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

【持ち物について】

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。

授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。

USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。

【遅刻・欠席について】

20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

パラグラフ・ライティング、エッセイ・ライティング

英文法・英作文 B 【昼】

担当者名 /Instructor 浅田 壽男 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG162M		◎	○	○	
科目名	英文法・英作文 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

これまでに培った英語の文法・構文の知識をさらに深めながら英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指す。様々なタイプの英文パラグラフの書き方を学んだ後に、パラグラフ・ライティングの書き方を発展させて、英文エッセイの書き方を学ぶ。読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

From Paragraph to Essay: Get Your Message Across II
Kate Elwood他著 (南雲堂, 2013年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著 (Cambridge UP, 2012年)
- Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力 (Cambridge UP, 2009年)
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳 (Cambridge UP, 2017年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (教科書、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
Unit 1: I Am Going to Write One Paragraph (パラグラフに基本ついて復習する)
- 第2回 Unit 2: Trying to Be Polite (適切なレジスターについて学ぶ)
- 第3回 Unit 3: What Do You Think? (意見の書き方を学ぶ)
- 第4回 Unit 4: This May Work! (問題・解決法提示の書き方を学ぶ)
- 第5回 Unit 5: How Could It Happen? (原因と結果の書き方を学ぶ)
- 第6回 Unit 6: What Is an Essay? (エッセイ・ライティングの基本について学ぶ)
- 第7回 Unit 7: Who Am I? (アウトラインの形式について学ぶ)
- 第8回 Unit 8: Let Me Tell You about a Beautiful Place! (1) (記述型エッセイについて学ぶ)
- 第9回 Unit 9: Let Me Tell You about a Beautiful Place! (2) (記述型エッセイを練習する)
- 第10回 Unit 10: That's a Good Point! (1) (説得型エッセイについて学ぶ)
- 第11回 Unit 11: That's a Good Point! (2) (説得型エッセイを練習する)
- 第12回 Unit 12: How Are They Different? (1) (比較型エッセイについて学ぶ)
- 第13回 Unit 13: How Are They Different? (2) (比較型エッセイを練習する)
- 第14回 Unit 14: Let's Sort It Out! (1) (分類型エッセイについて学ぶ)
- 第15回 Unit 15: Let's Sort It Out! (2) (分類型エッセイを練習する)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

英文法・英作文 B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

【持ち物について】

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。

授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。

USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。

【遅刻・欠席について】

20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

パラグラフ・ライティング、エッセイ・ライティング

英文法・英作文 B 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 真理香 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG162M		◎	○	○	
科目名	英文法・英作文 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

これまでに培った英語の文法・構文の知識をさらに深めながら英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指す。様々なタイプの英文パラグラフの書き方を学んだ後に、パラグラフ・ライティングの書き方を発展させて、英文エッセイの書き方を学ぶ。読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

From Paragraph to Essay: Get Your Message Across II
Kate Elwood他著 (南雲堂, 2013年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- English Grammar in Use: A Self-Study Reference and Practice Book for Intermediate Learners of English
Raymond Murphy 著 (Cambridge UP, 2012年)
- Grammar in Use Intermediate: A Self-Study Reference and Practice for Students of North American English
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力 (Cambridge UP, 2009年)
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』
Raymond Murphy 著, William R. Smalzer 執筆協力, 渡辺雅仁 訳 (Cambridge UP, 2017年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (教科書、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
Unit 1: I Am Going to Write One Paragraph (パラグラフに基本ついて復習する)
- 第2回 Unit 2: Trying to Be Polite (適切なレジスターについて学ぶ)
- 第3回 Unit 3: What Do You Think? (意見の書き方を学ぶ)
- 第4回 Unit 4: This May Work! (問題・解決法提示の書き方を学ぶ)
- 第5回 Unit 5: How Could It Happen? (原因と結果の書き方を学ぶ)
- 第6回 Unit 6: What Is an Essay? (エッセイ・ライティングの基本について学ぶ)
- 第7回 Unit 7: Who Am I? (アウトラインの形式について学ぶ)
- 第8回 Unit 8: Let Me Tell You about a Beautiful Place! (1) (記述型エッセイについて学ぶ)
- 第9回 Unit 9: Let Me Tell You about a Beautiful Place! (2) (記述型エッセイを練習する)
- 第10回 Unit 10: That's a Good Point! (1) (説得型エッセイについて学ぶ)
- 第11回 Unit 11: That's a Good Point! (2) (説得型エッセイを練習する)
- 第12回 Unit 12: How Are They Different? (1) (比較型エッセイについて学ぶ)
- 第13回 Unit 13: How Are They Different? (2) (比較型エッセイを練習する)
- 第14回 Unit 14: Let's Sort It Out! (1) (分類型エッセイについて学ぶ)
- 第15回 Unit 15: Let's Sort It Out! (2) (分類型エッセイを練習する)

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

英文法・英作文 B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

【持ち物について】

教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。

授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。

USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。

【遅刻・欠席について】

20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

パラグラフ・ライティング、エッセイ・ライティング

English Practicum 1 A 【昼】

担当者名 /Instructor マルコム・ロス・スワンソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 1 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to give students ample practice in essential vocabulary, review important grammatical structures, and practice listening and speaking skills that will allow them to succeed in academic settings.

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase / Pathways 2B Second Edition
National Geographic Learning / ISBN 978-1-337-56258-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People
- Week 2 Unit 6: Let's eat! – Food Culture
- Week 3 Speaking Skills: Interrupting and Returning to a Topic
- Week 4 Listening and Video Activities
- Week 5 Group Discussion
- Week 6 Presentation Preparation
- Week 7 Presentation
- Week 8 Unit 7: Our Active Earth – Natural Disasters
- Week 9 Speaking Skills: Using Transitions
- Week 10 Listening and Video Activities
- Week 11 Group Discussion
- Week 12 Presentation Preparation
- Week 13 Presentation
- Week 14 Unit 8: Wonders from the Past – Ancient Cultures
- Week 15 Speaking Skills: Summarizing

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations: 60 percent
Speaking Examination: 20 percent
Final Examination: 20 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum 1 A 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 1 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to give students ample practice in essential vocabulary, review important grammatical structures, and practice listening and speaking skills that will allow them to succeed in academic settings.

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase / Pathways 2B Second Edition
National Geographic Learning / ISBN 978-1-337-56258-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People
- Week 2 Unit 6: Let's eat! – Food Culture
- Week 3 Speaking Skills: Interrupting and Returning to a Topic
- Week 4 Listening and Video Activities
- Week 5 Group Discussion
- Week 6 Presentation Preparation
- Week 7 Presentation
- Week 8 Unit 7: Our Active Earth – Natural Disasters
- Week 9 Speaking Skills: Using Transitions
- Week 10 Listening and Video Activities
- Week 11 Group Discussion
- Week 12 Presentation Preparation
- Week 13 Presentation
- Week 14 Unit 8: Wonders from the Past – Ancient Cultures
- Week 15 Speaking Skills: Summarizing

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations: 60 percent
Speaking Examination: 20 percent
Final Examination: 20 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum 1 A 【昼】

担当者名 /Instructor マルコム・ロス・スワンソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 1 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to give students ample practice in essential vocabulary, review important grammatical structures, and practice listening and speaking skills that will allow them to succeed in academic settings.

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase / Pathways 2B Second Edition
National Geographic Learning / ISBN 978-1-337-56258-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People
- Week 2 Unit 6: Let's eat! – Food Culture
- Week 3 Speaking Skills: Interrupting and Returning to a Topic
- Week 4 Listening and Video Activities
- Week 5 Group Discussion
- Week 6 Presentation Preparation
- Week 7 Presentation
- Week 8 Unit 7: Our Active Earth – Natural Disasters
- Week 9 Speaking Skills: Using Transitions
- Week 10 Listening and Video Activities
- Week 11 Group Discussion
- Week 12 Presentation Preparation
- Week 13 Presentation
- Week 14 Unit 8: Wonders from the Past – Ancient Cultures
- Week 15 Speaking Skills: Summarizing

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations: 60 percent
Speaking Examination: 20 percent
Final Examination: 20 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum 1 A 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 1 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to give students ample practice in essential vocabulary, review important grammatical structures, and practice listening and speaking skills that will allow them to succeed in academic settings.

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase / Pathways 2B Second Edition
National Geographic Learning / ISBN 978-1-337-56258-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People
- Week 2 Unit 6: Let's eat! – Food Culture
- Week 3 Speaking Skills: Interrupting and Returning to a Topic
- Week 4 Listening and Video Activities
- Week 5 Group Discussion
- Week 6 Presentation Preparation
- Week 7 Presentation
- Week 8 Unit 7: Our Active Earth – Natural Disasters
- Week 9 Speaking Skills: Using Transitions
- Week 10 Listening and Video Activities
- Week 11 Group Discussion
- Week 12 Presentation Preparation
- Week 13 Presentation
- Week 14 Unit 8: Wonders from the Past – Ancient Cultures
- Week 15 Speaking Skills: Summarizing

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations: 60 percent
Speaking Examination: 20 percent
Final Examination: 20 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum 1 B 【昼】

担当者名 /Instructor マルコム・ロス・スワンソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 1 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to give students ample practice in essential vocabulary, review important grammatical structures, and practice listening and speaking skills that will allow them to succeed in academic settings.

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase / Pathways 2B Second Edition
National Geographic Learning / ISBN 978-1-337-56258-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Listening and Video Activities
- Week 2 Group Discussion
- Week 3 Presentation Preparation
- Week 4 Presentation
- Week 5 Unit 9: Species Survival – Environment
- Week 6 Speaking Skills: Talking about Cause and Effect
- Week 7 Listening and Video Activities
- Week 8 Group Discussion
- Week 9 Presentation Preparation
- Week 10 Presentation
- Week 11 Unit 10: Entrepreneurs and Innovators
- Week 12 Speaking Skills: Rephrasing and Drawing Conclusions
- Week 13 Listening and Video Activities
- Week 14 Presentation Preparation
- Week 15 Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations: 60 percent
Speaking Examination: 20 percent
Final Examination: 20 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum 1 B 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 1 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to give students ample practice in essential vocabulary, review important grammatical structures, and practice listening and speaking skills that will allow them to succeed in academic settings.

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase / Pathways 2B Second Edition
National Geographic Learning / ISBN 978-1-337-56258-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Listening and Video Activities
- Week 2 Group Discussion
- Week 3 Presentation Preparation
- Week 4 Presentation
- Week 5 Unit 9: Species Survival – Environment
- Week 6 Speaking Skills: Talking about Cause and Effect
- Week 7 Listening and Video Activities
- Week 8 Group Discussion
- Week 9 Presentation Preparation
- Week 10 Presentation
- Week 11 Unit 10: Entrepreneurs and Innovators
- Week 12 Speaking Skills: Rephrasing and Drawing Conclusions
- Week 13 Listening and Video Activities
- Week 14 Presentation Preparation
- Week 15 Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations: 60 percent
Speaking Examination: 20 percent
Final Examination: 20 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum 1 B 【昼】

担当者名 /Instructor マルコム・ロス・スワンソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 1 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to give students ample practice in essential vocabulary, review important grammatical structures, and practice listening and speaking skills that will allow them to succeed in academic settings.

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase / Pathways 2B Second Edition
National Geographic Learning / ISBN 978-1-337-56258-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Listening and Video Activities
- Week 2 Group Discussion
- Week 3 Presentation Preparation
- Week 4 Presentation
- Week 5 Unit 9: Species Survival – Environment
- Week 6 Speaking Skills: Talking about Cause and Effect
- Week 7 Listening and Video Activities
- Week 8 Group Discussion
- Week 9 Presentation Preparation
- Week 10 Presentation
- Week 11 Unit 10: Entrepreneurs and Innovators
- Week 12 Speaking Skills: Rephrasing and Drawing Conclusions
- Week 13 Listening and Video Activities
- Week 14 Presentation Preparation
- Week 15 Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations: 60 percent
Speaking Examination: 20 percent
Final Examination: 20 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum 1 B 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 1 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to give students ample practice in essential vocabulary, review important grammatical structures, and practice listening and speaking skills that will allow them to succeed in academic settings.

教科書 /Textbooks

Becky Tarver Chase / Pathways 2B Second Edition
National Geographic Learning / ISBN 978-1-337-56258-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Listening and Video Activities
- Week 2 Group Discussion
- Week 3 Presentation Preparation
- Week 4 Presentation
- Week 5 Unit 9: Species Survival – Environment
- Week 6 Speaking Skills: Talking about Cause and Effect
- Week 7 Listening and Video Activities
- Week 8 Group Discussion
- Week 9 Presentation Preparation
- Week 10 Presentation
- Week 11 Unit 10: Entrepreneurs and Innovators
- Week 12 Speaking Skills: Rephrasing and Drawing Conclusions
- Week 13 Listening and Video Activities
- Week 14 Presentation Preparation
- Week 15 Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentations: 60 percent
Speaking Examination: 20 percent
Final Examination: 20 percent

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your lecturer.

履修上の注意 /Remarks

No credit will be given to students who are absent four or more times. If a student is late for class thirty minutes, that will equal one absence. Therefore, the student who was absent must provide a document to the lecturer as to why said student will be or was late or absent.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 真理香 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG261M		◎	○	○	
科目名	英語表現法 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Ichizo Ueda他著、センゲージラーニング、2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考URL: TED [https://www.ted.com/#/]
その他、授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (教科書、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第3回 Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (Debate and Further Understanding)
- 第4回 Unit 2: Women's Protection or Gender Equality? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第5回 Unit 2: Women's Protection or Gender Equality? (Debate and Further Understanding)
- 第6回 Unit 3: Eco or Ego? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第7回 Unit 3: Eco or Ego? (Debate and Further Understanding)
- 第8回 Unit 4: A Rewarding Pastime or a Waste of Time? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第9回 Unit 4: A Rewarding Pastime or a Waste of Time? (Debate and Further Understanding)
- 第10回 Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (Understanding the Issue and Discussion)
- 第11回 Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (Debate and Further Understanding)
- 第12回 Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (Understanding the Issue and Discussion)
- 第13回 Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (Debate and Further Understanding)
- 第14回 Unit 7: Should High Schoolers Work Part-time? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第15回 Unit 7: Should High Schoolers Work Part-time? (Debate and Further Understanding)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (発表、課題提出等) 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

【持ち物について】
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。
授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。
USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。
【遅刻・欠席について】
20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

コミュニケーション力、批判的思考力

英語表現法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 真理香 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG261M		◎	○	○	
科目名	英語表現法 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Ichizo Ueda他著、センゲージラーニング、2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考URL: TED [https://www.ted.com/#/]
その他、授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (教科書、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第3回 Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (Debate and Further Understanding)
- 第4回 Unit 2: Women's Protection or Gender Equality? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第5回 Unit 2: Women's Protection or Gender Equality? (Debate and Further Understanding)
- 第6回 Unit 3: Eco or Ego? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第7回 Unit 3: Eco or Ego? (Debate and Further Understanding)
- 第8回 Unit 4: A Rewarding Pastime or a Waste of Time? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第9回 Unit 4: A Rewarding Pastime or a Waste of Time? (Debate and Further Understanding)
- 第10回 Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (Understanding the Issue and Discussion)
- 第11回 Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (Debate and Further Understanding)
- 第12回 Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (Understanding the Issue and Discussion)
- 第13回 Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (Debate and Further Understanding)
- 第14回 Unit 7: Should High Schoolers Work Part-time? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第15回 Unit 7: Should High Schoolers Work Part-time? (Debate and Further Understanding)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (発表、課題提出等) 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

【持ち物について】
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。
授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。
USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。
【遅刻・欠席について】
20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

コミュニケーション力、批判的思考力

英語表現法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG261M		◎	○	○	
科目名	英語表現法 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Ichizo Ueda他著、センゲージラーニング、2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考URL: TED [https://www.ted.com/#/]
その他、授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (教科書、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第3回 Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (Debate and Further Understanding)
- 第4回 Unit 2: Women's Protection or Gender Equality? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第5回 Unit 2: Women's Protection or Gender Equality? (Debate and Further Understanding)
- 第6回 Unit 3: Eco or Ego? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第7回 Unit 3: Eco or Ego? (Debate and Further Understanding)
- 第8回 Unit 4: A Rewarding Pastime or a Waste of Time? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第9回 Unit 4: A Rewarding Pastime or a Waste of Time? (Debate and Further Understanding)
- 第10回 Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (Understanding the Issue and Discussion)
- 第11回 Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (Debate and Further Understanding)
- 第12回 Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (Understanding the Issue and Discussion)
- 第13回 Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (Debate and Further Understanding)
- 第14回 Unit 7: Should High Schoolers Work Part-time? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第15回 Unit 7: Should High Schoolers Work Part-time? (Debate and Further Understanding)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (発表、課題提出等) 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

【持ち物について】
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。
授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。
USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。
【遅刻・欠席について】
20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

コミュニケーション力、批判的思考力

英語表現法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG261M		◎	○	○	
科目名	英語表現法 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Ichizo Ueda他著、センゲージラーニング、2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考URL: TED [https://www.ted.com/#/]
その他、授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (教科書、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第3回 Unit 1: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks? (Debate and Further Understanding)
- 第4回 Unit 2: Women's Protection or Gender Equality? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第5回 Unit 2: Women's Protection or Gender Equality? (Debate and Further Understanding)
- 第6回 Unit 3: Eco or Ego? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第7回 Unit 3: Eco or Ego? (Debate and Further Understanding)
- 第8回 Unit 4: A Rewarding Pastime or a Waste of Time? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第9回 Unit 4: A Rewarding Pastime or a Waste of Time? (Debate and Further Understanding)
- 第10回 Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (Understanding the Issue and Discussion)
- 第11回 Unit 5: Democracy: Its Advantages and Disadvantages (Debate and Further Understanding)
- 第12回 Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (Understanding the Issue and Discussion)
- 第13回 Unit 6: Hopes and Fears around Casinos (Debate and Further Understanding)
- 第14回 Unit 7: Should High Schoolers Work Part-time? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第15回 Unit 7: Should High Schoolers Work Part-time? (Debate and Further Understanding)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (発表、課題提出等) 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

【持ち物について】
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。
授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。
USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。
【遅刻・欠席について】
20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

コミュニケーション力、批判的思考力

英語表現法 B 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 真理香 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG262M		◎	○	○	
科目名	英語表現法 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を一層高めることを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Ichizo Ueda他著、センゲージラーニング、2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考URL: TED [https://www.ted.com/#/]
その他、授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (教科書、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (Understanding the Issue and Discussion)
- 第3回 Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (Debate and Further Understanding)
- 第4回 Unit 9: Humans or AI? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第5回 Unit 9: Humans or AI? (Debate and Further Understanding)
- 第6回 Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第7回 Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting? (Debate and Further Understanding)
- 第8回 Unit 11: Big Government or Limited Government? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第9回 Unit 11: Big Government or Limited Government? (Debate and Further Understanding)
- 第10回 Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第11回 Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (Debate and Further Understanding)
- 第12回 Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第13回 Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (Debate and Further Understanding)
- 第14回 Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第15回 Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (Debate and Further Understanding)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (発表、課題提出等) 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

【持ち物について】
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。
授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。
USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。
【遅刻・欠席について】
20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

コミュニケーション力、批判的思考力

英語表現法 B 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 真理香 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG262M		◎	○	○	
科目名	英語表現法 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を一層高めることを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Ichizo Ueda他著、センゲージラーニング、2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考URL: TED [https://www.ted.com/#/]
その他、授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (教科書、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (Understanding the Issue and Discussion)
- 第3回 Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (Debate and Further Understanding)
- 第4回 Unit 9: Humans or AI? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第5回 Unit 9: Humans or AI? (Debate and Further Understanding)
- 第6回 Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第7回 Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting? (Debate and Further Understanding)
- 第8回 Unit 11: Big Government or Limited Government? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第9回 Unit 11: Big Government or Limited Government? (Debate and Further Understanding)
- 第10回 Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第11回 Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (Debate and Further Understanding)
- 第12回 Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第13回 Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (Debate and Further Understanding)
- 第14回 Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第15回 Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (Debate and Further Understanding)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (発表、課題提出等) 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

【持ち物について】
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。
授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。
USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。
【遅刻・欠席について】
20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

コミュニケーション力、批判的思考力

英語表現法 B 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG262M		◎	○	○	
科目名	英語表現法 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を一層高めることを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Ichizo Ueda他著、センゲージラーニング、2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考URL: TED [https://www.ted.com/#/]
その他、授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (教科書、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (Understanding the Issue and Discussion)
- 第3回 Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (Debate and Further Understanding)
- 第4回 Unit 9: Humans or AI? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第5回 Unit 9: Humans or AI? (Debate and Further Understanding)
- 第6回 Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第7回 Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting? (Debate and Further Understanding)
- 第8回 Unit 11: Big Government or Limited Government? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第9回 Unit 11: Big Government or Limited Government? (Debate and Further Understanding)
- 第10回 Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第11回 Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (Debate and Further Understanding)
- 第12回 Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第13回 Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (Debate and Further Understanding)
- 第14回 Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第15回 Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (Debate and Further Understanding)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (発表、課題提出等) 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

【持ち物について】
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。
授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。
USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。
【遅刻・欠席について】
20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

コミュニケーション力、批判的思考力

英語表現法 B 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG262M		◎	○	○	
科目名	英語表現法 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を一層高めることを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Ichizo Ueda他著、センゲージラーニング、2018年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考URL: TED [https://www.ted.com/#/]
その他、授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (教科書、授業内容、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (Understanding the Issue and Discussion)
- 第3回 Unit 8: The Pros and Cons of Globalization (Debate and Further Understanding)
- 第4回 Unit 9: Humans or AI? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第5回 Unit 9: Humans or AI? (Debate and Further Understanding)
- 第6回 Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第7回 Unit 10: A Valuable Experience or a Disadvantage in Job Hunting? (Debate and Further Understanding)
- 第8回 Unit 11: Big Government or Limited Government? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第9回 Unit 11: Big Government or Limited Government? (Debate and Further Understanding)
- 第10回 Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第11回 Unit 12: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? (Debate and Further Understanding)
- 第12回 Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第13回 Unit 13: Severe Punishment or Rehabilitation? (Debate and Further Understanding)
- 第14回 Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (Understanding the Issue and Discussion)
- 第15回 Unit 14: Open Borders or Closed Societies? (Debate and Further Understanding)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (発表、課題提出等) 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

【持ち物について】
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。電子辞書の場合、授業中は辞書機能以外は使用しない。
授業中の携帯電話やスマートフォンの使用は禁止。板書の撮影も不可。やむを得ない事情で使用する場合は担当教員の許可を得ること。従わない場合は成績評価に影響する。
USBメモリスティックやノートPCが必要な場合はその都度指示する。
【遅刻・欠席について】
20分を超える遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。5回以上欠席した場合は単位の取得不可。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

コミュニケーション力、批判的思考力

English Practicum 2 A 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 2 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speech-making and discussion. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson, 2013.
by Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Chapter 1: Self introduction
- Week 3 Picture story (chapter 1)
- Week 4 A meaningful object (chapter 2)
- Week 5 Peer review, start the speeches, discussion of contents
- Week 6 Finish the speeches, feedback, points to improve, points well done
- Week 7 My Worst Fear (chapter 3)
- Week 8 Peer review, start the speeches, discussion to follow
- Week 9 Finish the speeches, general feedback
- Week 10 An embarrassing situation(chapter 4)
- Week 12 Peer review, start the speeches, discussion
- Week 13 Finish speeches. Start problem-causes-solution speeches (chapter 5)
- Week 14 Peer review, start speeches.
- Week 15 Finish speeches, feedback, exam explanation.

成績評価の方法 /Assessment Method

20% Class Work, 60% Speech Presentations, 20% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Follow the instructions laid out in the textbook, and be ready to give your speech when it is your turn.
Review corrected speeches for understanding and clarity.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to work for this credit.

キーワード /Keywords

English Practicum 2 A 【昼】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 2 - 2
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 2 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speech-making and discussion. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson, 2013.
by Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Chapter 1: Self introduction
- Week 3 Picture story (chapter 1)
- Week 4 A meaningful object (chapter 2)
- Week 5 Peer review, start the speeches, discussion of contents
- Week 6 Finish the speeches, feedback, points to improve, points well done
- Week 7 My Worst Fear (chapter 3)
- Week 8 Peer review, start the speeches, discussion to follow
- Week 9 Finish the speeches, general feedback
- Week 10 An embarrassing situation(chapter 4)
- Week 12 Peer review, start the speeches, discussion
- Week 13 Finish speeches. Start problem-causes-solution speeches (chapter 5)
- Week 14 Peer review, start speeches.
- Week 15 Finish speeches, feedback, exam explanation.

成績評価の方法 /Assessment Method

20% Class Work, 60% Speech Presentations, 20% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Follow the instructions laid out in the textbook, and be ready to give your speech when it is your turn.
Review corrected speeches for understanding and clarity.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to work for this credit.

キーワード /Keywords

English Practicum 2 A 【昼】

担当者名
/Instructor

デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 2 - 3
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 2 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speech-making and discussion. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson, 2013.
by Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Chapter 1: Self introduction
- Week 3 Picture story (chapter 1)
- Week 4 A meaningful object (chapter 2)
- Week 5 Peer review, start the speeches, discussion of contents
- Week 6 Finish the speeches, feedback, points to improve, points well done
- Week 7 My Worst Fear (chapter 3)
- Week 8 Peer review, start the speeches, discussion to follow
- Week 9 Finish the speeches, general feedback
- Week 10 An embarrassing situation(chapter 4)
- Week 12 Peer review, start the speeches, discussion
- Week 13 Finish speeches. Start problem-causes-solution speeches (chapter 5)
- Week 14 Peer review, start speeches.
- Week 15 Finish speeches, feedback, exam explanation.

成績評価の方法 /Assessment Method

20% Class Work, 60% Speech Presentations, 20% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Follow the instructions laid out in the textbook, and be ready to give your speech when it is your turn.
Review corrected speeches for understanding and clarity.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to work for this credit.

キーワード /Keywords

English Practicum 2 A 【昼】

担当者名 /Instructor デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 2 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speech-making and discussion. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson, 2013.
by Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Chapter 1: Self introduction
- Week 3 Picture story (chapter 1)
- Week 4 A meaningful object (chapter 2)
- Week 5 Peer review, start the speeches, discussion of contents
- Week 6 Finish the speeches, feedback, points to improve, points well done
- Week 7 My Worst Fear (chapter 3)
- Week 8 Peer review, start the speeches, discussion to follow
- Week 9 Finish the speeches, general feedback
- Week 10 An embarrassing situation(chapter 4)
- Week 12 Peer review, start the speeches, discussion
- Week 13 Finish speeches. Start problem-causes-solution speeches (chapter 5)
- Week 14 Peer review, start speeches.
- Week 15 Finish speeches, feedback, exam explanation.

成績評価の方法 /Assessment Method

20% Class Work, 60% Speech Presentations, 20% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Follow the instructions laid out in the textbook, and be ready to give your speech when it is your turn.
Review corrected speeches for understanding and clarity.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to work for this credit.

キーワード /Keywords

English Practicum 2 B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 2 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speech-making and discussion. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson 2013.
by Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction, discuss the semester plan and explain what the course demands
- Week 2 Persuasive Speaking- role play (chapter 7)
- Week 3 Cultural conflict (chapter 7)
- Week 4 Peer review, start speeches, discussion
- Week 5 Finish speeches, feedback, points to improve and remember, points that were well done
- Week 6 Persuasive speaking; Convince me! (chapter 8) The Monroe Method
- Week 7 Writing and peer review of the Monroe Method (careful check)
- Week 8 Start speeches, discussion
- Week 9 Finish speeches, feedback
- Week 10 Christmas Quiz
- Week 11 Last speech, a fable and it teaches us (chapter 10).
- Week 12 Peer review, start speeches
- Week 13 Finishes speeches
- Week 14 Feedback from the last speech and points to improve and keep in mind
- Week 15 Exam explanation

成績評価の方法 /Assessment Method

80% Class Work and 20% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Follow the instructions laid out in the textbook, and be ready to give your speech when it is your turn.
Review corrected speeches given back for self improvement.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to work for this credit.

キーワード /Keywords

English Practicum 2 B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 2 B		<small>※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speech-making and discussion. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson 2013.
by Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction, discuss the semester plan and explain what the course demands
- Week 2 Persuasive Speaking- role play (chapter 7)
- Week 3 Cultural conflict (chapter 7)
- Week 4 Peer review, start speeches, discussion
- Week 5 Finish speeches, feedback, points to improve and remember, points that were well done
- Week 6 Persuasive speaking; Convince me! (chapter 8) The Monroe Method
- Week 7 Writing and peer review of the Monroe Method (careful check)
- Week 8 Start speeches, discussion
- Week 9 Finish speeches, feedback
- Week 10 Christmas Quiz
- Week 11 Last speech, a fable and it teaches us (chapter 10).
- Week 12 Peer review, start speeches
- Week 13 Finishes speeches
- Week 14 Feedback from the last speech and points to improve and keep in mind
- Week 15 Exam explanation

成績評価の方法 /Assessment Method

80% Class Work and 20% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Follow the instructions laid out in the textbook, and be ready to give your speech when it is your turn.
Review corrected speeches given back for self improvement.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to work for this credit.

キーワード /Keywords

English Practicum 2 B 【昼】

担当者名
/Instructor

デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 2 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speech-making and discussion. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson 2013.
by Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction, discuss the semester plan and explain what the course demands
- Week 2 Persuasive Speaking- role play (chapter 7)
- Week 3 Cultural conflict (chapter 7)
- Week 4 Peer review, start speeches, discussion
- Week 5 Finish speeches, feedback, points to improve and remember, points that were well done
- Week 6 Persuasive speaking; Convince me! (chapter 8) The Monroe Method
- Week 7 Writing and peer review of the Monroe Method (careful check)
- Week 8 Start speeches, discussion
- Week 9 Finish speeches, feedback
- Week 10 Christmas Quiz
- Week 11 Last speech, a fable and it teaches us (chapter 10).
- Week 12 Peer review, start speeches
- Week 13 Finishes speeches
- Week 14 Feedback from the last speech and points to improve and keep in mind
- Week 15 Exam explanation

成績評価の方法 /Assessment Method

80% Class Work and 20% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Follow the instructions laid out in the textbook, and be ready to give your speech when it is your turn.
Review corrected speeches given back for self improvement.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to work for this credit.

キーワード /Keywords

English Practicum 2 B 【昼】

担当者名
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
										○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211M		◎	○	○	
科目名	English Practicum 2 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speech-making and discussion. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson 2013.
by Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction, discuss the semester plan and explain what the course demands
- Week 2 Persuasive Speaking- role play (chapter 7)
- Week 3 Cultural conflict (chapter 7)
- Week 4 Peer review, start speeches, discussion
- Week 5 Finish speeches, feedback, points to improve and remember, points that were well done
- Week 6 Persuasive speaking; Convince me! (chapter 8) The Monroe Method
- Week 7 Writing and peer review of the Monroe Method (careful check)
- Week 8 Start speeches, discussion
- Week 9 Finish speeches, feedback
- Week 10 Christmas Quiz
- Week 11 Last speech, a fable and it teaches us (chapter 10).
- Week 12 Peer review, start speeches
- Week 13 Finishes speeches
- Week 14 Feedback from the last speech and points to improve and keep in mind
- Week 15 Exam explanation

成績評価の方法 /Assessment Method

80% Class Work and 20% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Follow the instructions laid out in the textbook, and be ready to give your speech when it is your turn.
Review corrected speeches given back for self improvement.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to work for this credit.

キーワード /Keywords

英語学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN130M	◎	○			
科目名	英語学概論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

英語言語学の主要な研究分野に関する基本的事項を学習する。専門用語の解説を中心に授業を進め、テキストの各章の内容を復習するための理解度チェックを行い、インターネットの利用とエクササイズで内容の理解を深める。
音声の仕組みや意味や形態といった言語的な内容のほか、社会言語学では国際共通語としての英語の実態について学習し、歴史言語学では英語の歴史の変遷を扱う。

教科書 /Textbooks

First Steps in English Linguistics: 英語言語学の第一歩 影山太郎、ブレント・デ・シェン、日比谷潤子、ドナ・タツキ著、くろしお出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 第1回 Introduction: English Linguistics (英語学) 授業の進め方、自宅学習の方法について説明する
 - 第2回 The History of EnglishI (歴史言語学I) 【Old English】 【Middle English】 【Modern English】
 - 第3回 The History of EnglishII (歴史言語学II) 【Proto-Indo-European】 【Great Vowel Shift】
 - 第4回 MorphologyI (形態論I) 【morpheme】 【Compound Stress Rule】 【Phrasal Stress Rule】
 - 第5回 MorphologyII (形態論II) 【derivation】 【conversion】 【inflection】 【clipping】 【blending】
 - 第6回 SemanticsI (意味論I) 【conceptual meaning】 【associative meaning】 【entailment】 【categorization】
 - 第7回 SemanticsII (意味論II) 【hyponymy】 【meronymy】 【synonymy】 【antonymy】 【polysemy】
 - 第8回 SyntaxI (統語論I) 【movement】 【deletion】 【pro-form】 【coordination】
 - 第9回 SyntaxII (統語論II) 【labeled bracketing】 【tree diagram】 【phrase structure】
 - 第10回 Phonetics and PhonologyI (音声学・音韻論I) 【pitch】 【intonation】 【accent】 【syllable】
 - 第11回 Phonetics and PhonologyII (音声学・音韻論II) 【organs of speech】 【vowels】 【consonants】
 - 第12回 SociolinguisticsI (社会言語学I) 【world Englishes】 【regional dialects】
 - 第13回 SociolinguisticsII (社会言語学II) 【American English】 【British English】 【Canadian English】
 - 第14回 How Language Has Been Studied (言語研究)
 - 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(提出物を含む) 40%、期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指定された範囲の予習を行う
事後学習：学習内容の復習を行い、重要な専門用語を中心にノートを作成する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係概論 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
柳 学洙 / 国際関係学科, 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科
阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 渡邊 真理香 / 国際関係学科
中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL100M	◎	○			
科目名	国際関係概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

新入生が中等教育までに習得した知識を大学の専門教育に接合するため、双方をにらんだテーマ・素材を用いながら、学生自身に考える機会を提供することを目的とする。多様な地域を対象に、国民国家を中心とする国際社会の形成・変容や人々が生活する社会・環境の変化を踏まえて、現在の世界が抱える諸問題を検討する。

教科書 /Textbooks

用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- 情報収集の基礎と世界への関心形成(1)【新聞の活用】【図書館ツアー】【SDGs】
- 近代国際社会の形成【ウェストファリア体制】【封建制】【植民地建設】
- 情報収集の基礎と世界への関心形成(2)【新聞の活用】【図書館ツアー】【SDGs】
- 国民国家とナショナリズム【国民】【革命】
- 社会主義・共産主義【マルクス主義】【一国社会主義】
- 人の国際移動【移民】【同化】【国民統合】
- 植民地化と脱植民地化【国民国家】【帝国主義】【権威主義体制】
- 文学作品における国際関係【文化的アイデンティティ】
- 東アジアのナショナリズム【歴史克服】【和解】
- 国際関係に対する3つの見方【リアリズム】【リベラリズム】【コンストラクティヴィズム】
- 戦争の違法化と集団安全保障【国際連盟】【国際連合】【集団自衛権】
- 地球環境問題【持続可能な開発】【国際社会の取組み】【外部性の内部化】
- 新自由主義と貧困・格差【ワシントン・コンセンサス】【絶対的貧困】【相対的貧困】
- グローバリゼーションと地域主義【グローバリズム】【FTA】

成績評価の方法 /Assessment Method

小レポート(約80%)、期末レポート(約20%)
期末レポートの提出は必須である。再提出を求める場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従うこと。授業終了後には復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業の計画と進め方は変更の可能性がある。授業でのアナウンスと掲示に注意すること。
授業中の私語は厳禁とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

質問などは授業中にするのが望ましいが、復習時に出てきた疑問などについてはできるだけオフィス・アワーを利用すること。

キーワード /Keywords

国際関係の争点【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL101M	◎	○			
科目名	国際関係の争点		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を考察します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的な文脈からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。毎回、レジユメを配布します。また、テーマに関係する文献をその都度、提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

滝田賢治・大芝亮・都留康子『国際関係学-地球社会を理解するために』（第2版）有信堂高文社、2017年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「平和学の基礎」【積極的平和】【消極的平和】
- 第2回 「変化する国際政治経済秩序」【新興国】【BRICS】【G20】
- 第3回 「アジアにおける安全保障」【中国の台頭】【日本の防衛力強化】
- 第4回 「安全保障のジレンマ」【囚人のジレンマ】【チキン・ゲーム】
- 第5回 「安全保障観の変容」【人間の安全保障】【国家安全保障】
- 第6回 「保護する責任」【人道的介入】【ICISS】
- 第7回 「核兵器を巡る議論と展開」【NPT体制】【核兵器禁止条約】
- 第8回 「エネルギー」【原子力】【再生可能エネルギー】
- 第9回 「環境」【地球温暖化】
- 第10回 「食料」【遺伝子組み換え作物】
- 第11回 「移民、難民問題」【社会包摂】【多文化主義】【同化政策】
- 第12回 「中東、イスラーム」【イスラモフォビア】【スンニ派とシーア派】
- 第13回 「アフリカ」【ガバナンス】【汚職・腐敗】【北京コンセンサス】
- 第14回 「ジェンダー」【ジェンダー・ギャップ・インデックス】
- 第15回 「エシカル消費」【フェアトレード】【ESG投資】

※順番が入れ替わったり、国際情勢によって緊急的にホットな 이슈を取り上げる可能性があります。また、外部講師を招いての特別講演会が行われる可能性もあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物・・・30% 学期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布するレジユメを前週の金曜日を目処にMoodleにアップします。受講生は事前に目を通しておくように。事後学習として課題レポートを課します(1回)。

履修上の注意 /Remarks

授業で扱うテーマは限定されています。国際関係について関心を深めるためには、新聞を必ず読みましょう。また、授業で紹介する新書などを数多く読むようにして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Moodleにレジユメをアップするので、プリントの配布は行いません。黒板を使用せず、アップしたワードのファイルに書き込むスタイルを取ります。そのため、大教室の後方では見えづらい可能性があります。なるべく前方に着席してください。できればダウンロードしたワードファイルを印刷してノートの左側に貼り付け、右側には授業中に補足した説明をメモするなど、独自にノートを作成してください。授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

キーワード /Keywords

国際関係史 【昼】

担当者名 /Instructor 中野・金

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL200M	◎	○			
科目名	国際関係史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構想・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

第1回～第7回、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』（慶応義塾大学出版会 2013）
第8回～第15回、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』（有斐閣 2014）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス、教科書の「はじめに」
- 2回 朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【征韓論】【朝鮮問題】
- 3回 日清・日露戦争と朝鮮(韓国) 【大韓帝国】【日英同盟】【日露交渉】
- 4回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【統監政治】【韓国併合】
- 5回 日本の朝鮮統治と国際関係 【武断政治】【三・一運動】【文化政治】
- 6回 国際情勢の緊迫と朝鮮統治 【満州事変】【大陸兵站基地】【日中戦争】
- 7回 日本の敗戦と朝鮮の南北分断 【皇民化政策】【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 8回 占領下日本の外交 【占領政策】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 9回 日米同盟の形成 【中ソ同盟】【朝鮮戦争】【サンフランシスコ講和条約】【日米安全保障条約】
- 10回 岸信介政権の外交 【1955年の政治体制】【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 11回 池田勇人政権の外交 【高度経済成長】
- 12回 佐藤栄作政権の外交 【沖縄復帰】【非核三原則】【核密約】
- 13回 田中角栄の時代と中曽根康弘の外交 【石油危機】
- 14回 冷戦の終結と21世紀の世界 【軍縮】【湾岸戦争】【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本(1回分の量はA4用紙3～4枚程度) 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、教科書を用いて、関連事項を教科書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

二人の先生の担当授業です(1～7回金鳳珍、8～15回中野博文)。
予授業開始前までに予め教科書で授業の該当箇所を読み、授業終了後には教科書で復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係 歴史 東アジア

国際関係の理論【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL201M	◎	○			
科目名	国際関係の理論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、国際関係の土台をなす「国家」の位置づけ・意義の変容であり、例えば、国際機関や多国籍企業、国際NGOといった国家以外のアクターの影響力が増大したことや、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったこと、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したことなどに表れています。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。
- 吉川直人、野口和彦 [編] 『国際関係理論』 [第2版] (勁草書房、2015年)。
- 原彬久 [編] 『国際関係学講義』 [第4版] (有斐閣、2011年)。
- 滝田賢治、大芝亮、都留康子 [編] 『国際関係学』 [第2版] (有信堂、2017年)。

その他の文献については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1. 国際関係学とは何か【理想主義、現実主義】
2. 近代国家の誕生と特質【主権、国民国家】
3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
4. リアリズム【アナーキー、パワー・ポリティクス、勢力均衡】
5. ネオリアリズム【覇権安定、二極システム】
6. 安全保障体制(1)：冷戦の始まりと終焉【安全保障のジレンマ、CTBT】
7. リベラリズム【相互依存、機能主義】
8. 前半の総括
9. ネオリベラリズム【国際レジーム、制度】
10. コンストラクティヴィズム【アイデア、間主観性】
11. 国際貿易体制の成立と変容【GATT、WTO、FTA】
12. 国際通貨体制の成立と変容【ブレトンウッズ体制、IMF】
13. 安全保障体制(2)：冷戦の終結と人道的介入【強制措置、人道的介入】
14. 人権の国際問題化と多様なアクター【人権、企業の社会的責任】
15. 講義のまとめ【グローバル化と国際社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：20% ミニレポート：20% 期末試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に参考文献を読んでおくこと。
授業後は必ず復習すること。

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE111M	◎	○			
科目名	中国研究概論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業は、主に社会科学の観点から中国を研究するための基礎知識を養うことを目的とする。共産党政権成立から70年を迎えた中国は、経済・政治・軍事の面で世界有数の大国となったが、その未来は決して楽観できない状況にある。日本にとって重要な隣国であり、国際社会へも大きな影響を及ぼす中国を、どのように理解すればよいのか。そのような問題意識をもって、共産党一党独裁下の政治経済体制への理解を深めるとともに、経済格差や少数民族問題など多くの課題を抱える中国の現状について解説する。なお、授業では日中関係や台湾の問題についても取り上げる。

教科書 /Textbooks

初回の授業で知らせる。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

興梠一郎『中国激流 13億のゆくえ』岩波新書、2005年(○)。
下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年(○)。
毛里和子『日中関係 戦後から新時代へ』岩波新書、2006年(○)。
遊川和郎他著『中国との距離に悩む周縁』亜細亜大学アジア研究所、2016年(○)。
吉岡桂子『愛国経済 中国の全球化』朝日新聞出版、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～地域研究としての中国研究、授業の進め方について
 - 2回 中国研究の基礎知識と概論
 - 3回 共産党一党支配体制【経済体制】
 - 4回 共産党一党支配体制II【政治体制】
 - 5回 中央と地方
 - 6回 情報統制
 - 7回 経済発展と経済格差
 - 8回 汚職腐敗、人権、民主
 - 9回 民族
 - 10回 一国両制
 - 11回 大国になった中国と国際関係
 - 12回 日中関係
 - 13回 日台関係
 - 14回 中台関係
 - 15回 まとめ
- (順番が入れ替わることがあります)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと(図書館のDVDなどを活用してください)。
新聞(紙面)を読む習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1. 中国の変化は大変激しいので、日々、新聞の紙面で何が起きているのが確認することが重要です。授業では、その日の講義内容と関連する最新ニュースを取り上げることがあります。
2. 本学の図書館には、読みやすい一般書から研究書まで、中国・台湾・香港についての理解を助ける書籍がたくさん所蔵されています。授業で関心を持ったら、そのトピックについての本を読んでみてください。授業がもっと面白く感じられるはずです。

キーワード /Keywords

朝鮮半島研究概論【昼】

担当者名 /Instructor 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE112M	◎	○			
科目名	朝鮮半島研究概論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

いま不幸にも朝鮮半島は国土が南北に分断されているが、その社会の固有の文化や政治は長きにわたって、日本社会にも様々な影響を及ぼしてきた。この講義では、日本との関連性を念頭に置きつつ、近代以来の朝鮮半島の歩みを概観することで、この最も親しい隣人と真の和解を遂げるための、基礎的な知識を習得する。なお、近代以降、朝鮮半島は大国の利害が錯綜してきた国際政治の中心舞台であったがゆえに、その経験を学ぶことで、東北アジア国際政治に対する理解を深める。

教科書 /Textbooks

- 趙景達 『近代朝鮮と日本』（岩波新書）（東京：岩波書店、2012年）、846円（税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 徐仲錫 著・文京洙 訳 『韓国現代史60年』（東京：明石書店、2008年）、2400円（税別）。
 - ブルース・カミングス 著、横田安司・小林知子 訳 『現代朝鮮の歴史—世界のなかの朝鮮』（東京：明石書店、2003年）。
- その他、授業中に適宜紹介する。なお、授業中に配布する資料・レジュメを参考にすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：朝鮮半島をどうみるか
 - 第2回 近代日本と朝鮮①：征韓論、日朝修好条規、壬午軍乱
 - 第3回 近代日本と朝鮮②：日清戦争、甲申政変、大韓帝国
 - 第4回 近代日本と朝鮮③：日露戦争、日韓併合
 - 第5回 日本の植民地支配①：近代化論vs.収奪論など
 - 第6回 日本の植民地支配②：反日運動、皇民化政策など
 - 第7回 日本の植民地支配③：日本の戦争と朝鮮半島
 - 第8回 解放と独立、南北分断
 - 第9回 朝鮮戦争
 - 第10回 李承晩政権の歩みと北朝鮮の社会主義建設
 - 第11回 朴正熙政権の歩みと金日成の選択
 - 第12回 日韓国交正常化交渉における争点、日朝関係の展開
 - 第13回 デタント、産業化競争と民主化への道程
 - 第14回 南北関係と東北アジア国際政治
 - 第15回 まとめ：2つの朝鮮問題
- (注) 授業の進捗度などによって変更の可能性あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

コメントカード・・・50%、読書感想文・・・20%、レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストなど指定された資料をきちんと読んだうえで授業に臨むこと（必要な学習時間の目安は、予習60分）。

履修上の注意 /Remarks

授業終了後には復習を行い、必ずコメントカードを提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い講義になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

近代、近代化、植民地、解放、分断、日韓関係、民主化、産業化、朝鮮半島問題、北朝鮮

東南アジア研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE113M	◎	○			
科目名	東南アジア研究概論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

この授業では、東南アジアという地域の特徴をとらえるとともに、自らを東南アジアという地域に位置づけている11カ国のうち主な国を取り上げて、各国の特徴をとらえることを目的とする。東南アジアに関する時事問題の読み解きや、東南アジアに関する専門書を読みこなすうえで必要となる基本的な地理や歴史、各国の現代政治史と今日的な課題などを中心に説明していく。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○弘末雅士『東南アジアの港市世界』岩波書店、2004年。
○清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門 第2版』ミネルヴァ書房、2018年。
このほかにも講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「東南アジア」という地域概念の展開&地理の把握
- 3回 多様な東南アジア世界：自然環境、言語、宗教
- 4回 東南アジアの近現代史
- 5回 島嶼部諸国のプロフィール(1) インドネシア
- 6回 島嶼部諸国のプロフィール(2) マレーシア
- 7回 島嶼部諸国のプロフィール(3) シンガポール
- 8回 島嶼部諸国のプロフィール(4) フィリピン
- 9回 東南アジアと日本(1) 第2次世界大戦前まで
- 10回 大陸部諸国のプロフィール(1) ベトナム
- 11回 大陸部諸国のプロフィール(2) カンボジア
- 12回 大陸部諸国のプロフィール(3) タイ
- 13回 大陸部諸国のプロフィール(4) ミャンマー
- 14回 東南アジアと日本(2) 第2次世界大戦以降
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 40% 期末試験 ... 60%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試にはなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。授業終了後は授業の内容を復習するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
柳 学洙 / 国際関係学科, 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM110M			◎	○	◎
科目名	入門演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

入門演習は、皆さんが大学で今後学習を進める上で最低限必要となる技法の習得を目指すために行なう演習形式の科目です。いわば大学での勉学に関するイロハを身につけるための演習です。
授業では、「調べること」、「書くこと」、「レジュメを作ること」と「プレゼンテーションを行なうこと」に重点をおきます。
なお、外部講師による授業を実施する場合は、下記の授業計画・内容の一部が修正されます。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業では、課題により、各自あるいはグループで作業を行ないます。以下では標準的な授業計画を例示していますが、実際の授業では、担当教員によって内容の順番が異なることがあります。

- 第1回
ガイダンス
- 第2 - 3回
文献をどのように検索して入手するのか
- 第4 - 5回
資料をどのように読むのか
- 第6回
盗用とは何か、それをどのように防ぐのか
- 第7 - 11回
文章、レポートおよび小論文をどのように作成するのか
- 第12 - 13回
プレゼンテーションに向けたレジュメをどのように作成するのか
- 第14 - 15回
プレゼンテーションをどのように行うのか

成績評価の方法 /Assessment Method

参加状況、課題への取り組み状況にしたがって評価します (100%)。
ただし、最終レポートを提出していない場合は、他の部分の成績にかかわらず、不可 (D) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業で、次回の授業予定や課題を指示しますので、注意してください。また、宿題や授業内容の振り返りを忘れないようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

入門演習は必修科目です。必ず「指定されたクラス」で履修してください。
演習形式の授業で主体になるのは履修生です。皆さんの積極的な参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科, 大平 剛 / 国際関係学科
北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM210M		○	◎	◎	
科目名	基礎演習		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

基礎演習は、入門演習で獲得した知識・力を伸ばすとともに、3年次の専門演習の学習に必要な技法の習得を目指す科目です。学術的な文献の読解に挑戦し、「調べる」、「書く」、「レジュメを作る」、「プレゼンテーションを行う」力を養います。
なお、外部講師による授業を実施する場合は、下記の授業計画・内容の一部が修正されます。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業では、課題により、各自あるいはグループで作業を行ないます。以下では標準的な授業計画を例示していますが、実際の授業では、担当教員によって内容の順番が異なることがあります。

- 第1回 ガイダンス
- 第2～5回 文献をどのように読むのか1
- 第6～7回 プロジェクトワーク1
- 第8～10回 文献をどのように読むのか2
- 第11～14回 プロジェクトワーク2 (このうち1回は合同プレゼン大会)
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加状況、課題への取り組み状況にしたがって評価します(100%)。
ただし、最終レポートを提出していない場合は、他の部分の成績にかかわらず、不可(D)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業で、次回の授業予定や課題を指示します。その指示に従って事前学習を行ってください。
また、授業後には、教員の指示に従って、その日の授業内容を振り返って復習してください。

履修上の注意 /Remarks

基礎演習は必修科目です。必ず「指定されたクラス」で履修して下さい。
演習形式の授業で主体になるのは履修生です。皆さんの積極的な参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特定課題演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM184M			○	○	◎
科目名	特定課題演習 A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

英語による模擬国連 (Model United Nations) を通じて、国際連合や国際会議の仕組みや方法の理解を促す。また、国際的な議論の場で意思決定過程を体験することにより、国際問題に対する理解の深化、および英語運用力とコミュニケーション力 (パブリック・スピーキング、二者間交渉、多数者間交渉) の向上を目指す。受講者には、日本大学英語模擬国連 (JUEMUN) に参加し、教室の枠を越えて他大学の学生と英語で議論する機会を持つことが推奨される。

教科書 /Textbooks

○授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○図書館本館 2F 英語模擬国連 (齊藤) のコーナーを参照

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回：ガイダンス (授業計画、模擬国連の概要、JUEMUNについて)
- 第 2 回：国連の歴史と仕組み、国連憲章、持続可能な開発目標 (SDGs)
- 第 3 回：模擬する会議に関するリサーチ --- 国際連合開発計画 (UNDP)
- 第 4 回：担当国に関するリサーチ
- 第 5 回：模擬国連議題に関するリサーチ --- 特に、SDG9、SDG12、SDG13
- 第 6 回：ポジション・ペーパー (担当国方針説明書) 案の作成
- 第 7 回：ポジション・ペーパー案の加筆・修正
- 第 8 回：ポジション・ペーパーの完成
- 第 9 回：ワーキング・ペーパー (1) --- 準備
- 第 10 回：ワーキング・ペーパー (2) --- プレゼンテーション
- 第 11 回：模擬国連議事進行手順の確認、公式スピーチ原稿作成
- 第 12 回：会議シミュレーション (1) --- 公式スピーチ
- 第 13 回：会議シミュレーション (2) --- 二者間交渉、多数者間交渉
- 第 14 回：会議シミュレーション (3) --- 決議案と修正案の作成
- 第 15 回：会議シミュレーション (4) --- 採決、振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (意見交換への参加度、小テスト、発表、課題提出など) ... 70%
 授業内 (およびJUEMUN) における模擬国連活動 (会議シミュレーション) への貢献度 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること
 また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

JUEMUNの詳細は第一回目の授業で説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語による議論に積極的に参加していただきたい。

キーワード /Keywords

国際連合、持続可能な開発目標 (SDGs)、国際交渉力、グローバル人材、多様性 (diversity)

特定課題演習 B 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM185M			○	○	◎
科目名	特定課題演習 B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本演習はJICA九州と連携し、「異文化理解」を目的として実施されます。JICA専門家やJICA海外協力隊OB/OGを講師としてお招きし、地球的規模の課題について学習するとともに、文化が異なる人たちがどのように共生していくのかについて考えます。JICA九州研修員との交流会を間に挟み、研修員の方々の日本滞在中の研修内容について事前に学習するだけでなく、彼らの母国の政治・経済・文化・社会・歴史について学習します。これらの学習をもとに、交流会ではいくつかの班に分かれて研修員の方々と交流します。また、交流会では日本文化や日本社会についてプレゼンテーションを行います。

※授業内で使用する言語は英語を主、日本語を従とします。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 研修員の研修内容に関する学習
 - 第3回 研修員の母国についての学習(1) 経済
 - 第4回 研修員の母国についての学習(2) 政治
 - 第5回 研修員の母国についての学習(3) 文化
 - 第6回 研修員の母国についての学習(4) 社会
 - 第7回 研修員の母国についての学習(5) 歴史
 - 第8回 青年海外協力隊についての講義
 - 第9回 青年海外協力隊経験者による講演会
 - 第10回 異文化理解講義(1) ジェンダー
 - 第11回 異文化理解講義(2) イスラム
 - 第12回 日本文化を紹介するプレゼンテーションの準備(1)
 - 第13回 日本文化を紹介するプレゼンテーションの準備(2)
 - 第14回 交流会の実施
 - 第15回 交流会の振り返り
- (※交流会の日程次第で、上記の授業計画は前後を入れ替えるなどの変更がありえます。)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習形式であることから、グループ・ワークでの貢献度(60%)やプレゼンテーション(40%)で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、自身が調べた内容について報告する際、事前によりしっかりと英語で発表できるように準備しておいてください。事後学習としては、グループでその日学んだ内容を確認しあい、次の発表に備えてください。

特定課題演習 B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

【重要】この演習はJICA九州と外国語学部との間で結ばれた協定に基づき水曜日の2限に行われます。授業で使用する言語は英語を主、日本語を従とします。海外から研修目的で来日するJICA研修員との交流会は英語で行われるため、ある程度の英語力が求められます。履修登録は通常通り4月の時点で行って頂きますが、受講希望者が多数の場合は選抜を行い、20名程度に絞り込みます。受講者の決定は9月中旬に掲示しますので、選から漏れた方は必ず2学期の履修登録期間中に自分で登録を取り消して下さい。選抜方法ならびに受講者の決定は掲示を行いますので、必ず掲示板で確認して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

【重要】英語を人前で話すのには抵抗があるかも知れませんが、大事なことは「意思疎通」ができるかどうかです。文法的なことを気にせず、相手に伝えることを意識してください。

キーワード /Keywords

特定課題演習 C 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM186M			○	○	◎
科目名	特定課題演習 C		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

本科目は、学内で公募する海外インターンシップに参加する学生を対象に開講されます。学生自らが積極的に学外における活動に身を置き、主体的に行動し問題解決能力を身に付けることを目的としています。なお、この科目は集中講義枠で開講され、2学期に成績が付与されます。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

夏期休業期間中に行われる学内公募の海外インターンシップに参加し、80時間以上の就業体験が必要です。そのインターンシップを挟む形で、学内において事前研修と事後学習が行われます。1学期に行われる事前研修においては、海外インターンシップに参加するにあたって、1) 海外における安全管理・危機管理、2) インターンシップに臨むにあたっての心構え、について講義を行います。また、履修登録者には、海外インターンシップによって、どのような力を身に付けてきたいかをプレゼンテーションで発表してもらいます。事後研修では、海外インターンシップの内容だけでなく、参加して身につけた能力についてプレゼンテーションを行っていただきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

この科目での評価はN(認定)とし、2単位が付与されます。単位を得るためには、上記の事前事後研修への参加およびそこでのプレゼンテーション、ならびに履修登録者自らがつけた「日誌」「報告書」、さらには研修受入機関が作成した「研修終了報告書」の提出が必要です。これらのうちの一つでも欠けた場合には単位は付与されません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に自分が訪問する国の治安状況等について、外務省のサイト等を参照して学習しておいてください。事後学習としては、インターンシップ先で身につけた知識や能力を帰国後の日常生活において確認してください。

履修上の注意 /Remarks

履修登録は他の科目と同様に、4月の時点で行ってもらいます。事前研修の日程は掲示で通知します。また、Moodleでのメッセージでも知らせるので、見逃しがないように注意してください。履修にあたっては、特定課題演習C取扱要領を熟読してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

海外インターンシップ

中国近現代史Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS120M	◎		○		○
科目名	中国近現代史Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。		

授業の概要 /Course Description

「19世紀後半～20世紀初頭の中国」
アヘン戦争による五港開港から辛亥革命までの政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。

教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）
※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代中国への視座と中国近現代史を学ぶ意味
- 2回 大清帝国素描(1)：統治理念と版図の形成
- 3回 大清帝国素描(2)：対外観念と国際関係
- 4回 アヘン貿易とアヘン戦争
- 5回 太平天国
- 6回 洋務運動
- 7回 辺境の喪失
- 8回 朝鮮問題と日清戦争(1)：日清の朝鮮支配争い
- 9回 朝鮮問題と日清戦争(2)：下関条約と東アジア国際関係の変動
- 10回 変法自強運動
- 11回 義和団事件
- 12回 光緒新政
- 13回 清朝打倒の革命運動
- 14回 辛亥革命と清朝の滅亡(1)：鉄道国有化問題
- 15回 辛亥革命と清朝の滅亡(2)：武昌起義と清朝の滅亡

成績評価の方法 /Assessment Method

出席回数が規定内であれば、下記のように評価する。出席回数が規定に照らして不足する場合は評価対象から除外する。
試験...80% 小テスト等...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストとレジュメに目を通して出席すること。授業後に当日学習したテキストとレジュメを学習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

中国近現代史Ⅰ【昼】

キーワード /Keywords

19世紀後半～20世紀初頭、大清帝国、アヘン戦争、太平天国、洋務運動、辺境喪失、変法自強運動、義和団事件、光緒新政、反清革命運動、辛亥革命

中国近現代史Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS121M	◎		○		○
科目名	中国近現代史Ⅱ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

「20世紀の中国」
中華民国(1912～49年)の政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。また、中華人民共和国の歩みも講じる。

教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）
※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中華民国の出発と軍閥混戦(1)：袁世凱政権の諸相
- 2回 中華民国の出発と軍閥混戦(2)：北洋軍閥の抗争
- 3回 日本の対華21ヶ条要求
- 4回 新文化運動・五四運動
- 5回 第一次世界大戦下の経済発展
- 6回 戦間期とワシントン体制
- 7回 第一次国共合作と国民革命(1)：国共合作の成立
- 8回 第一次国共合作と国民革命(2)：上海政変と国共分離
- 9回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(1)：柳条湖事件と満州国の成立
- 9回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(2)：西安事変と抗日民族統一政権の成立
- 9回 日中全面戦争の勃発
- 10回 日中全面戦争からアジア太平洋戦争へ
- 11回 国共内戦と中華人民共和国の成立
- 12回 毛沢東時代の中華人民共和国
- 13回 鄧小平と改革開放
- 14回 中華人民共和国と辺境
- 15回 戦後の日中関係

成績評価の方法 /Assessment Method

出席回数が規定内であれば、下記のように評価する。出席回数が規定に照らして不足する場合は評価対象から除外する。
試験...80% 小テスト等...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストとレジュメに目を通して出席すること。授業後に当日学習したテキストとレジュメを学習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

中国近現代史Ⅱ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード /Keywords

中華民国、軍閥混戦、対華21ヶ条要求、新文化運動、五四運動、ワシントン体制、第一次国共合作、国民革命、九・一八事変、日中全面戦争、国共内戦、中華人民共和国、毛沢東、鄧小平、日中関係

イスパニア地域論【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE242M	◎		○		
科目名	ヨーロッパ文化資源論Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

スペイン語を話している国や地域は世界中にたくさんあります。この授業では、そのスペイン語圏の様々な場所が有する文化資源がが今日までにどのように保存・活用されているか、あるいは議論の対象となっているか、ということをご観覧します。授業担当者による講義のほか、スペイン語圏の文化資源について、授業参加者である学生によるプレゼンテーションをしてもらいます。

教科書 /Textbooks

授業担当者が適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 永川玲二『ことばの政治学』筑摩書房、1979。 / 岩波同時代ライブラリー、1995。
- 永川玲二『アンダルシア風土記』岩波書店、1999。
- 増田義郎『インカ帝国探検記』中公文庫、2017(古いものでも同じです)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション：スペイン世界(エル・ムンド・イスパニコ)とは何か
2. スペイン美術館をめぐる
3. フラメンコと闘牛
4. 食と文学
5. スペインの世界遺産など
6. ペドロ・アルモバルの芸術(経歴と作風)
7. ペドロ・アルモバルの芸術(作品)
8. スペイン編、まとめと小テスト、プレゼンテーション
9. ラテンアメリカとの遭遇、文明のホライゾン
10. マヤ文明
11. アステカ文明
12. インカ文明
13. 映画『モーターサイクル・ダイアリーズ』
14. ラテンアメリカの独立、チェ・ゲバラ
15. ラテンアメリカ編、まとめと小テスト、プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み30%、小テスト(2回)30%、プレゼンテーション(1回)40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、指定された書籍等の該当箇所を参照しておくこと。授業後には配布されたレジュメの内容をレビューすること。

履修上の注意 /Remarks

いかなる理由であっても遅刻、欠席が5回に及んだ場合は評価の対象としない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン ラテンアメリカ 文明 文化

教職論 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探究する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる基礎的な資質・能力と教員研修の意義(中教審の答申を踏まえて)
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その1 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その2 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その3 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。それが無い場合には公欠であっても減点になるので留意すること。

教職論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐるとして、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐるとして社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐるとして近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐるとして近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐるとして社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

教育課程論 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原則
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 教育課程の編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) アクティブラーニング
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 国際移動と教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法I【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は中学校・高等学校の英語科教員になるための基礎的な知識と技能を身につける。特に、中学校の英語教育に中心をおき、学習指導案の書き方および基本的な指導技術を学ぶ。

教科書 /Textbooks

【改訂版】『新しい英語科授業の実践』石田雅近・小泉仁・古家貴雄・加納幹雄 著 金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 英語教育の目的
3. 英語の指導法(1) コミュニカティブ・アプローチ以前
4. 英語の指導法(2) コミュニカティブ・アプローチとその後
5. より良い指導のために(1) 音声指導
6. より良い指導のために(2) コミュニケーションにつながる文法指導の基本
7. より良い指導のために(3) コミュニケーションにつながる文法指導(コミュニケーション活動)
8. 評価の方法と学習指導案の書き方
9. 学習指導案の書き方(1)
10. 学習指導案の書き方(2)
 11. 模擬授業の準備
 12. 模擬授業(中学校1年生)
 13. 模擬授業(中学校2年生)
 14. 模擬授業(中学校3年生)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、提出物20%、模擬授業10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定ページを読んでくる。

事後学習 課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は中学校・高等学校の英語教員になるための、基礎的な知識と技能を身につけることを目的とする。特に高等学校の英語教育を中心に、学習指導案の書き方と基礎的な指導技術を学ぶ。

教科書 /Textbooks

【改訂版】『新しい英語科授業の実践』石田雅近・小泉仁・古谷貴雄・加納幹雄・斎藤嘉則著

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
 松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 2012年、630円
 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社
 南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION 第一学習社、2007年、765円
 Onstage English Course I・II 池田書店
 EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂
 田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II 東京書籍、2012年、630円
 山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円
 Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂
 田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II 啓林館 2013年、650円
 Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社
 市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・II" 文英堂
 Genius English Course Revised I・II 大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II 三省堂 2012年、630円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および評価について
2. 第二言語習得と英語教育
3. 4技能統合の理念とタスクの意義 (PCPPモデル)
4. リーディングの理論と実践
5. ライティングの理論と実践
6. 4技能統合の実践方法
7. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の考え方
8. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の書き方
9. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の書き方
10. モデル授業準備
11. モデル授業準備
12. モデル授業(1)
13. モデル授業(2)
14. モデル授業(3)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70%、提出物20%、模擬授業10% 「

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定箇所を読んでくる。
 事後学習 学習課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：道徳教育の変遷①～戦前
- 第3回：道徳教育の変遷②～戦後
- 第4回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第5回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第6回：道徳教育の現代的課題①（グループ討論）
- 第7回：道徳教育の現代的課題②（グループ討論）
- 第8回：道徳教育の現代的課題③（グループ討論）
- 第9回：道徳教育の現代的課題④（グループ討論）
- 第10回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第11回：道徳科における評価
- 第12回：「道徳の時間」の教材研究①
- 第13回：「道徳の時間」の教材研究②
- 第14回：シテイズンシップ教育と道徳教育
- 第15回：対話への道徳教育

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案35%
コメントシート15%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法【夜】

教育の基礎的理解に関する科目等
必修科目

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下の二つである。

- ① これからの子ども達に認められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識と技能を身に付けること。
- ② 「総合的な学習の時間」の意義と目的、また、実際に「総合的な学習の時間」のカリキュラムを実行していく上で求められる参加型学習の指導方法や評価のあり方を学習すること。

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。

そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 改訂版 (2019 有斐閣アルマ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)

高等学校学習指導要領 (平成30年告示 文部科学省)

他にも授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：教育と学習・理論と方法
- 第3回：教育学の思想と体系
- 第4回：学習理論の発展
- 第5回：授業の理論：教師 - 教材 - 生徒
- 第6回：授業の過程：デザイン - 実践 - 評価
- 第7回：情報機器・メディアの活用と課題
- 第8回：到達度評価と観点別評価・新しい評価論
- 第9回：よい授業とはなにか
- 第10回：求められる教師の資質と能力・教師の専門性とは
- 第11回：教材研究：教材開発と学習指導案の作成
- 第12回：総合的な学習の意義と課題
- 第13回：総合的な学習の指導計画と取り扱い
- 第14回：総合的な学習の実践
- 第15回：総合的な学習の時間における学習評価 全体のまとめ
定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (グループワークや質疑などへの参加) (30%)

発表・レジュメ作成 (20%)

定期試験・課題レポート (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料 (レジュメ) を作成してもらう。

また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義の3分の2以上の出席が試験受験の前提となる。

欠席の際は、連絡を入れるようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合的な学習の時間は、各学校や地域ごとに特色ある活動を行っています。どのような実態があるかを考えるためには、他者との交流や対話的な学びが不可欠です。

能動的・積極的な姿勢を身に着けていきましょう。

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業でのミニレポート 20%
定期試験 80%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

特別支援教育論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

本授業での概要は以下の通りである。
 ①特別な支援を必要とする子どもの障害特性や心身の発達を理解するとともに、特別な支援を必要とする子どもの教育課程と支援方法について、その背後にあるインクルーシブ教育の理念も踏まえて検討する。
 ②貧困や虐待的な養育環境に置かれている子どもや母語が日本語ではない子どもなど、多様な「特別な教育的ニーズ」を持つ子どもの抱える問題への理解と支援の課題を考察する。
 ③ 学校での福祉教育や職場体験などで求められる社会福祉施設入所者に対する理解と援助の在り方について、とりわけ認知症の高齢者の問題やその支援の課題について学習する。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 2012 「自閉症スペクトラム障害の子どもへの援助と学級づくり」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文科省特別支援学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

1. オリエンテーション 本授業の進め方
2. 特別支援教育の教育制度と教育課程
3. 発達障害・軽度知的障害の子どもに対する理解と援助
4. 困難な養育環境に置かれた子どもへの理解と支援
5. 聴覚障害の子どもへの理解と支援(外部講師)
6. 母語が日本語ではない子どもたちの理解と支援
7. 性の多様性の尊重の理念に根差した学級活動
8. 特別支援コーディネーターの役割と個別的教育支援計画(外部講師)
9. 肢体不自由・重度心身障害児・者についての理解と支援(外部講師)
10. 知的障害の特別支援学校での教育実践と支援の留意点(外部講師)
11. 学校における福祉教育の課題 - 高齢者・認知症の問題に視点をあてて(外部講師)
12. 肢体不自由児、高齢者に対する介護支援(外部講師による実習)
13. インクルーシブ教育と集団づくり その1 中学校のASD
14. インクルーシブ教育と集団づくり その2 高等学校のASD
15. 全体のまとめ

注 この中の第9回目から第12回目までの授業は「介護等体験事前指導」の授業を兼ねます。
 なお、この4回の事前指導とは別に「介護等体験事前説明会」を7月の月上旬に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート25点、期末試験75点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは早めに読んでレポートにまとめて提出すること。
 2020年度に介護等体験に行く学生は、9回目から12回目の内容を介護等体験ノートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

特別支援教育論は2019年度入学の学生から、教職課程の学生の必修科目になっています。
 ただし、9回目から12回目の授業については、2018年度以前入学生の「介護等体験事前指導」との合同の授業となる点、ご了解いただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は全学の教職課程の学生の必修授業であると同時に、人間関係学科の専門教育科目、地域創生学群のスクールソーシャルワーカー課程の専門科目を兼ねています。
 そのような多様な興味・関心や背景を持つ学生同士の中での学び合いを期待しています。

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 姿勢・運動の障害について
- 第8回 知的障害について
- 第9回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第10回 自閉スペクトラム症について
- 第11回 注意欠如多動症について
- 第12回 限局性学習症について
- 第13回 家族支援について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育以外の社会教育（家庭教育を含む）、それを踏まえた学校教育を含む生涯学習の基礎的内容について説明します。その意義や歴史的背景、法制度、国内外の動向について理解を深め、社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）の役割・状況についても考えます。

「学習権宣言」で述べられた、成り行き任せの客体から、自らの歴史つくる主体へ、という意味と、それを支援する専門性という視点から、生活課題や地域課題の解決に向けた教育・学習について理解を深めます。

そのことを通じて、社会教育、学習活動の支援についての基礎的能力を養います。

授業に含まれる事項は以下の通りです。生涯学習の意義、学習者の特性と学習の継続発展、生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育、生涯学習社会における各教育機能相互の連携と体系化、生涯学習社会の学習システム、生涯学習関連施策の動向、社会教育の意義、社会教育と社会教育行政、社会教育の内容、社会教育の方法・形態、社会教育指導者、社会教育施設の概要、学習情報提供と学習相談の意義等

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 生涯学習・社会教育の意義
- 第 2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第 3回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第 4回 成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第 5回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第 6回 社会教育の歴史と発展-生涯学習関連施策の動向
- 第 7回 社会教育行政と事業 -学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第 8回 社会教育施設 -地域公民館
- 第 9回 公民館の実践 -社会教育と地域づくり
- 第10回 社会教育指導者と事業の連携・発展
- 第11回 社会教育施設-博物館
- 第12回 社会教育施設と生涯学習施設
- 第13回 社会教育施設-図書館
- 第14回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第15回 住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。教職に関する科目として受講する場合、学校との連携、学校教育以外の教育活動を意識して受講すると視野が広がります。専門科目として受講する場合、権利としての社会教育・生涯学習という視点で考えると、理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生涯学習学 【夜】

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- ・ 生命と環境に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、表現できる。
- ・ 身近な課題に関して積極的に調べ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(課題提出を含む)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。

事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。
また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑥・⑩山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言の回数やその内容：50%
レポート試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

環境問題概論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

生命科学入門 【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0200F	◎		○		○
科目名	生命科学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- ・ 生命科学に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連テーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|---------------------|------------------|
| 1回 | ガイダンス | |
| 2回 | 体を作る物質(1)細胞の構成成分 | 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】 |
| 3回 | 体を作る物質(2)食物分子と代謝 | 【酵素】【触媒】 |
| 4回 | 体を作る物質(3)遺伝物質DNA | 【二重らせん】 |
| 5回 | 体を作るしくみ(1)遺伝子発現 | 【セントラルドグマ】 |
| 6回 | 体を作るしくみ(2)遺伝子でわかること | 【ゲノム】【体質】 |
| 7回 | 体を作るしくみ(3)発生と分化 | 【転写因子】【胚】 |
| 8回 | 細胞の社会(1)細胞の増殖 | 【細胞周期】【細胞死】 |
| 9回 | 細胞の社会(2)シグナル伝達 | 【受容体】【シグナル分子】 |
| 10回 | 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん | 【がん遺伝子】 |
| 11回 | 体を守るしくみ(1)寿命と老化 | 【染色体】【テロメア】 |
| 12回 | 体を守るしくみ(2)免疫とウイルス | 【ウイルス】【抗体】 |
| 13回 | 体を守るしくみ(3)私たちと細菌 | 【細菌】【腸内細菌】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞 | |
| 15回 | 質疑応答・まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加(毎回のMoodle課題提出を含む)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

3. すべての人に健康と福祉を

国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL110F	◎		○		○
科目名	国際学入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

安全保障論 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

安全保障論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面（エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障）
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面（国防、日米同盟、国際貢献）
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に着けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて世界（地球）特講（テロリズム論）を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN001F	◎		○		○
科目名	グローバル化する経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨンーグローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【人口減少社会】【インバウンド】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【外部効果】【公共ガバナンス】
- 10回 地域政策と国際化(1)【交流人口】【インバウンド振興】
- 11回 地域政策と国際化(2)【越境する地域問題】【政策手法の変化】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバル化する経済【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

キーワード /Keywords

近代史入門【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らずに、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、2020年、税別1300円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。ノートをしっかりとって下さい。最新の研究成果を用いて講義を進めます。

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS200F	◎		○		○
科目名	可能性としての歴史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【「最終的解決」】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所を目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。
ノートはしっかりとって下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アカデミック・スキルズI【夜】

担当者名 /Instructor 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の3点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。
- ・ 他者とコミュニケーションを取りつつ、協同して作業を行うことができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー 1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー 2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー 3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー 4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー 5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題への積極的な参加 ... 70%

宿題や振り返りレポート ... 30%

ただし、授業中に実施する情報リテラシー（情報モラル・情報セキュリティ、文書作成・表計算）の必須課題に合格しなければならない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

アカデミック・スキルズI【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、グループディスカッションや各回に適したワーク、質疑応答などを繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

情報社会への招待【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。

その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4．質の高い教育を，SDGs 8．働きがい・経済成長，SDGs 9．産業・技術革命，SDGs 10．不平等をなくす，SDGs 17．パートナーシップ

コンピューターリテラシー 【夜】

担当者名 /Instructor 古川 洋章

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF101F		◎			
科目名	コンピューターリテラシー		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、コンピューターやインターネットを正しく扱うための知識や技術を学習し、情報社会において自らの考えや判断を表現・伝達する手段として活用する能力を身につけることです。そのため、本授業では実際にコンピューターを操作しながら、以下のような項目を達成できる技能の習得を目指します。

【情報モラル・情報セキュリティ】

- ・ インターネットにおけるリスクを把握し正しい使い方について説明することができる
- ・ 著作権と引用のルールについて説明することができる

【電子メール】

- ・ 電子メールの特性および仕組みについて説明することができる
- ・ ビジスマナーを意識した電子メールの作成・送受信ができる【文章作成】
- ・ 基礎的な文章の作成ができる
- ・ 文章作成ソフトの機能を活用した文章の装飾ができる
- ・ 長文レポートの作成ができる

【表計算・グラフ作成】

- ・ 基礎的な表の作成ができる
- ・ 数式や関数を用いたデータの集計ができる
- ・ グラフの作成ができる
- ・ ある条件に応じて出力結果を変えることができる

なお、本授業は初心者を対象としています。

教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』 FOM出版、2,000円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コンピューターの操作方法
- 3回 情報モラル・情報セキュリティ：インターネットにおけるリスクとコミュニケーション
- 4回 電子メール：大学における電子メール
- 5回 文章作成1：文章作成の基本操作
- 6回 文章作成2：文章作成ソフト機能の活用
- 7回 文章作成3：レポート作成
- 8回 文章作成4：文章作成練習
- 9回 演習1：文章作成
- 10回 表計算・グラフ作成1：表作成の基本操作
- 11回 表計算・グラフ作成2：データ集計・グラフ作成
- 12回 表計算・グラフ作成3：条件に応じた出力
- 13回 表計算・グラフ作成4：表計算・グラフ作成練習
- 14回 演習2：表計算・グラフ作成
- 15回 ふり返し・まとめ

コンピューターリテラシー 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ インターネット・情報モラル・情報セキュリティに関する課題...15%
- ・ 電子メールの課題...10%
- ・ 文章作成演習の課題...25%
- ・ 表計算・グラフ作成演習の課題...25%
- ・ 授業支援ツールを用いた授業への積極的な参加...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて予習してください。また授業終了後には、パソコン自習室や自身のパソコン等で積極的に復習してください。

履修上の注意 /Remarks

コンピューターの基本的な操作（キーボードによる文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすいです。また、受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、初心者を対象に、情報社会においてコンピューターやインターネットを正しく扱うための基本的な知識や技術について学習し、活用する能力の体得を目指します。実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に練習に取り組む姿勢が大切です。わからないことがあれば、随時、質問をしてください。
なお、第1回目の授業に必ず出席してください。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し受講可能な学生を決定します。詳細は、第1回目の授業中に説明します。

キーワード /Keywords

文章作成、表作成、グラフ、電子メール、情報モラル、情報セキュリティ

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』(朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。¥2700 + 税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 / Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代を生きるわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」がわかるわけでもありません。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるのではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、嘔むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

「こころ」は目に見えるものではないので、心理学では人の行動を観察することから始めます。観察するためには、行動を観察するだけでなく、質問にハイ・イエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難を抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から見た「こころ」がこんなにも違って見えるのかについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 福田恭介 (2018) ベアレントトレーニング実践ガイドブック - きつとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版 ○○行場次朗・箱田裕司 (2014) 新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 三浦麻子・佐藤博 (2018) なるほど！心理学観察法 北大路書房
- 丸野俊一・子安増生 (1998) 子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- やまだようこ (1987) ことばの前のことば 新曜社
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編 (2006) ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち。ミネルヴァ書房
- 神奈川LD協会編 (2006) ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1：ものが見えるとは？
- 3: 知覚2：色はなぜ見える？
- 4: 知覚3：形はなぜ見える？
- 5: 知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
- 6: 目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9: 注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
- 13: 発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14: 発達3：発達に苦しさを抱えるのはなぜ？
- 15: まとめ：いろいろな「こころ」の側面

現代人のこころ【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント：30点
レポート：30点
期末試験：40点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

こちらからのコメントへの回答を参考にしながら、もっとも関心のある本やウェブサイトを読んで、所定の書式のレポートに要約し、200字程度のコメントを書いてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書いてもらいます。
2. 次の時間、コメントにはできるだけ回答したいと思います。
3. 回答内容には、関連する本やウェブサイトを紹介しますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようにいろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚，目の動き，注意，短期記憶，長期記憶，ワーキングメモリ，心の発達，発達障害

文化を読む【夜】

担当者名 /Instructor	佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科											
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年			
対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT001F			◎		○
科目名	文化を読む		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

文化を研究するうえで、解釈する＝読む行為は、分野をこえる基本的な営みである。本講義では、さまざまな人間の表現をとりあげて、人文科学的な知見からどのようにそれが読み解けるのかを示していく。文学研究、宗教研究、異文化間教育といった専門的知見から、その基本的な知識と方法を提示してみたい。“いま”、“ここ”にいる“わたし”にとって、異文化は時空をこえてひろがっている。そのことに鋭敏になるための気づきを用意するので、受講者は文化を読み解く柔軟な視点・姿勢を獲得してほしい。

◎宗教

宗教は文化の重要な構成要素であり、人間社会の価値観と密接な関係にある。我々にとってなじみ深い神道を取り上げ、他宗教との比較の観点を交えながらわかりやすく講義したい。

◎メディア

人間の生活はさまざまなメディアに媒介されて成立しています。本講義では異なるメディア間の表現比較、歴史的変遷の検討をおこないながら、われわれがなぜその表現にひかれてしまうのかを考えていきます。

◎日本近現代文学および出版文化

日本の文学・出版物とはいえ、読めばわかるというものではない。明治・大正・昭和時代ともなれば、もはや異文化である。同時代の文化について学びながらテキストと対話する基本姿勢を身につけてもらいたい。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しない。授業担当者が必要に応じて資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「宗教」の講義についての概説とレポートの指示
- 第3回 世界観をめぐって① 『旧約聖書』の「創世記」とキリスト教の世界観
- 第4回 世界観をめぐって② 仏教の世界観
- 第5回 メディア表現の比較にむけて
- 第6回 作品研究(導入)
- 第7回 作品研究(鑑賞)
- 第8回 作品研究(比較と分析)
- 第9回 イメージを読む(導入)
- 第10回 イメージを読む(鑑賞と比較)
- 第11回 イメージを読む(分析)
- 第12回 安部公房「棒」の解釈
- 第13回 乙一「陽だまりの詩」の解釈
- 第14回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を知る)
- 第15回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を読み解く)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート＝100% (宗教、メディア、文学に関する3つのレポートすべてを提出しなければ、評価の対象とはならない)

文化を読む【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、授業担当者が講義中に指示する。
事後学習は、各回の授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等に関する質問は、コーディネーターの佐藤に質問すること。
講義内容に関する質問は、各回の授業担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

日本近現代文学、宗教、メディア

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR003F			◎		
科目名	現代正義論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

現代正義論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

倫理思想史【夜】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR005F			◎		
科目名	倫理思想史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

近代では倫理は「倫理学」として独立した分野になっていますが、洋の東西を問わず、倫理・道徳は宗教（聖）、政治的共同体と密接な関係をもっています。また西欧においては、道徳的なものは美をもつとされ、「美しき魂」「美しき国家」の理想がとくにドイツ思想において重視されてきました。

この講義では、倫理・道徳と宗教（聖）、倫理・道徳と自然法、倫理・道徳と美（芸術作品）との分裂や融合のせめぎ合いの歴史を、近代の思想をたどることによって、明らかにします。そのことによって、現代において、法や社会を見る目が涵養され、自分がどのように行動し、判断すればよいかの「判断力」を養成する一助となることをめざします。

教科書 /Textbooks

各講義でレジメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 インTRODクシヨN：カール・シュミットと「中立性の時代」
- 第2講 第1部 聖と善の分離
(1) ルター：宗教の内面化
- 第3講 (2) ホッブズ：宗教と国家の分離、「暗黒の王国」と宗教的権威に変わる「主権」=「可死の神」
- 第4講 (3) スピノザ：民衆の道徳としての宗教、『神学・政治論』
- 第5講 (4) カント：理神論を超える理性宗教、『理性の限界内における宗教』
- 第6講 (5) フィヒテ：理性宗教の確立「生きた道徳法則が宗教」
- 第7講 第2部 法と善と聖の分離とせめぎあい
(1) ルソー：自律道徳のための法としての『社会契約論』
- 第8講 (2) カント：自由と法、「理論と実践」
- 第9講 (3) フィヒテ：フランス革命の哲学と『自然法の基礎』
- 第10講 (4) カール・シュミット：主権の不可侵性、「政治神学」
- 第11講 第3部 美と人倫、「美しき共同体」を求めて
(1) カント：美と目的論、『判断力批判』
- 第12講 (2) シラー：美と人倫、『カリアス書簡』と『美的教育書簡』
- 第13講 (3) ヘルダーリン：精神の詩学、『ヒュペーリオン』と『エンペドクレス』
- 第14講 (4) マルクス：物象化とコミュニケーション主義としてのコミュニズム
- 第15講 (5) ウィリアム・モリス：美と工芸のコミュニズム

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート60パーセント。講義中でのリフレクション・カード40パーセント。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、参考文献を挙げるので、取捨選択して読んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

交通機関の遅れなどやむをえない場合（要証明書）を除いて、30分を超えての遅刻入室は認めません。

倫理思想史 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい授業を心がけます。質問、議論を歓迎します。

キーワード /Keywords

戦争論 【夜】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210F	○		◎		○
科目名	戦争論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT110F	○		○	◎	
科目名	異文化理解の基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容と近代

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教とコミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題の不正、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要になった時に努力すればすぐ入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs 不平等をなくす

市民活動論【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」「社会参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。
「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 20%
期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

地域福祉論【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

志賀信夫・ 畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・ 行政の今とこれから』旬報社 1,400円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編（2015）『新・ 社会福祉士養成講座〈9〉地域福祉の理論と方法-地域福祉論』中央法規
難波利光・ 坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・ 福祉・ 国際視点からのアプローチ-』大学教育出版
その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 ゲストスピーカー
- 5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 6回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出・・・40% 期末試験・・・60%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。
事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ（もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」）でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

共生社会論【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW200F	○		○	◎	
科目名	共生社会論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴(医療モデル的作品)【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴(文化モデル的作品)【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

メンタル・ヘルス【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達の視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs(持続可能な開発目標)の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%) ②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

メンタル・ヘルス【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルス【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自立的行動力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

キーワード /Keywords

ミクロ経済学入門【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN111M	○	◎	○		
科目名	ミクロ経済学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第3版) 東洋経済新報社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート課題：20% 期末試験：80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教材と進度に応じて各教員が指示しますのでそれに従ってください。

ミクロ経済学入門 【夜】

履修上の注意 /Remarks

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学入門【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN112M	○	◎	○		
科目名	マクロ経済学入門			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学Ⅱで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション (マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利子率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

マクロ経済学入門【夜】

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義後に講義資料を見直し、練習問題を解くなどして理解を深めて下さい。
また教科書の講義内容に該当する箇所を読むことで理解を深めることができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords